

# 01

題材名 「よく聞いて、じこしょうかい」(第1時/全1時間)

目標 簡単な自己紹介をしたり、友だちの自己紹介を聞いたりすることができる。  
◎積極的に相手を見て話したり聞いたりし、自己紹介をしようとする。

領域等 A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「よく聞いて、じこしょうかい」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 わになってじゅん番にじこしょうかいをしましょう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。  ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③好きなものを1つ決めさせる。  ○決めかねている児童がいたら、「好きな食べ物は？」等具体的に尋ねて、不安を取り除くように支援する。  ④輪になって、順番に好きな物を1つずつ紹介させる。  『～が好きな～さんのとなりの、～の好きな～です。』のように言いながら自己紹介をしましょう。  ・学年始めの国語の学習になるため、和やかな雰囲気で行えるように心掛けたい。 ・話者の目印になる物(ボール等)を用意しておく。  ⑤ 他の方法で、自己紹介をさせる。  ・例として、好きな物を2つずつ紹介したり、これからしたいことを話したりさせるのもよい、	・好きなものを1つ考える。  ・前の人の話をくりかえしてから、自分のことを話す。  ・他の方法で自己紹介をする。
終末 5分	⑥ 本時の学習内容を確認させる。  ・p5「2年生の学びをたしかめよう」を参考に既習事項の確認も併せて行う。  「自分の好きなものを話したり、友だちの好きなものが分かりましたか。」	・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○学年初めの定着度の確認について

- ・「話すこと・聞くこと」に関する確認事項として、話したいことをどれぐらい思い浮かべ、順序を考えながら相手に分かるように話す力がついているか。
- ・「書くこと」の確認事項として①簡単な組み立てが考えられるか  
②語と語、文と文の続き方に注意して書いているか。  
③人に読んでもらうことを意識して読み返し、内容を確認しているか。
- ・「読むこと」の確認事項として①順序や画面の様子などに気をつけながら読んでいるか。  
②語や文のまとまりやを意識して音読しているか。

以上の項目について初めの数週間で確認しておくといい。

## 板書例

- ① 題材名「よく聞いて、じこしょうかい」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ すきなものを1つ決めさせる。
- ④ 輪になって、順番に好きな物を1つずつ紹介させる。  
「『～が好きな～さんのとなりの、～の好きな～です。』のように言いながら自己紹介をしましょう。」
- ⑤ 他の方法で、自己紹介をさせる。

よく聞いて、じこしょうかい

わたなつてでじゅん番にじこしょうかいをしましょう。

じこしょうかいのしかた

① 話すことをきめる。

② わになって、じゅん番にじこしょうかいをする。

じこしょうかいをするとき

① 話をしている人の話をよく聞く。

② 短い言葉で、はっきりと話す。

- ⑥ 本時の学習内容を確認させる。  
「自分の好きな物を話したり、友だちの好きな物が分かりましたか。」

よく聞いて、じじいしょうかいをしよう

W  
01

三年 組 名前( )

めあて

--

(1)じじいしょうかいのしかたをたしかめましょう。

(2)じじいしょうかいをするとき、いざいけいをするときをまとめてめましょう。



# 1

**題材名** 「どきん」(第1時/全1時間)  
**目標** 様子が表れるように「どきん」の全文を声に出して読むことができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「どきん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ようすが表れるように声に出して読もう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ 「どきん」を範読する。 ④ 「どきん」を音読させる。 「口をはっきり開けて、ゆっくりと読みましょう」 ・各自読み → 一斉読み ⑤ 「どきん」を視写させる。 ⑥ 擬声語や擬態語に注意しながら全文を音読させる。 「『つるつる』や『ゆらゆら』はどんなふうを読むとよいでしょうか」	・範読を聞く。 ・全文を音読する。 声の大きさや速さに気をつけて音読する。 ・全文をワークシートに視写する。 ・擬声語や擬態語の様子が表れるように気をつけて音読する。
終末 5分	⑦ 本時の学習を確認させる。 「ようすが表れるように声に出して読むことができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

- 詩を読む楽しさを
  - ・全員で5～6回音読をさせながら、詩の持つ「リズム」を意識させたい。そのうえで、今後は自分で考えながら読むようにと呼びかけ、自分の読み方を意識させたい。
  - ・表情のある読み方をする児童を撮り上げ、意欲をもたせる。
  - ・ゆっくり、はっきり読むことを心がけさせる。
- 音読の定着を目指して
  - ・作品を黙読するだけでは、作者の対象把握の感性や言葉に対する思いなどに気がつかないことが多い。自分で実際にとらえ、表現してみることによって、一つ一つの言葉の意味や役割が見えてくる。
  - ・児童全員で読む、グループで読む、個人で読む、暗唱する、身体表現をしながら読むなど、いろいろな読み方を意識させながら、何回も音読させる。

## 板書例

- ① 題材名「どきん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③ 「どきん」を範読する。
- ④ 「どきん」を音読させる。
  - 「口をはっきり開けて、ゆっくりと読みましょう」
  - ・各自読み → 一斉読み

- ⑤ 「どきん」を視写させる。
- ⑥ 発声語や擬態語に注意しながら全文を声に出して読む。
  - 「『つつる』や『ゆらゆら』はどんなふうに読むとよいでしょうか」

## 板書例

本文  
掲  
示

どきん

ようすが表れるように声に出して読もう

- ⑦ 本時の学習を確認させる。
  - 「ようすが表れるように声に出して読むことができましたか」

ふね

三年 組 名前

ふね

Empty rectangular box for writing names.

Lined writing area with horizontal lines and dashed midlines for handwriting practice.

めあて

よろすが表れるように声に出して読もう

さわってみようかなあ つるつる

おしてみようかなあ ゆらゆら

もすこしおそうかなあ ぐらぐら

もいちどおそうかなあ がらがら

たおれちやつたよなあ えくく

いんりよくかんじるねえ みしみし

ちきゆうはまわってるら ぐいぐい

かせもふいてるよお そよそよ

あるきはじめるかあ ひたひた

だれかがふりむいた！ どきん



### 3

**題材名** 「きつつきの商売」（第1時／全3時間）  
**目標** 情景を叙述をもとに想像しながら読むことができる。  
**領域名** C 読むこと

#### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「きつつきの商売」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">場面の様子を想像しながら読もう。</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ 題名からどんな物語か想像させる。 「どんなお話だと思いますか。想像しましょう」 ④ 範読を聞かせる。 「様子を思い浮かべながら聞きましょう」 ・CDがあれば聞かせて、有効に活用する。 ⑤ 「きつつきの商売」について読み取らせる。 「『きつつきの商売』ってどんな商売でしょう」 ・「の」の役割に注目し、きつつきならではの商売に関心を持たせる。 ⑥ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる。 「読み方を確認しましょう」 「手を出して一緒に書きましょう」 「ノートに書きましょう。p.152 に書き順が載っています。」 ⑦ 言葉の意味を知らせる。 「次の言葉の意味を確認しましょう」 商売／えりすぐり／こしらえる／きざむ／真っ先に しょう知／みき／こだま／うっとり	・題名からどんな物語か想像する。 ・範読を聞く。 ・「きつつきの商売」について読み取る。 ・新出漢字・読み替えの漢字を学習する。 ・言葉の意味を知る。
終 末 5 分	⑧ 本時の学習の確認をさせる。 「場面を想像しながら読むことができましたか」 ⑨ 次時の予告をする。	・本時の学習の確認をする。 ・次時の見通しを持つ。

#### 指導のポイント

- ・新出漢字はまず読めるようにする。前学年までに配当されている漢字は完全に書けるようにして、文や文章の中で使うことができることを目標とする。新出漢字の書き取りは漸次行えばよいことになっている。
- ・新出漢字が多い教材は、画数の多い漢字や児童が間違えやすい漢字を授業で取り上げる。

板書例

- ① 題材名「きつつきの商売」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・「ばめんの様子をそぞうしながら読もう。」
  - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③ 題名からどんな物語か想像させる。  
「どんなお話だと思いますか。想像しましょう」
- ④ 範読を聞かせる。  
「様子を思い浮かべながら聞きましょう」

- ⑤ 「きつつきの商売」について読み取らせる。  
「『きつつきの商売』ってどんな商売でしょう」

板書例

きつつきの商売

ばめんの様子をそぞうしながら読もう

どんなお話だろう

きつつきの商売 …… 音を聞かせること

新しく習う漢字

商・動・物・開・族・葉・実・所・  
面・登・事

言葉の意味

商売 …… 物の売り買いで利えきを上げる仕事

えりすぐり …… 特にえらばれたよいもの

こしらえる …… 形のあるものを作る

きざむ …… 細かく切る

真っ先に …… いちばん先に

しろう知 …… あい手の言い分を聞き入れること

みき …… じゅ木の根から上にのびて枝の出る太い部分

こだま …… 声や物音が、山や谷にぶつかり、はねか

えって聞こえること。山びこ。

うっとり …… このましいものに心をうばわれ、いい気

分になること

- ⑥ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる
- ⑦ 言葉の意味を知らせる。



きつつきの商売 1

三年 組 名前

教材見本

めあて  
ばめんの様子をそうぞうしながら読もう

「きつつきの商売」は何でしょう。  
音を聞かせること  
新しく習う漢字

商	物	放	実	面	事
動	開	葉	所	登	

言葉の意味

商売：物の売り買いで利えきを上げる仕事  
 えりすぐり：特にえらばれたよいもの  
 こしらえる：形のあるものを作る  
 きざむ：細かく切る  
 真つ先に：いちばん先に  
 しよう知：あい手の言い分を聞き入れること  
 みき：じゆ木の根から上にのびて枝の太い部分  
 こだま：声や物音が、山や谷にぶつかり、はねかえつて聞こえること。山びこ。  
 うっとり：このましいものに心をうばわれ、いい気分になること

# 4

**題材名** 「きつつきの商売」（第2時／全3時間）  
**目標** 1場面の登場人物について想像しながら読むことができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「きつつきの商売」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1場面の登場人物について想像しよう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ P.16, L.1～P.19, L.3を読ませる。 各自読み → 一斉読み ・範読に続いて読ませると効果的である ④ 場面数と登場人物を確認させる。 「いくつかの場面がありますか。また、登場人物を書き出して、性格などを想像しましょう」 ⑤ 野うさぎが注文した音や場面を想像させ、きつつきの「おとやの日記」を書かせる。 「おとやの日記を書きましょう」 ・お客さまとご注文は文章から読み取らせる。 ・お客さまの感想は、叙述をもとに、黙って聞いている野うさぎの気持ちを考えさせる。 ・わたし（きつつき）のひと言は、きつつきになったつもりで、「おとや」の店を開いて、初めてのお客さんが来たときの気持ちや、「おとや」の店がうまくいくことへの心配などを想像して書かせる。	・1場面を読む。 ・場面数と登場人物を確認する。 場面数 2場面 登場人物 きつつき、野うさぎ、野ねずみの家族 ・きつつきの「おとやの日記」を書く。
5分	⑥ 本時の学習を確認させる。 「1場面の登場人物について想像することができましたか」	・本時の学習を確認する

## 指導のポイント

○板書するときに大切にしたいこと

- ・ていねいに書く。
- ・色チョークや線などを使って、学習内容が児童によく分かるようにする。
- ・文字の大きさを工夫する。一行の文字数は児童の使っているノートの文字数と同じにするとよい。

○想像力を働かせて

- ・一人読み—指名読み—役割読み等、読む活動を取り入れる。
- ・P.18, L.10「コーン」をどう読むかを考え、一人一人挑戦して聞き合うようにする。
- ・言葉から情景を思い浮かべ、この場面の、簡単な場面絵を描かせる。

板書例

- ① 題材名「きつつきの商売」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・「1ばめんの登場人物についてそうぞうしよう」
  - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③ P16L1～P19L3を読ませる。  
各自読み → 一斉読み
- ④ 登場人物を確認し、想像させる。  
「この場面にはどのような登場人物が出てきましたか。また、その登場人物の性格などを想像してまとめましょう」

- ⑤ 野ねずみの親子が注文した音や場면을想像し、きつつきの「おとやの日記」を書かせる。  
「おとやの日記を書きましょう」

板書例

きつつきの商売

「おとや日記」を書こう。

四月〇日 天気 晴

お客さま 野うさぎ

ご注文 ぶなの音 四分音ぶ分

お客さまの感想

ぶなの木の音は、とてもよい音でした。四分音符分よりも長く感じました。また、聞きたいなと思いました。

わたしのひと言(一日をふりかえって)

初めてのお客さんは、野うさぎでした。よい音が出せるか心配したが、うまくいったようでほっとしました。あしたのお客さんはだれだろう。

登場人物

きつつき、野うさぎ、野ねずみの家族	
一ばめん…	P.19 L.4 ~ P.25 L.11
二ばめん…	P.16 L.1 ~ P.19 L.3

一ばめんの登場人物についてそうぞうしよう。

- ⑥ 本時の学習の確認をさせる。  
「1場面の登場人物について想像することができましたか」

# せつせきの商売2

三年 組 名前

めあて

二つの場面に分けてみよう。

一場面 …

二場面 …

登場人物

「おとや日記」を書こう。

月	日	天気
お客さま		ご注文
お客さまの感想		
わたしのひと言		

# きつぎの商売 2

教材見本

二年 組 名前

めあて

一ばめんの登場人物についてそうぞうしよう。

二つの場面に分けてみよう。

一場面 … P.8 L.1 ～ P.11 L.3      一場面 … P.12 L.1 ～ P.18 L.10  
登場人物

きつぎ、野うとぎ、野ねずみの家族

「おとや日記」を書こう。

四月 ○日 天気 晴

お客さま 野うとぎ ご注文 ふなの音 四分音ぶ分

お客さまの感想

ふなの木の音は、とてもよい音でした。

四分音符分よりも長く感じました。また、聞きたいなと思いました。

わたしのひと言

初めてのお客さんは、野うとぎでした。よい音が出せるか心配したが、うまくいったようではつとしました。あしたのお客さんはだれだろう。



# 5

**題材名** 「きつつきの商売」（第3時／全3時間）

**目標** 読みたいところを選び、場面の様子がよく分かるように音読することができる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「きつつきの商売」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">好きな場面を工夫して読もう。</div> ・学級の人数や到達度、招待しているか、していないか等により、発表会の時間を調整する	・本時のめあてを知る。
展 開 30 分	③ 全文を読み、好きな場面を見つけさせる。 「音読したいところを見つけましょう」 ・1の場面、2の場面の好きなほうを選ばせる。 （人数が多い場合は1ページ程度の分量にして、全員発表できるように配慮する。） ④ 読み方の工夫について話し合わせる。 「どんな読み方の工夫をすればよいでしょう」 ・同じ場面選択グループを作り、どこをどのように読むか考えさせる。 ⑤ 読みの練習をさせる。 「グループごとに練習しましょう」	・全文を読み、好きな場面を見つける。 ・読み方の工夫について話し合う。 声の大きさ 読む速さ 気持ちのこめ方 発音のし方 ・読みの練習をする。
終 末 10 分	⑥ 各グループで発表し、お互いに評価し合わせる。 「グループごとに発表してもらいましょう」「よく聞いて、よかったところを見つけましょう」 ・読み方の工夫に出された観点を確認しあい、聞く観点とさせる ・他のグループの工夫しているところを見つけさせる。 ⑦ 本時の学習を確認させる 「工夫して読むことができましたか」	・各グループで発表し、お互いに評価し合う。 ・本時の学習を確認する

## 指導のポイント

○今までの学習をふり返る

- ・1. 2年生の学習を振り返り、全員で確認する。

はっきり読む／大きな声で読む／ゆっくり読む／漢字など、間違えずに読む／「、」や「。」で休んで読む

○3年生の音読のめあてをもたせる

- ・児童の発言を認めながら、1・2年生の学習に3年生のめあてを加えていく。

○音読のポイントをおさえる

- ・場面の様子や、登場人物の気持ちに応じた声の大きさ・速さ・間の取り方があることに気づかせる。

# 板書例

- ① 題材名「きつつきの商売」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③ 全文を読み、好きな場面を見つけさせる。  
「音読したいところを見つけましょう」
- ④ 読み方の工夫について話し合わせる。  
「どんな読み方の工夫をすればよいでしょう」

- ⑤ 読みの練習をさせる。  
「グループごとに練習しましょう」
- ⑥ 各グループで発表し、お互いに評価し合わせる。  
「グループごとに発表してもらいましょう」  
「よく聞いて、よかったところを見つけましょう」

## 板書例

六班	五班	四班	三班	二班	一班	よかったところを見つけよう。	・ はつ音のし方 ・ 気もちのこめ方 ・ 読むはやさ ・ 声の大きさ	読みのくふう	すきなばゆんをくふうして読もう。	きつつきの商売
----	----	----	----	----	----	----------------	---	--------	------------------	---------

- ⑦ 本時の学習を確認させる。  
「工夫して読むことができましたか」



# きつきの商売3

教材見本

三年 組 名前

めあて

すきなぼめんをくふうして読もう。

読みのくふう

- ・ 声の大きさを
- ・ 読むはやすさを
- ・ 気持ちのこめ方を
- ・ はつ音のし方を

よかったところを見つけよう

はん	よ っ た と こ ろ
一	大きな声で元気がよかった。よく気持ちをこめていた。
二	ゆつくりと読んでいた。言葉がはつきりしていた。
三	キツツキの気持ちがよく出ていた。はやすさがよかった。
四	言葉がはつきりとしていた。気持ちがよくこもっていた。
五	気持ちを込めて、読んでいた。声の大きさがよかった。
六	野ねずみの親子の気持ちがよく出ていた。

# 06

題材名 「図書館たんていだん」(第1時/全1時間)

目標 読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。  
 ◎学習課題に沿って、図書館利用に関わることを進んで知ろうとすることができる。

領域等 知識及び技能

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「図書館たんていだん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 図書館のくふうや本のさがし方について考えよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ P30 を読み、図書館では、本が内容ごとに分類されて置かれていること知らせる。 ○授業校に図書館が附属している場合は、現地で確かめながら学習する。 図書館(室)が無い場合は、教科書の写真を活用する。 ・併せて掲示物や案内方法などの工夫についても触れたい。 ④実際に図書館の中では、どの棚に、どんな種類の本があるのかを調べさせる。 ・事前に簡単な図書館(室)の見取り図を作成しておいて、そこに調べて分かったことを記入させても良い。 ⑤ P31 の本がどこの書棚にあるのか予想させてから調べさせる。 ・どのようにすると早く見つけられるのか、児童同士で情報を共有させたい。	・図書館では、本が内容ごとに分類されて置かれていること知る。 ・どの棚に、どんな種類の本があるのかを調べる。 ・P31 の本がどこの書棚にあるのか予想してから調べる。
終末 5分	⑥新出漢字の読み書きを練習させる。 ・「館」「号」を練習させる。 ⑦本時の学習内容を確認させる。 「図書館の工夫や本の探し方が分かりましたか。」	・新出漢字の読み書きを練習する。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○ 図書館利用指導について

・3年生では、図書館の使い方、自分で調べたいことを図書館でさがす方法を学ばせる。本時は、そのための最初の指導となる。特に分類方法については、教科書で例示されている十進分類方法をもとにしっかりと理解させたい。

## 板書例

- ① 題材名「図書館たんていだん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ P30を読み、図書館では、本が内容ごとに分類されて置かれていること知らせる。
- ④ 実際に図書館（室）の中では、どの棚に、どんな種類の本があるのかを調べさせる。
- ⑤ P31の本がどこの書棚にあるのか予想させてから調べさせる。

図書館たんていだん

図書館のくふうや本のさがし方について考えよう。

本の分類の仕方

- ① 十種類に分けている。
- ② 例：生き物を調べたい時は、4番の本  
スポーツを調べたい時は、7番の本

図書館の工夫

- ① 図書館の地図
- ② おすすめの本コーナー

〈新しく習う漢字〉

館号

- ⑥ 新出漢字の読み書きを練習させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「図書館の工夫や本の探し方が分かりましたか。」

図書館たんていだん

W  
06

三年 組 名前 (

めあて

--

(1)本のぶんるいのしかたをまとめよう。

(2)図書館のくふうをさがしてまとめよう。

新しく習う漢字

館								
				号				

図書館たんでいだん（記入例）

w  
06

三年 組 名前（

めあて

図書館のくふうや本のさがし方について考える。

（1）本のぶんるいのしかたをまとめましょう。

① 十種類に分けている。

② 例：生き物を調べたい時は、4番の本

スポーツを調べたい時は、7番の本

（2）図書館のくふうをさがしてまとめましょう。

① 図書館の地図がはつてある。

② おすすめの本のコーナーがある。

新しく習う漢字

館							
	号						



# 07

題材名 「国語辞典を使おう」(第1時/全1時間)

目標 辞書の使い方を理解し正しく使うことができる。  
 ◎学習課題に沿って、進んで辞書の使い方を理解し使おうとすることができる。

領域等 知識及び技能

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「国語辞典を使おう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 国語辞典の使い方を知り、言葉を調べよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ P32 を読み、国語辞典を使う目的を考えさせる。 ○辞書は是非、一人一冊ずつ用意したい。授業校の図書館にある場合をそれを活用。無い場合は、保護者に協力を仰ぎ用意してもらおう。 ④ P32 「国語辞典のれい」を活用して、辞書の仕組みについて理解させる。 ・それぞれの見出し語に主に、漢字での書き表し方、言葉の意味、言葉の使い方の3つがまとめられていることをしっかりと理解させたい。 ⑤ P33 を読み、見出し語の見つけ方について理解させる。 ・主に、3つのルールに沿って、見出し語が順序良く並べられていることを理解させたい。 ⑥ P34 の課題に取り組みさせて、辞書の使い方に慣れさせる。 「問題を解きながら、辞書の使い方に慣れましょう。」 ・時間の関係で、3つめの課題は、省略してもよい。	・国語辞典を使う目的について考える。 ・辞書の仕組みについて理解する。 ・見出し語の見つけ方について理解する。 ・辞書を使って言葉を調べる。
終末 5分	⑥新出漢字の読み書きを練習させる。 ・使、深、意、味、漢、調、由、温、酒、問、題、章平、を練習させる。 ⑦本時の学習内容を確認させる。 「国語辞典を使った言葉の調べ方が分かりましたか。」	・新出漢字の読み書きを練習する。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○ 国語辞典の指導について

- ・あらゆる教科の学習において、語彙を増やしたり、豊かにしたりするところは、重要な要素の一つである。児童は、本時で初めて、辞書についての学習をする。これからの学習をより充実させるためにも、分からない言葉や知らない言葉があっても辞書を使うことで、自分で調べられるという自覚をもたせたい。

## 板書例

- ① 題材名「国語辞典を使おう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ P32を読み、国語辞典を使う目的を考える。
- ④ P32「国語辞典のれい」を活用して、辞書の仕組みについて理解させる。
- ⑤ P33を読み、見出し語の見つけ方について理解させる。
- ⑥ P34の課題に取り組み、辞書の使い方に慣れさせる。  
「問題を解きながら、辞書の使い方に慣れましょう。」

## 板書例

### 国語辞典を使おう

国語辞典の使い方を知り、言葉を調べよう。

国語辞典を使うもくてき

- ① 言葉の意味
- ② 言葉の使い方
- ③ 漢字での書き表し方

見出し語の見つけ方

- ① 五十音順に並んでいる。
- ② せい音↓だく音↓半だく音の順で。  
「ひ」↓「び」↓「び」
- ③ のばす音は、「あ・い・う・え・お」に  
おきかえて

〈新しく習う漢字〉

使う、深い、意味、漢字、調べる

自由、温かい、あま酒、問題、文章

平気、

- ⑥ 新出漢字の読み書きを練習させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「国語辞典を使った言葉の調べ方が分かりましたか。」

# 国語辞典を使うおう

W  
07

三年 組 名前 (

めあて

① 国語辞典を使う目的をまとめましょう。

①

②

③

② 見出し語の見つけ方をまとめましょう。

①

②

③

③ 34 ページの問題をといて、辞書の使い方になれましょう。

〈新しく習う漢字〉

使	意	漢	由	酒	題	平
深	味	調	温	問	章	

国語辞典を使おう（記入例）

三年

組

名前

W07

めあて

国語辞典の使い方を知り、言葉を調べる。

（1）国語辞典を使う目的をまとめましょう。

① 言葉の意味を調べる。

② 言葉の使い方を調べる。

③ 漢字での書き表し方を調べる。

（2）見出し語の見つけ方をまとめましょう。

① 五十音順に並べられている。

② せい音↓だく音↓半だく音の順に並べられている

③ のばす音は、「あ・い・う・え・お」のおきかえられている。

（3）34 ページの問題をといて、辞書の使い方になれましょう。

〈新しく習う漢字〉

使	意	漢	由	酒	題	平
深	味	調	温	問	章	

# 08

題材名 「漢字の広場①」（第1時／全1時間）

目標 第2学年までに配当させている漢字を書き、分や文章の中で使うことができる。  
 ◎進んで第2学年までに配当指されている漢字を書き、課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場①」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 絵の中の言葉を使って、動物園のようすを文に書こう ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 提示されている言葉を音読させる。 ・〈れい〉を参考に、動物園の絵の中にある漢字を1つ以上使って一文を作ることを確かめる。 ・さらに、文意が通った正しい文が書けるように意識をもたせる。 ④ P35の絵を見て、描かれている動物や人が何をしているのか1つずつ説明させる。 「絵を見て、だれ（何）が何をしているのか、教えてください。」 ⑤ 絵の中の動物や人がしていることなどについて説明する文をワークシートに書かせる。 「絵の中の言葉を使って、だれがなにをしているのかワークシートに書いてみましょう。」 ○まとまった文を書かせるのが困難な場合は例語を視写させるだけでも良い。 ・可能ならば、「だから」「けれども」等の接続詞を用いて文と文をつなげさせる。	・例語を読み、読み方を確かめる。 ・絵に描かれていることを説明する。 ・ワークシートに文を書く。
終末 10分	⑥ 作った文を発表させる。 「作った文をみんなに発表しましょう。」 ・文意が整った文や複文を作ることができた場合、大いに賞賛し、児童の日本語に対する興味関心を高めたい。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「2年生で習った漢字を使って文が書けましたか。」	・作った文を発表する。 ・友だちの作った文を聞く。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○ 漢字（言葉）に対する意識向上のために

- ・中学年の国語学習を充実させるためにも、2年生の既出漢字の定着はしっかりとさせたい。そのためにも年間6回ある「漢字の広場」の学習を意図的、計画的に進めたい。
- ・今回示されている例語の中では、形容詞が多く含まれている。これらの言葉をもとに、反対語や類義語を出させたりして語彙力の拡充を図るのも良い。

### ○ 参考図書を活用

- ・図書室がある場合、国語辞典や1～3年用向けの各種漢字の本も併せて活用できると、より広がりのある国語学習が望める。

## 板書例

- ① 題材名「漢字の広場①」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書き、知らせる。

- ③ 提示されている言葉を音読させる。
- ④ P35の絵を見て、描かれている動物や人が何をしているのか1つずつ説明させる。  
「絵を見て、だれ（何）が何をしているのか、教えてください。」
- ⑤ 絵の中の動物や人がしていることなどについて説明する文をワークシートに書かせる。  
「絵の中の言葉を使って、だれがなにをしているのかワークシートに書いてみましょう。」

漢字の広場①

絵の中の言葉を使って文を書こう。

（れい）くじゃくが、きれいな羽根を大きく  
広げています。

牛 馬

高い 強い 弱い 長い 多い 少ない

鳴く 売る 買う

売店 一万円 首 黄色 間 時間 羽

二頭

- ⑥ 作った文を発表させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。

# 漢字の広場①

w  
08

三年 組 名前 (

めあて

〈れい〉

くじやくが、きれいな羽を大きく広げています。

漢字の広場①（記入例）

W 08

三年 組 名前（

めあて

絵の中の言葉を使って文を書こう。

〈美しい〉

くじやくが、きれいな羽を大きく広げています。

首の長い黄色いキリンが立っています。

りんごをもっている強いさるに、弱いさるがりんごをもらおうと  
しています。

動物園の入り口で、入場けんを売っていました。それで、子ども  
けんを一まい買いました。

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----



# 09

題材名 「春のくらし」(第1時/全1時間)

目標 語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。  
 ◎春らしさを感じる言葉を積極的に知ろうとし、自らの語彙を豊かにしようとする。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「春のくらし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">春らしさを感じる言葉を集めよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る。</li> <li>目標を声を合わせて読む。</li> </ul>
展開 30分	③ P36,37の「みどり」を音読させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>音読することで、詩のもつ春らしさを感じるリズムカルなイメージをつかませたい。</li> </ul> ④ p36,37を参考に、春が旬の野菜や山菜の名前を挙げさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の日本国内における生活経験の差を配慮し、植物等の図鑑を活用して、他の野菜や山菜を示すのもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みどり」を音読する。</li> <li>春になるとおいしい野菜や山菜の名前を知る。</li> </ul>
終末 10分	⑤ 身の回りで見つけた春らしさを感じたものについて書く。 「身の回りで春らしさを感じたものについて書いてみましょう。」 <ul style="list-style-type: none"> <li>P36の例を参考に2文程度の簡単な説明文を書かせる。</li> <li>1文目に、春らしさを感じたものを書き、2文目にどういう所に春らしさを感じたのかについて書かせる。</li> <li>時間がとれたら、書いた文章をお互いに読み合い、交流する。</li> </ul> ○日本国内と自然環境が異なる地域の場合は、児童の居住している地域の生活について触れたものであればよしとする。 ⑥ 本時の学習内容を確認させる。 「春らしさを感じる言葉を新しく知ることができましたか。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>春らしさを感じるものについての短い説明文を書く。</li> <li>本時で学習したことを確かめる。</li> </ul>

## 指導のポイント

### ○「季節の言葉」の学習指導について

- 本教材は、2～6年生で年間4回ずつ実施する。同じ季節でも学年の実態に応じたテーマが設定されている。2年生が、身近な動植物。3年生が、日常生活。4年生が、年間行事。5年生が、日常の天気や気象。そして6年生が、暦(二十四節気)となっている。とかく海外で暮らす児童にとっては、日本特有の自然や季節感を実感する機会になかなか恵まれない状況にある。そこで本教材を有効に活用して、日本の豊かな自然環境や伝統文化の一端に触れさせたい。

### ○図鑑の活用について

- 児童は、日本国内の動植物に触れる機会がどうしても少なくなる。そのため、小学生を対象に編集された植物図鑑や動物図鑑を用意して補助教材として大いに活用したい。図や画像を通して理解を深めさせたい。

## 板書例

① 題材名「春のくらし」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ P36,37の「みどり」を音読させる。

④ p36,37を参考に、春が旬の野菜や山菜の名前を挙げさせる。

⑤ 身の回りで見つけた春らしさを感じたものについて書く。

「身の回りで春らしさを感じたものについて書いてみましょう。」

春のくらし

春らしさを感じる言葉を集めよう。

「新」や「春」がつくやさい

新玉ねぎ 新じゃが 春キャベツ

山さいや、野原で見かける草

ふき たけのこ よもぎ

たらのめ ぜんまい わらび

⑥ 本時の学習内容を確認させる。

「春らしさを感じる言葉を新しく知ることができましたか。」

三年 組 名前)

めあて

--

(1)「新」や「春」のつく野菜の言葉を集めましょう。

(2)山さいや、野原で見かける草の言葉を集めましょう。

(3)春を感じたものについて書きましょう。

三年 組 名前)

めあて

春らしさを感じる言葉を集めよう

(1)「新」や「春」のつく野菜の言葉を集めましょう。

新たまねぎ 新じゃがいも 春キャベツ

(2)山さいや、野原で見かける草の言葉を集めましょう。

ふき たけのこ よもぎ たらめ

ぜんまい わらび

(3)春を感じたものについて書きましよう。

# 漢字の音と訓

三年 組 名前

下

めあて

漢字の読み方に「音」と「訓」があることを知ろう

## 朝

「音」…チヨウ 朝食 早朝

それだけで意味の分かりにくいものが多い。

「訓」…あさ 朝 朝日

聞いただけで意味のわかるものが多い。

読み方がたくさんある漢字

カ                      ゲ  
 した                      しも  
 さげる                  さがる                  くだる                  くだす  
 くださる                  おろす                  おりる

同じ音の漢字

羽 — 雨                  海 — 絵

同じ訓の漢字

小 — 子 — 木

新しく習う漢字

岸					発				
対					主				
薬					式				
品					倍				
局					陽				
表					農				

# 漢字の音と訓

三年 組 名前

めあて

漢字の読み方に「音」と「訓」があることを知ろう

「音」 :: チョウ 朝食 早朝

それだけで意味の分りにくいものが多い。

「訓」 :: あさ 朝 朝日

聞いただけで意味のわかるものが多い。

読み方がたくさんある漢字

カ ゲ

した しも

さげる さがる くだる くだす

くださる おろす おりる

同じ音の漢字

羽 — 雨      海 — 絵

同じ訓の漢字

小 — 子 — 木

新しく習う漢字

岸					発				
対					主				
薬					式				
品					倍				
局					陽				
表					農				

# 10

**題材名** 「漢字の音と訓」（第1時／全1時間）  
**目標** 漢字には音読みと訓読みがあることを理解することができる。  
**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項  
**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入	① 題材名「漢字の音と訓」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる	
5分	漢字の読み方に「音」と「訓」があることを知ろう。 ・学級の人数や到達度、招待しているか、していないか等により、発表会の時間を調整する	・本時のめあてを知る。
展開	③ 教材の本文を読ませる。 「漢字には音読みと訓読みがあります」 ・例を示し、読み仮名を片仮名と平仮名を使い分けると児童の意識も高まる。 音読み…片仮名 訓読み…平仮名全文を	・本文を読む。
35分	④ 読み方がたくさんある漢字を探させる。 「ふろくで、読み方がたくさんある漢字を探しましょう」 ⑤ 同じ音の漢字を集めさせる。 「同じ音の漢字を集めてみましょう」 ⑥ 同じ訓の漢字を集めさせる。 「同じ訓の漢字を集めてみましょう」	・読み方がたくさんある漢字を探す。 下・強・広・交・上 など ・同じ音の漢字を集める。 羽一雨 海一絵 下一火一花一何 一科一夏一家一歌 など ・同じ訓の漢字を集める。 木一黄 小一子一木 など
終末	⑦ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる。 「漢字を学習しましょう」	・新出漢字・読み替えの漢字を学習する。
5分	⑧ 本時の学習を確認させる 「音読みと訓読みについて分かりましたか」	・本時の学習を確認する

## 指導のポイント

○抵抗なく漢字と親しむために

・漢字に苦手意識をもっている児童にも、漢字の音読み・訓読みが複雑だと感じさせないようにしたい。そのためには、1年生で習った漢字で調べ始めると、抵抗なく入りやすい。また、自分たちの知っている町の名前や場所の名前を例に挙げたり、全て音読みにしたりするなどして、楽しい雰囲気を取り組ませたい。

○付録を活用した学習

・教科書の付録を活用して調べ学習を進めることは、4年「漢字辞典の使い方」につながる。今後新出漢字を学習する時には、音訓読みを意識させながら指導していきたい。児童の実態に応じて、できれば、新出漢字表を作成して、家庭学習などで自主的に進めさせたい。

# 板書例

- ① 題材名「漢字の音と訓」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。
- ③ 教材の本文を読ませる。

「漢字には音読みと訓読みがあります」

- ④ 読み方がたくさんある漢字を探させる。

「ふろくで、読み方がたくさんある漢字を探しましょう」
- ⑤ 同じ音の漢字を集めさせる。

「同じ音の漢字を集めてみましょう」
- ⑥ 同じ訓の漢字を集めさせる。

「同じ訓の漢字を集めてみましょう」

## 板書例

### 漢字の音と訓

漢字の読み方に「音」と「訓」があることを知ろう

朝

(音) チョウ 朝食 早朝

(訓) あさ 朝 朝日

読み方がたくさんある漢字

カゲ

した しも

さげる さがる

くださる おろす

くだる くだす

羽—雨 海—絵

同じ音の漢字

小—子—木

同じ訓の漢字

新しく習う漢字

次、昔、表、発、県、有、氷、秒、

農、球、局

- ⑦ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる。

「漢字を学習しましょう」

- ⑧ 本時の学習を確認させる。

「音読みと訓読みについて分かりましたか」



# 漢字の音と訓

三年 組 名前

めあて

漢字の読み方に「音」と「訓」があることを知ろう

## 朝

「音」：チヨウ 朝食 早朝

それだけで意味の分かりにくいものが多い。

「訓」：あさ

朝 朝日

聞いただけで意味のわかるものが多い。

読み方がたくさんある漢字

## 下

カ ゲ

した しも

さげる さがる

くだる くだす

くださる おろす おりる

同じ音の漢字

羽ー雨

海ー絵

同じ訓の漢字

小ー子ー木

新しく習う漢字

局	農	氷	県	表	次
	球	秒	有	発	昔

# 漢字の音と訓

三年 組 名前

めあて

漢字の読み方に「音」と「訓」があることを知ろう

## 朝

「音」：チヨウ 朝食 早朝  
 それだけで意味の分かりにくいものが多い。  
 「訓」：あさ 朝 朝日  
 聞いただけで意味のわかるものが多い。

読み方がたくさんある漢字

## 下

カ ゲ  
 した しも  
 さげる さがる くだる くだす  
 くださる おろす おりる

同じ音の漢字

羽ー雨 海ー絵

同じ訓の漢字

小ー子ー木

新しく習う漢字

局	農	氷	県	表	次
	球	秒	有	発	昔

# 11

題材名 「もっと知りたい、友だちのこと」(第1時/全2時間)

目標 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。  
 ◎積極的に質問しながら聞くことで話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、見通しをもって話したり質問したりしようとすることができる。

領域等 A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名 「もっと知りたい、友だちのこと」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 友だちに知らせたいことを決めて、話し合いのじゅんぴをしよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・2回に分けて学習を進めることを伝える。本時は、話すことを決めて、話し合いの準備をし、次時に話を聞いて質問をしたり、心に残ったことを伝え合うことを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 30分	③ 友だちに知らせたいことを決めさせる。 「友だちに話したいことをワークシートにメモをしましょう。」 ・ワークシートに話したいことのメモを書かせる。 ○何を話したらよいか迷っている児童へは、教師側より問いかけを繰り返しながら決められるように支援する。 ④ p41の表を参考に、質問の3つの種類について理解させる。 ・「いつ・どこで・だれが・何を」「どのように」「なぜ」の3種類の質問があることを確認させる。これらを適宜組み合わせながら質問をすれば良いことを伝える。 ⑤ p41を参考に、話を聞くときの注意点について理解させる。	・友だちに話したいことを決めてワークシートにメモをする。 ・質問の3つの種類について理解する。 ・話を聞くときの注意点を理解する。
終末 10分	⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「決」「整」等の読み書きの練習をさせる。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「自分の話したいことをきめて、しつもんや聞く時に大切なことが分かりましたか。」	・「決」「整」等の読み書きの練習をする。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○児童の学習経験

・2年生までに、自分の体験や好きなことを人前で話したり、少人数で話し合う活動を積み重ねてきた。しかし、相手の話から質問をしたり、感想を述べたりする活動は、不十分である。本単元の学習では、その点を留意したい。

## 板書例

- ① 題材名「もっと知りたい友だちのこと」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 友だちに知らせたいことを決めさせる。  
「友だちに話したいことをワークシートにメモをしましょう。」
- ④ p41の表を参考に、質問の3つの種類について理解させる。
- ⑤ p41を参考に、話を聞くときの注意点について理解させる。

もっと知りたい友だちのこと

友だちに知らせたいことを決めて、話し合っていることをしよう。

今日の学習の進め方

- ① 友だちに話したいことを決める。
- ② しつもんや、話の聞き方についてせいりする。

しつものしゅんこ

- ① 「いつ・どこで・だれが・何を」
- ② 「どのよう」に
- ③ 「なぜ」

- ⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「自分の話したいことをきめて、しつもんや聞く時に大切なことが分かりましたか。」



もつと知りたい友だちのこと①（記入例）

W 11

三年 組 名前）

めあて

友だちに知らせたいことを決めて、話し合いのじゅんびをしよう。

（1）友だちに話したいことを決めましょう。

家でかっている魚について

（2）しつもんや、話しの聞き方についてせい理しましょう。

①「いつ」「どこで」「だれが」「何を」

いつからかっているのか。

家のどこでかっているのか。

②「どのように」

どのようにえさを食べるのか。

③「なぜ」

なぜ、さかなをかいはじめたのか。

（

# 12

- 題材名** 「もっと知りたい、友だちのこと」(第2時/全2時間)
- 目標** 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、自分の考えをもつことができる。
- ◎積極的に質問しながら聞くことで話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、見通しをもって話したり質問したりしようとするができる。
- 領域等** A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名 「もっと知りたい、友だちのこと」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。  <u>話を聞いて質問したり、感想を伝えよう。</u>            ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。            ・本時は、時間の許す範囲で、話を聞いて質問をしたり、心に残ったことを伝え合う活動をするを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。</li> </ul>
展開 30分	<p>③ 3、4人のグループごとに、一人が話をした後、他のメンバーからの質問を受ける活動を順番に行わさせる。</p> <p>「友だちの話を聞いてから、もっと知りたいことをしつもんしましょう。」            ・質問したいことをカードに書くことは省略させる。</p> <p>○質問の返答に迷っている児童へは、言葉のやり取りを通して、児童が言いたいことを自分で言葉にまとめられるように支援する。</p> <p>・③④とも時間配分を児童のみで行うのは難しいので、教師側で進行役を務める。</p> <p>④ 友だちの話で心に残ったことを順番に伝え合わせる。</p> <p>・児童の実態に応じて、グループのメンバー全員ではなく、一人に絞っての感想でも良いことにする。もし一人一人に対して伝えられたら大いに賞賛し、相手の話を聞くことへの関心を高めたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの話を聞いてから、もっと知りたいことを質問する。</li> <li>・友だちの話で心に残ったことを順番に伝え合う。</li> </ul>
終末 10分	<p>(⑥ p44,45「きちんとつたえるために」を通読して、分かりやすい話し方をするために必要な事を理解させる。)</p> <p>・p44の例より、主語をしっかりと述べる点、p45の例より理由も必要に応じて述べる点の2点を理解させたい。</p> <p>(⑦新出漢字の読み書きの練習をさせる。)</p> <p>⑧ 本時の学習内容を確認させる。            「友だちの話を聞いて、知りたいことを質問することができましたか。」</p>	<p>(・分かりやすい話し方をするために必要な事を理解する。)</p> <p>(・「相」「落」等の読み書きの練習をする。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学習したことを確かめる。</li> </ul>

## 指導のポイント

- ・本時は、内容的に大変多いため、児童の実態に応じて⑥と⑦等の活動を割愛しても良い。但し、③の活動は十分に時間をとって一通り行わせたい。

## 板書例

- ① 題材名「もっと知りたい友だちのこと」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 3、4人のグループごとに、一人が話をした後、他のメンバーからの質問を受ける活動を順番に行わせる。  
「友だちの話を聞いてから、もっと知りたいことをしつもんしましょう。」
- ④ 友だちの話で心に残ったことを順番に伝え合わせる。

もっと知りたい友だちのこと

話を聞いて質問したり、感想を伝えよう。

今日の学習の進め方

①話を聞いて、しつもんする。

②ともだちの話で心に残ったことを、伝え合う。

たいせつ

①話す人の方を見て聞く。

②話のないようをはっきりさせる。

③知りたいことが分かるようなしつもんを考える

(⑥ p44,45「きちんとつたえるために」を通読して、分かりやすい話し方をするために必要な事を理解させる。)

(⑦新出漢字の読み書きの練習をさせる。)

⑧ 本時の学習内容を確認させる。

「友だちの話を聞いて、知りたいことを質問することができましたか。」



もつと知りたい友だちのこと②

W  
12

三年 組 名前)

めあて

--

(1)グループごとに、友だちの話を聞いて、しつもんをしましょう。

(2)友だちの話で心にのこったことを、伝えあいましょう。

(3)「きちんとつたえるために」を読んで考えを書きましよう。

① どうして、話が食いちがつてしまったのでしょうか。

② 二人は、それぞれのようによえばよかつたのでしょうか。

三年 組 名前)

めあて

話を聞いて質問をしたり、感想をつたえよう。

(1)グループごとに、友だちの話を聞いて、しつもんをしましょう。

(2)友だちの話で心にのこったことを、伝えあいましょう。

(3)「きちんとつたえるために」を読んで考えを書きましょう。

①どうして、話が食いちがつてしまったのでしょうか。

話しの中で、「だれが(何が)を言わなかったから。

②二人は、それぞれのようによければよかったのでしょうか。

お母さんは、すぐにきてほしいことを言うと良かった。

「ひろし」は、どれぐらいで行くと言うと良かった。

# 13

題材名 「漢字の広場②」(第1時/全1時間)

目標 第2学年までに配当させている漢字を書き、分や文章の中で使うことができる。  
 ◎進んで第2学年までに配当指されている漢字を書き、課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場②」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。 絵の中の言葉を使って、男の子のお話を書こう ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 提示されている言葉を音読させる。 ・〈れい〉を参考に、絵の中にある漢字を1つ以上ずつ使ってひとつながりの話を作ることを確かめる。 ・さらに、文意が通った正しい文が書けるように意識をもたせる。 ④ P46の絵を見て、男の子たちが何をしているのか1コマずつ説明させる。 「絵を見て、だれが何をしているのか、教えてください。」 ⑤ 絵の中の男の子たちがしていることについて順序よくワークシートに書かせる。 「絵の中の言葉を使って、男の子のお話をワークシートに書いてみましょう。」 ○まとまった文を書かせるのが困難な場合は、3コマ目から〈れい〉の続きを書かせてもよい。 ・「だから」「けれども」等の接続詞を用いて文と文をつなげさせ、読みやすい内容のお話になるようにさせる。	・例語を読み、読み方を確かめる。 ・男の子がしていることを説明する。 ・ワークシートに物語を書く。
終末 10分	⑥ 作った物語を読み合わせる。 「作った物語をお互いに読み合しましょう。」 ・文意が整った文や複文を作ることができた場合、大いに賞賛し、児童の日本語に対する興味関心を高めたい。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「2年生で習った漢字を使って物語を書けましたか。」	・友だちの作った物語を読む。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

○ 漢字(言葉)に対する意識向上のために

- ・中学年の国語学習を充実させるためにも、2年生の既出漢字の定着はしっかりとさせたい。そのためにも年間6回ある「漢字の広場」の学習を意図的・計画的に進めたい。
- ・今回示されている例語の中では、動詞が多く含まれている。動きに関する語彙の拡充を図るのも良い。

○ 読み合いがもたらす効果

- ・できた所までの話を交換して読み合い、同じ絵を見て書いたものでも、それぞれ表現が異なることに気付かせたい。
- ・作った物語の良さやおもしろさをお互い伝え合わせることで、満足感を味わわせたい。

## 板書例

① 題材名「漢字の広場②」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。

③ 提示されている言葉を音読させる。

④ P46の絵を見て、男の子たちが何をしているのか1コマずつ説明させる。

「絵を見て、だれが何をしているのか、教えてください。」

⑤ 絵の中の男の子たちがしていることについて順序よくワークシートに書かせる。

「絵の中の言葉を使って、男の子のお話をワークシートに書いてみましょう。」

### 漢字の広場②

絵の中のお話を使って、男の子のお話を書こう。

（れい）まなぶくんは、たから物のある場所がかかれた地図を見つけました。そこで、ぼうけんに行くことにしました。

（やくそく）①つなぎことば（接続詞）  
を使って書こう。

「そこで」「や」「けれども」など  
②じゅんじょよく書こう。

地図↓家 行く↓一本道 元気 方角↓

親友 合う↓太い↓心細い 立ち止まる

↓谷 通る↓弓矢 当たる 天才↓岩

丸い 戸↓引く↓光る↓帰る

⑥ 作った物語をお互いに読み合わせる。

⑦ 本時の学習内容を確認させる。

漢字の広場②

W  
13

三年 組 名前)

めあて

△れい△

まなぶくんは、たから物のある場所がかかれた地図を見つけてきました。

そこで、ぼうけんに行くことにしました。

「そこで」「けれども」などを使ってみましょう。

めあて

絵の中の言葉をつかってお話を作ろう

△れい△

まなぶくんは、たから物のある場所がかかれた地図を見つけてきました。

そこで、ぼうけんに行くことにしました。

「そこで」「けれども」などを使ってみましょう。

①まなぶくんは、お母さんに見送られて家からぼうけんに行きました。

②一本道を元気にかけ下りながら、やじるしの方角をめぐりました。

③すると、まなぶくんは、親友のたろうくんと出会ったのです。

④けれども、木の上に太いへびがじやまで進めなくなっていました。

⑤細い橋がかかる所までにげ、心細くなってしまいました。

# 14

題材名 「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」(第1時/全3時間)

目標 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。  
 ◎進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを文章にまとめようとするができる。

領域等 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「言葉で遊ぼう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 だんらくに気をつけて読もう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ 学習の見通しを持たせる。 ・本単元の学習は、3回に分けて行い、最初に「言葉で遊ぼう」を読んで説明文の読み取り方の練習をし、次に学んだことを生かして「こまを楽しむ」を読み、最後に、感想を伝え合う学習を行うことを確認する。 ④ 「言葉で遊ぼう」を読ませる。 ○段落という言葉をも p.159 を活用して指導した後、何が書かれているのか段落ごとに確かめながら読ませたい。その際、p.48,49 の下段に書かれている事項も併せて活用させたい。 ・辞書を使った言葉の意味調べも、時間がとれないことが予想されるので、通読しながら、該当語句の説明等を行うとよい。 ⑤ 「問い」と「答え」の部分を確認させる。 『問い』に書かれていることを確かめてから、『答え』に当たる部分に線を引きましょう。』 ⑥ 言葉遊びについて感じたことを話し合わせる。 「知っている言葉遊びについて、友だちと話しましょう。」	・学習の見通しを持つ。 ・段落ごとに書かれていることに着目しながら「言葉で遊ぼう」を読む。 ・「問い」と「答え」の部分を確認する。 ・言葉遊びについて感じたことを話し合う。
終末 5分	⑦ 次時の学習内容を確認させる。 「次は、今日学んだことを生かして『こまを楽しむ』を読みます。」	・次時で学習することを確認する。

## 指導のポイント

### ○説明的な文章の指導について（構造と内容の把握）

- ・2年生までに、児童は、時間や事柄の順序を考えながら、大体の内容を捉えることを学習する。3年生では、さらに段落どうしのつながりに気をつけて、筆者の考えとそれを支える事例を読み取るように指導することが求められている。

## 板書例

- ① 題材名「言葉で遊ぼう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 学習の見通しを持たせる。
- ④ 「言葉で遊ぼう」を読ませる。
- ⑤ 「問い」と「答え」の部分を確認させる。  
「『問い』に書かれていることを確かめてから、『答え』に当たる部分に線を引きましょう。」
- ⑥ 言葉遊びについて感じたことを話し合わせる。  
「知っている言葉遊びについて、友だちと話しましょう。」

### 言葉で遊ぼう

だんらしくに気をつけて読もう。

段落…文章を組み立てているまとめ

①はじめ…問い

②中…「しやれ」問いにたいする答え(一)

③中…「回文」問いにたいする答え(二)

④中…「アナグラム」問いにたいする答え(三)

⑤おわり 「言葉遊びを楽しんでみましょう。」

- ⑦ 次時の学習内容を確認させる。  
「次は、今日学んだことを生かして『こまを楽しむ』を読みます。」



# 14 言葉で遊ぼう こまを楽しむ1

三年 組 名前)

めあて

--

(1)③と④の段落から、言葉遊びの名前に、ぼう線を引きましょう。

(2)③と④の段落から、言葉遊びの楽しさに、なみ線を引きましょう。

(3)知っている言葉遊びについて、友だちと話し合いましょう。

# 14 言葉で遊ぼう こまを楽しむ1 〈記入例〉

三年 組 名前( )

めあて

だんらくに気をつけて「言葉で遊ぼう」を読もう。

(1) ③と④の段落から、言葉遊びの名前に、ぼう線を引きましょう。

③ ↓ 回文

④ ↓ アナグラム

(2) ③と④の段落から、言葉遊びの楽しさに、なみ線を引きましょう。

③ ↓ 回文になっている言葉や文を見つけたり、自分で作ったりする楽しさ

④ ↓ 元の言葉とは全くちがう意味の言葉を作る楽しさ

(3) 知っている言葉遊びについて、友だちと話し合ひましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

# 15

題材名 「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」(第2時/全3時間)

目標 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。  
 ◎進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを文章にまとめようとする事ができる。

領域等 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「こまを楽しむ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 だんらくに気をつけて読もう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ 学習の見通しを持たせる。 ・本時の学習は、前時に学んだことを生かして「こまを楽しむ」を読むことを確認する。 ④ 「こまを楽しむ」を読ませる。 ○8つの段落ごとに書かれていることに着目させながら読ませる。 ・辞書を使った言葉の意味調べも、時間がとれないことが予想されるので、通読しながら、該当語句の説明等を行うとよい。 ⑤文章全体の組み立てを確かめさせる。 「8つの段落を『はじめ』『中』『おわり』の3つに分けましょう。」 ⑥2つの問いに対する答えを「中」より確かめさせる。 「2つの『問い』にたいする『答え』のところに線を引きましょう。」 ⑦「おわり」に書かれていることを確かめさせる。 「『おわり』に書かれていることをワークシートにまとめましょう。」	・学習の見通しを持つ。 ・段落ごとに書かれていることに着目しながら「こまを楽しむ」を読む。 ・文章全体の組み立てを確かめる。 ・2つの問いに対する答えを「中」より確かめる。 ・「おわり」に書かれていることを確かめる。
終末 5分	⑧ 次時の学習内容を確認させる。 「次は、遊んでみたいこまについて話し合います。」	・次時で学習することを確かめる。

## 指導のポイント

### ○説明的な文章の指導について（精査・解釈）

・2年生までに、児童は、文章の中から大切な語や文を選び出すことを学習する。3年生では、さらに目的に応じて選び出した語や文をもとに、文章を要約できるように指導することが求められている。本時の学習は、文章全体の組み立てについて学習するので、中心となる語や文を見つけるための基礎となる学習になると言える。

板書例

- ① 題材名「こまを楽しむ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 学習の見通しを持たせる。
- ④ 「こまを楽しむ」を読ませる。
- ⑤ 文章全体の組み立てを確かめさせる。  
「8つの段落を『はじめ』『中』『おわり』の3つに分けましょう。」
- ⑥ 2つの問いに対する答えを「中」より確かめさせる。  
「2つの『問い』にたいする『答え』のところに線を引きましょう。」
- ⑦ 「おわり」に書かれていることを確かめさせる。  
「『おわり』に書かれていることをワークシートにまとめましょう。」

こまを楽しむ

だんらしくに気をつけて読もう。

段落…文章を組み立てているまとめり

①はじめ…問い①と問い②

②中…問い①の答え・色がわりこま  
問い②の答え・色を楽しむ

③中…問い①の答え・鳴りこま  
問い②の答え・音を楽しむ

④中…問い①の答え・さか立ちこま  
問い②の答え・動きを楽しむ

⑤中…問い①の答え・たたきこま  
問い②の答え・回すことを楽しむ

⑥中…問い①の答え・曲こま  
問い②の答え・見せて楽しむ

⑦中…問い①の答え・ずぐり  
問い②の答え・雪の上で回して楽しむ

⑧おわり…回る様子や回し方でさまざまに楽しみ方の  
さまざまなこまをたくさん生み出してきました。

- ⑦ 次時の学習内容を確認させる。  
「次は、遊んでみたいこまについて話し合います。」

# 15 言葉で遊ぼう こまを楽しむ2

三年 組 名前)

めあて

--

(1)①から⑧の段落を「はじめ」「中」「おわり」の三つに分けましょう。

「はじめ」

「中」

「おわり」

(2)二つの「問い」にたいする「答え」の所に線を引きましょう。

(3)こまについて「おわり」に書かれていることを、二つまとめましょう。

①このように、

②人々は、

# 15 言葉で遊ぼう こまを楽しむ2 〈記入例〉

めあて 三年 組 名前)

だんらしく気をつけて「こまを楽しむ」を読もう。

(1) ①から⑧の段落を「はじめ」「中」「おわり」の三つに分けましょう。

「はじめ」…①段落

「中」…②、⑦段落

「おわり」…⑧段落

(2) 二つの「問い」にたいする「答え」の所に線を引きましょう。

② 中…問い①の答え・色がわりごま 問い②の答え・色を楽しむ

③ 中…問い①の答え・鳴りごま 問い②の答え・音を楽しむ

④ 中…問い①の答え・さか立ちごま 問い②の答え・動きを楽しむ

⑤ 中…問い①の答え・たたきごま 問い②の答え・回すことを楽しむ

⑥ 中…問い①の答え・曲ごま 問い②の答え・見せて楽しむ

⑦ 中…問い①の答え・すぐり 問い②の答え・雪の上で回して楽しむ

(3) こまについて「おわり」に書かれていることを、二つまとめましょう。

① このように、日本には、さまざまなしゆるいのこまがある。

② 人々は、このつくりにくふうをくわえ、回る様子や回し方でさまざまに楽しむことができるこまをたくさん生み出してきた。

# 16

題材名 「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」(第3時/全3時間)

目標 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。  
 ◎進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを文章にまとめようとする事ができる。

領域等 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「こまを楽しむ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 読んでみたいこまについて、グループで話し合おう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 学習の見通しを持たせる。 ・本時の学習は、読んでみたいこまについてお互いに感想をつたえ合う学習をすることを確認する。 ④ 読んでみたいこまについてワークシートにまとめさせる。 「自分が読んでみたいこまを選んで、ワークシートにまとめましょう。」 ○まず、選んだこまのしゅるいを書き、次にそのこまの楽しみ方を書いて、最後に選んだ理由を書くように支援する。 ⑤ グループごとに話し合わせる。 「グループごとに話し合ひましょう。」 ⑥ 友だちの話を聞いて、自分と似ていた点と違っていた点を振り返らせる。	・学習の見通しを持つ。 ・読んでみたいこまについてワークシートにまとめる。 ・グループごとに話し合う。 ・友だちの話を聞いて、自分と似ていた点と違っていた点を振り返る。
終末 10分	⑦ 新出漢字の練習をさせる。 ・「遊」「全」「短」「世」「界」「横」「指」「鉄」「安」「定」「様」の読み書きを練習させる。 ⑧ 本時の学習内容を確認させる。 「段落とその中心をとらえて読み、感想をつたえ合うことができましたか。」	・新出漢字の練習をする。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○説明的な文章の指導について (共有)

・2年生までに、児童は、文章を読んで感じたことや考えたことをつたえ合い共有する学習を行う。3年生では、さらに一人一人の感じ方などに違いがあることに気付かせる指導が求められている。本時の学習では、自分と違うこまを選んだ友だちの話を聞いて、他者の感じ方などのよさに気付かせたい。

## 板書例

① 題材名「こまを楽しむ」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

③ 学習の見通しを持たせる。

④ 遊んでみたいこまについてワークシートにまとめさせる。  
「自分が遊んでみたいこまを選んで、ワークシートにまとめましょう。」

⑤ グループごとに話し合わせる。  
「グループごとに話し合ひましょう。」

こまを楽しむ

遊んでみたいこまについて、グループで話し合おう。

感想をつたえ合う

① 遊んでみたいこまのしゅるい

② 楽しみ方

③ えらんだ理由

たいせつ

● 文章は、「はじめ」「中」「おわり」などの大きなまとまりに分けられる。

● 一つの段落には、それぞれひとまとまりのないようが書かれている。

● 「問い」と「答え」に気をつけると、組み立てや、中心をとらえられる。

〈新しく習う漢字〉

遊ぶ 全体 短い 世界

横指 鉄 安定 様子

⑦ 本時の学習内容を確認させる。

「段落とその中心をとらえて読み、感想をつたえ合うことができましたか。」



# 16 言葉で遊ぼう こまを楽しむ3

三年 組 名前( )

めあて

(1)遊んでみたいこまをえらんで、書きましょう。

①こまのしゅるい わたしは、

②楽しみ方 このこまは、

③えらんだ理由 なぜえらんだかというと、

(2)グループでつたえ合いましょう。

(3)話し合いをして、気づいたことや考えたことを書きましょう。

様	安	指	界	短	遊
	定	鉄	横	世	全

〈新しく習う漢字〉

## 16 言葉で遊ぼう こまを楽しむ3へ記入例

三年 組 名前)

めあて

遊んでみたいこまについて、グループで話し合おう。

(1)遊んでみたいこまをえらんで、書きましょう。

①こまのしゅるい

わたしは、色がわりこまで遊びたいと思いました。

②楽しみ方

このこまは、回つているときの色を楽しむことができるこまです。

③えらんだ理由

なぜえらんだかというと、回すはやさで、どういうふうに色がかわるのか見てみたかったからです。

(2)グループでつたえ合いました。

(3)話し合いをして、気づいたことや考えたことを書きましょう。

〇〇さんは、わたしと同じこまをえらんだけど、その理由がちがっていた。

# 17

題材名 「気持ちこめて『来てください』」(第1時/全2時間)

目標 丁寧な言葉を使って書いたり敬体と常体との違いに注意しながら書いたりすることができる。  
 ◎相手や目的を意識して、伝えたいことを進んで明確にし、学習課題に沿って、丁寧な言葉を使って行事を案内する手紙を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「気持ちこめて『来てください』」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 あんないの手紙で伝えるないように整理しよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・2回に分けて学習を進めることを伝える。本時は、案内の手紙で伝えることを考え、整理し、次時に手紙を書いて、内容を見直す学習をすることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 35分	③ 伝える相手と、伝える内容を決めさせる。 「相手と内容をワークシートに書きましょう。」 ○決めかねている児童へは、教師側より問いかけを繰り返しながら決められるように支援する。(例/通学している現地校での行事の案内を日本国内に居住している親戚や知り合いにする。) ④ 伝えることをメモに整理させる。 「伝えることをメモに整理して書きましょう。」 ・日時、場所、すること、気持ちについて書かせる。	・相手と内容をワークシートに記入する。 ・伝えることをメモに整理する。
終末 5分	⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「運」「予」の読み書きの練習をさせる。 ⑦本時の学習内容を確認させる。 「自分が伝えたいことや気持ちをメモに整理することができましたか。」	・「運」「予」の読み書きの練習をする。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○手紙を書く指導について(1)

- ・2点挙げられる。  
 1点目は、手紙の内容や目的に沿った形式があることを理解して書かせるという点である。今回は、案内状の形式であったが、他にも礼状や依頼状など、機会を捉えて繰り返し指導して行きたい。  
 2点目は、手紙には、相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを伝えたりするための工夫が必要なことに気付かせる点である。今回の学習のタイトルにある通り、気持ちを込めることの大切さをしっかりと押さえたい。

## 板書例

- ① 題材名「気持ちをこめて『来てください』」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 伝える相手と、伝える内容を決めさせる。  
「相手と内容をワークシートに書きましょう。」
- ④ 伝えることをメモに整理させる。  
「伝えることをメモに整理して書きましょう。」

きもちをこめて「来てください」

あんないの手紙で伝えるないようを整理しよう。

今日の学習の進め方

- ① 相手を決め、つたえることを考える。
- ② つたえることを整理しよう。

メモのないよう

- ① 「いつ」「日時」
- ② 「どこへ」「(場所)」
- ③ 「すること」
- ④ 「気持ち」

〈新しく習う漢字〉

運動会 八十メートル走 予定

- ⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「自分が伝えたいことや気持ちをメモに整理することができましたか。」

気もちをこめて「来てください」①

三年 組 名前)

めあて

--

(1) あんないの手紙を書く相手とないようを書きましょう。

(2) つたえることをメモに整理しましょう。

相手:

内容:

日時	場所	自分が すること	気もち

〈新しく習う漢字〉

送	返	運
住	緑	予

気もちをこめて「来てください」①〈記入例〉

三年 組 名前)

めあて

あんないの手紙でつたえるないように整理しよう。

(1) あんないの手紙を書く相手とないようを書きましょう。

高村先生に運動会に来てほしい。

(2) つたえることをメモに整理しましょう。

相手: 高村先生

内容: 運動会に来てもらいたい

日時	場所	自分が すること	気もち
五月三十日(土)午前九時	ひかり小学校運動場	・八十メートル走 ・ダンス ・つな引き	・がんばるから見に来てほしい。

# 18

題材名 「気持ちをこめて『来てください』」(第2時/全2時間)

目標 丁寧な言葉を使って書いたり敬体と常体との違いに注意しながら書いたりすることができる。  
 ◎相手や目的を意識して、伝えたいことを進んで明確にし、学習課題に沿って、丁寧な言葉を使って行事を案内する手紙を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「気持ちをこめて『来てください』」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">あんないの手紙を書こう。</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時は、手紙を書いて、内容を見直す学習をすることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 35分	③ P62「森川さんの手紙」を読んで、手紙を書く時の組み立てを理解させる。 ④ 案内の手紙を組み立てに沿って書かせる。 「案内の手紙を組み立てに沿って書きましょう。」 ○なかなか書き進められない児童へは、書き出しの言葉を示してあげたり、組み立ての順序を示してあげたりする等の支援を行う。 ⑤ 書いた手紙を声を出して読み返し、内容を確認させる。 「読みづらい所や字のまちがいがいないか、確認しましょう。」 ・可能な限り修正させ、実際に手紙を出せる場合は、住所と宛名の書き方も併せて指導する。	・手紙を書く時の組み立てを理解する。 ・案内の手紙を組み立てに沿って書く。 ・書いた手紙を声を出して読み返し、内容を確認する。
終末 5分	⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「返」「緑」「送」「住」の読み書きの練習をさせる。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「案内の手紙を気持ちを込めて書くことができましたか。」	・「運」「予」の読み書きの練習をする。 ・本時で学習したことを確認する。

## 指導のポイント

### ○手紙を書く指導について(2)

・パソコンやスマートフォンの普及に伴い、以前に比べ、手書きで手紙等をしたための機会が少なくなった。そのためにも、国語の学習において、書き方を意図的、系統的に指導することが求められる。

2年生までに児童は、特定の相手に対して、用件や気持ちを短い文章に書き表す学習を行ってきた。そこで3年生では、内容や形式を整えて書く学習を行い、実用的な文章がしっかりと書けるようになることを狙いたい。



## 板書例

- ① 題材名「きもちをこめて『来てください』」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ P62「森川さんの手紙」を読んで、手紙を書く時の組み立てを理解させる。
- ④ 案内の手紙を組み立てに沿って書かせる。  
「案内の手紙を組み立てに沿って書きましょう。」
- ⑤ 書いた手紙を声を出して読み返し、内容を確認させる。  
「読みづらい所や字のまちがいがいがないか、確認しましょう。」

きもちをこめて「来てください」

あんないの手紙を書こう。

今日の学習の進め方

- ① 手紙の組み立てをたしかめる。
  - ・ ていねいな言葉を使う。
  - ・ 正しく、読みやすい字で書く。
- ② 手紙を書いて、読み返す。

手紙の組み立て

- ① はじめのあいさつ
- ② つたえること
- ③ 書いた日
- ④ 自分の名前
- ⑤ 相手の名前

〈新しく習う漢字〉

読み返す 緑 送る 住所

- ⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「案内の手紙を気持ちを込めて書くことができましたか。」

気もちをこめて「来てください」②

W  
18

三年 組 名前)

めあて

メモをもとに、組み立てにそってあんないの手紙を書きましょう。

気もちをこめて「来てください」②〈記入例〉

W  
18

三年 組 名前)

めあて

あんないの手紙を書こう。

メモをもとに、組み立てにそつてあんないの手紙を書きましょう。  
緑がきれいなきせつになりました。高村先生、お元気ですか。ぼくは元気です。

こんど、ぼくが通う小学校で運動会が開かれますので、ごあんないします。

日時 五月三十日(土) 午前九時から午後三時

場所 ひかり小学校 運動場

ぼくは、八十メートル走とダンス、つな引きに出ます。毎日れんしゅうをしています。どれも力いっぱいがんばるので、ぜひ見に来てください。

五月十二日

森川そうた

高村みちる先生

# 19

題材名 「漢字の広場③」(第1時/全1時間)

目標 第2学年までに配当させている漢字を書き、分や文章の中で使うことができる。  
 ○進んで第2学年までに配当指されている漢字を書き、課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場③」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。 時を表す言葉を使って、日曜日の出来事と、家の人の今週の予定を書こう ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 提示されている言葉を音読させる。 ・〈れい〉を参考に、絵の中にある漢字を1つ以上ずつ使いながら、日曜日の出来事や家族の予定を時を表す言葉を必ず入れて書くことを確かめる。 ・時を表す言葉に印を付けさせたりして、予め意識させておくことよい。 ○児童の実態に応じて、日曜日の出来事のみを絞らせ、家族の予定の部分は省略してもよい。 ・時系列に沿って、順序よく出来事が書けるように意識をもたせる。 ④ P64の絵を見て、日曜日の出来事や家族の予定を1コマずつ説明させる。 「絵を見て、日曜日のいつ何をしたのか、教えてください。また、家族が何をするのか、教えてください。」 ・時を表す言葉が無い場合は、自分で付け足してもよいことを伝える。 ⑤ 日曜日の出来事と家族の予定について、時を表す言葉を使ってワークシートに書かせる。 「絵の中の言葉を使って、日曜日の出来事や家族の予定をワークシートに書いてみましょう。」 ・自分が書いた文を音読させることで、間違いや表現のねじれの有無があるのか確かめられるように意識させたい。	・例語を読み、読み方を確かめる。 ・日曜日の出来事や家族の予定を説明をする。 ・ワークシートに出来事や予定を書く。
終末 10分	⑥ 作った文を読み合わせる。 「作った文をお互いに読み合ひましょう。」 ○文意が整った文や複文を作ることができた場合、大いに賞賛し、児童の日本語に対する興味関心を高めたい。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「2年生で習った漢字を使って日曜日の出来事や家族の予定を書けましたか。」	・友だちの作った文を読む。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

○ 「時を表す言葉」への意識を高めさせるために

- ・例示された言葉以外にも児童より引き出させたい。なかなか出されない場合は、教師の方から1日の流れに沿って問いかけながら、児童の時を表す言葉の語彙が増えるように支援したい。
- ・国や地域によって曜日の概念が異なるため、日本と現地の一週間の呼び方をそれぞれ、今一度確かめられるとよい。

○ 文意が整った文を書かせるために

- ・高学年になって推敲の活動が円滑に進められるように、この時期から自分が書いた文や文章が正しく書かれているのか、声を出して読み、確かめようとする習慣を身に付けさせていきたい。
- ・正しい語順で書けるように、常に声掛けができるようにする。【「いつ」「どこで」「だれ(なに)が」「どうした(どんなだ)」の順で書く。】そのためにも普段の会話の中でもこのことを意識させる必要があると言える。

## 板書例

① 題材名「漢字の広場③」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。

③ 提示されている言葉を音読させる。

④ P64の絵を見て、日曜日の出来事や家族の予定を1コマずつ説明させる。

「絵を見て、日曜日のいつ何をしたのか、教えてください。」

また、家族が何をするのか、教えてください。」

⑤ 日曜日の出来事と家族の予定について、時を表す言葉を使ってワークシートに書かせる。

「絵の中の言葉を使って、日曜日の出来事や家族の予定をワークシートに書いてみましょう。」

### 漢字の広場③

時を表す言葉を使って絵の様子を文に書こう。

〈れい〉日曜日の朝は、おきるのがおそくなり  
ました。

〈やくそく〉①時を表す言葉を使って書こう。

「日曜日」や「朝」など

②じゅんじょよく書こう。

「いつ」「どこで」

「だれが」「どうした」

日曜日の出来事 朝 夜 午前 午後

今週の家の人の予定 兄 姉 弟

⑥ 作った文を読み合わせる。

「作った文をお互いに読み合しましょう。」

⑦ 本時の学習内容を確認させる。

「2年生で習った漢字を使って日曜日の出来事や家族の予定を書けましたか。」

漢字の広場③

w  
19

三年 組 名前)

めあて

〈れい〉日曜日<sup>日</sup>の朝は、おきるのがおそくなりました。

三年 組 名前)

めあて

時を表す言葉を使つて、絵の様子を文に書こう。

〈れい〉日曜日にの朝は、おきるのがおそくなりました。

①月曜日は、室内で妹と人形で遊びました。

②午前中に外に出て、なわとびで何回もとびました。

③午後に、ともだちのくみちゃんが遊びに来たので、おかしを半分  
ずつ食べました。

④夕方には、父と母といっしょに、ばんごはんを作りました。

⑤夜、ねる前に一日を思い出しながら、日記を書いています。

(以下省略)



## 20

題材名 「まいごのかぎ」(第1時/全3時間)

- 目標 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。  
 ◎積極的に登場人物の気持ちの変化を想像し、学習課題に沿って、物語の感想を書こうとすることができる。

領域等 C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「まいごのかぎ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 登場人物のへんかに気をつけて読もう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ 学習の見通しを持たせる。 ・本単元の学習は、3回に分けて行い、最初に物語を読んで場面に分け、次に登場人物の変化を考えた後、感想を書き、最後に、感想を伝え合う学習を行うことを確認する。 ④ 「まいごのかぎ」を読ませる。 ・様子を表す言葉に着目して、不思議な出来事を想像させながら読ませたい。 ○全文を通読するだけで、約12分かかるため、児童の実態に応じて、教師が範読するのを聞かせたり、一部分だけ児童に音読させたりと、臨機応変に活動に取り組ませたい。 ・辞書を使った言葉の意味調べも、時間がとれないことが予想されるので、通読しながら、該当語句の説明等を行うとよい。 ⑤ 6つの場面ごとに、それぞれの出来事とその時の「りいこ」の様子や気持ちを確かめさせる。 「それぞれの場面の出来事と、その時の『りいこ』の気持ちをたしかめましょう。」 ・場面ごとに尋ね、児童から出された意見をもとに黒板にまとめていく。P82の「ノートのれい」を参考にするとよい。	・学習の見通しを持つ。 ・様子を表す言葉に着目しながら「まいごのかぎ」を読む。 ・6つの場面ごとに、それぞれの出来事とその時の「りいこ」の様子や気持ちを確かめる。
終末 5分	⑥ 次時の学習内容を確認させる。 「次は、『りいこ』のへんかを考えて、感想文を書きます。」	・次時で学習することを確認する。

### 指導のポイント

#### ○文学的な文章の指導について(精査・解釈)

- ・2年生までに、児童は、1つの場面の様子の中で、登場人物の行動を具体的に想像することを学習する。3年生では、さらに登場人物の気持ちを場面の移りかわりと結び付けて具体的に想像できるように指導することが求められている。



## 板書例

- ① 題材名「まいごのかぎ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 学習の見通しを持たせる。
- ④ 「まいごのかぎ」を読ませる。
- ⑤ 6つの場面ごとに、それぞれの出来事とその時の「りいこ」の様子や気持ちを確かめさせる。  
「それぞれの場面の出来事と、その時の『りいこ』の気持ちをたしかめましょう。」

まいごのかぎ

登場人物のへんかに気をつけて読もう。

場面ごとのできごとや「りいこ」の気持ち

- ① 学校の帰り道
- ② 交番に向かう坂道
- ③ 公園
- ④ 海岸通りの魚の開き
- ⑤ 海岸通りのバス停
- ⑥ 海岸通りの国道

- ⑥ 次時の学習内容を確認させる。  
「次は、『りいこ』のへんかを考えて、感想文を書きます。」

三年 組 名前( )

めあて

場面ごとのできごとや「りいこ」の気もちをまとめよう

	場面	できごと	「りいこ」気もち
一	学校の帰り道		
二	交番に向かう坂道		
三	公園にて		
四	海岸通りの魚の開き		
五	海岸通りのバス停		
六	海岸通りの行動		

三年 組 名前）

めあて

登場人物のへんかに気をつけて読もう。

場面ごとのできごとや「りいこ」の気もちをまとめよう

場面	できごと	「りいこ」気もち
一 学校の帰り道	・ 図工の時間を思い出す ・ かぎをひろう	・ うつむきがち 「またよけいなことをしちやつたな。」
二 交番に向かう坂道	・ さくらの木からどんぐりが落ちてきた	・ びつくり
三 公園にて	・ ベンチが歩きだした	・ ひつくり返りそうになった
四 海岸通りの魚の開き	・ 魚がうかびあがった。	・ あっけにとらわれた
五 海岸通りのバスの停	・ 時こく表の数字がぞろぞろと動いた	・ 「どうしよう。」 ・ 「すごい。」
六 海岸通りの行動	・ バスがダンスをはじめた	・ た ・ うれしくなって、大きく手をふった

## 2 1

題材名 「まいごのかぎ」(第2時/全3時間)

目標 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。  
 ◎積極的に登場人物の気持ちの変化を想像し、学習課題に沿って、物語の感想を書こうとすることができる。

領域等 C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「まいごのかぎ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 「りいこ」のへんかを考えて、感想文を書こう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ 物語の最初と最後で「りいこ」がどのような変化があったのか、考えさせる。 「ふしぎな出来事にたいする『りいこ』の考えやその時の気持ちは、どのようにかわりましたか。」 ・不思議な出来事への考えは、消極的から積極的に捉えようとする考えに、気持ちは、暗くて不安な気持ちから、明るく安心している気持ちに変化していることを読み取らせたい。 ・P158「気持ちを表す言葉」に紹介されている語彙を参考にさせるのもよい。 ④ 100字程度の物語の感想を書かせる。 「3つの組み立てで感想を書きましょう。」 ○ P83の「まとめよう」を参考に書かせる。書く活動が苦手な児童に対しては、一部分だけでも書けたら、そのがんばりを認めてあげるようにしたい。	・物語の最初と最後で「りいこ」がどのような変化があったのか、考える。 ・物語の感想を100字程度で書く。
終末 5分	⑥ 次時の学習内容を確認させる。 「次の時間は、友だちが書いた感想文を読み合しましょう。」	・次時で学習することを確認する。

### 指導のポイント

#### ○作品の魅力に触れさせる指導

・「まいごのかぎ」は、「りいこ」が偶然拾った「かぎ」をきっかけに体験する不思議な体験を通して、明るく前向きに生活することの大切さに気付くことができる作品である。児童は、「りいこ」に等身大の自分の姿を重ね合わせることで、不思議な体験の追体験ができる魅力がこの作品にはあると言える。指導の際、作品の魅力に留意すると、児童の感性を高める一助となるであろう。

板書例

- ① 題材名「まいごのかぎ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 物語の最初と最後で「りいこ」がどのような変化があったのか、考えさせる。  
「ふしぎな出来事にたいする『りいこ』の考えやその時の気持ちは、どのようにかわりましたか。」
- ④ 100字程度の物語の感想を書かせる。  
「3つの組み立てで感想を書きましょう。」

さ い ご	さ い し よ	
まんぞく ゆかい	あせる びっくりする	不思議な出来事に対する「りいこ」の考え
きげんがいい	ふあん はずかしい	「りいこ」の気持ち

「りいこ」のへんかを考えて、感想文を書こう。

まいごのかぎ

- ⑥ 次時の学習内容を確認させる。  
「次の時間は、友だちが書いた感想文を読み合ひましょう。」

三年 組 名前

めあて

--

(1)不思議な出来事に対する「りいこ」の考えはどのようにかかりましたか。

(2)「りいこ」の気もちは、物語のさいしよとさいごではどのようにかかりましたか。

(3)「りいこ」のへんかを考えて、感想文を書きましょう。

三年 組 名前）

めあて

「りいご」のへんかを考えて、感想文を書く。

（1）不思議な出来事に対する「りいご」の考えはどのようにかかりましたか。

さいしよは、びつくりしたり、あせつたりしていたが、さいごのほうでは、ゆかいに思ったり、まんぞくな気もちになったりした。

（2）「りいご」の気もちは、物語のさいしよとさいごではどのようにかかりましたか。

さいしよは、はずかしがったり、ふあんな気もちだったりしたが、さいごのほうでは、気分がよくなったり、きげんがよくなったりした。

（3）「りいご」のへんかを考えて、感想文を書きましよう。

## 22

題材名 「まいごのかぎ」(第3時/全3時間)

目標 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。  
 ◎積極的に登場人物の気持ちの変化を想像し、学習課題に沿って、物語の感想を書こうとすることができる。

領域等 C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「まいごのかぎ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 書いた感想を友だちと読み合いましょう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 25分	③ 前時で書いた感想をお互いに読み合わせる。 「友だちの感想を読んで、自分の考えと同じ所や違うところを伝え合いましょう。」 ・読んだ後に、友だちの書いた感想で、自分の考えと同じところやちがうところについて伝え合わせる。 ・時間がとれたら、良い読み取り方をしている児童の感想を発表させ、共有できるとよい。	・感想をお互いに読み合う。
終末 15分	④ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「感」「想」「具」「悪」「拾」「持」「向」「坂」「悲」「岸」「路」の練習をさせる。 ⑤本時の学習内容を確認させる。 「物語を読む時には、出来事で登場人物がどう変わるのか確かめるとよいことが分かりましたか。」	・新出漢字の読み書きの練習をする。 ・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○文学的な文章の指導について(共有)

・2年生までに、児童は、物語を読んで感じたことを共有する活動を行ってきた。3年生ではさらに、一人一人の感じ方には違いがあることに気付かせたい。そこで、友だちの感想をただ漫然と読ませるのではなく、ねらいに迫ることができる視点を与える必要がある。



## 板書例

- ① 題材名「まいごのかぎ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 前時で書いた感想をお互いに読み合わせる。

「友だちの感想を読んで、自分の考えと同じ所や違うところを伝え合ひましょう。」

まいごのかぎ

書いた感想を友だちと読み合ひましょう。

登場人物のへんかに気をつけて読む

- ① どんな出来事がおこったか。

- ② そのときの登場人物の気持ちや様子

は、どの言葉から分かるか。

- ③ 出来事がおこる前と後では、

登場人物はどうかわったか。

〈新しく習う漢字〉

感想 絵の具 悪い 拾い上げる  
持つ 向かう 坂 悲鳴 海岸 路線

- ④ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑤ 本時の学習内容を確認させる。  
「物語を読む時には、出来事で登場人物がどう変わるのか確かめるとよいことが分かりましたか。」

三年 組 名前( )

めあて

--

(1) 友だちの感想を読んで考えたことを書きましよう。

(2) 物語を読む時に気をつけるとよいことは何でしょうか。

〈新しく習う漢字〉

路	悲	向	拾	具	感
	岸	坂	持	悪	想

三年 組 名前（

めあて

友だ書いた感想を友だちと読みあい、感想を伝え合う

（1）友だちの感想を読んで考えたことを書きました。

（2）物語を読む時に気をつけるとよいことは何でしょうか。

①どんな出来事がおこったのか、じゅんじよよくたしかめる。

②そのときの登場人物の気持ちや様子を、物語に書かれている言葉よりたしかめる。

③出来事がおこる前と後の登場人物のへんかをたしかめる。

〈新しく習う漢字〉

路	悲	向	拾	具	感
	岸	坂	持	悪	想

## 23

題材名 「俳句を楽しもう」(第1時/全1時間)

目標 易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。  
◎学習課題に沿って、進んで言葉の響きやリズムに親しむことができる。

領域等 知識及び技能

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「俳句を楽しもう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 俳句を読み、言葉の調子やひびきを楽しもう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ P85 を読み、俳句の仕組みや表現対象を知らせる。 ④ P85、86 の6つの俳句を読み、俳句ならではの調子や響きを味合わせる ○最初は、俳句を3つに分けて範読後、その都度追い読みさせ、慣れるに従い、徐々に音読の長さを増やしていく。 「声を出して俳句を読み、言葉の調子やリズムを楽しみましょう。」 ・リズムを掴ませやすくするために、一音ずつ手を叩きながら音読させるのも良い。 ・俳句の読解よりは、可能な限り、音読を繰り返して俳句のもつ言葉の調子やリズムを味合わせたい。 ⑤ 「いろは歌」や気に入った俳句を音読したり暗唱させたりする。 ・時間がとれたら、なぜその俳句が気に入ったのか伝え合う活動ができると良い。	・俳句の仕組みや表現対象を知る。 ・6つの俳句を声を出して読み味わう。 ・「いろは歌」や気に入った俳句を音読したり、暗唱しりする。
終末 5分	⑥新出漢字の読み書きを練習させる。 ・「区」「陽」を練習させる。 ⑦本時の学習内容を確認させる。 「俳句の言葉の調子やリズムを味わうことができましたか。」	・新出漢字の読み書きを練習する。 ・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○ 古典の指導について

- ・1, 2年生において児童は「聞いて楽しもう」の読み聞かせの活動を通して昔話などに慣れ親しんできた。これを受けて、3年生から6年生にかけては、古典や文語文に触れさせ、更に日本の伝統文化に慣れ親しむことをねらう。そこで、3年生では、繰り返し声に出して読むことで、言葉の調子やリズムを掴ませやすい俳句と短歌を取り扱う。
- ・世界各国には、短歌や俳句のように声を出して読んだりすると、その国や地域の言語により親しむことができる作品が多く見られる。それらのものに触れる機会を持つもの大変有意義である。

板書例

- ① 題材名「俳句を楽しもう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ P85を読み、俳句の仕組みや表現対象を知らせる。
- ④ P85、86の6つの俳句を読み、俳句ならではの調子や響きを味合わせる  
「声を出して俳句を読み、言葉の調子やリズムを楽しみましょう。」
- ⑤ 「いろは歌」や気に入った俳句を音読したり暗唱させたりする。

俳句を楽しもう

俳句を読み、言葉の調子やひびきを楽しもう。

古池や 蛙飛びこむ 水の音 松尾 芭蕉

閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声 松尾 芭蕉

春の海 終日 のたりのたりかな 与謝 蕪村

菜の花や 月は東に 日は西に 与謝 蕪村

雪とけて 村いっぱいの 子どもかな 小林 一茶

夏山や 一足づつに 海見ゆる 小林 一茶

〈新しく習う漢字〉

区切る 太陽

- ⑥ 新出漢字の読み書きを練習させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「俳句の言葉の調子やリズムを味わえましたか。」

俳句を楽しもう

W  
23

三年 組 名前)

めあて

どこで区切って読むと、調子よく読めるでしょう。線を引きましょう。

古池や 蛙飛びこむ 水の音

松尾 芭蕉

閑かさや 岩にしみ入る 蝉の声

松尾 芭蕉

春の海 終日 のたりのたりかな

与謝 蕪村

菜の花や 月は東に 日は西に

与謝 蕪村

雪とけて 村いつぱいの 子どもかな

小林 一茶

夏山や 一足づつに 海見ゆる

小林 一茶

〈新しく習う漢字〉

区								
				陽				

俳句を楽しもう（記入例）

三年 組 名前（

めあて

俳句を読み、言葉の調子やひびきを楽しもう

どこで区切って読むと、調子よく読めるでしょう。線を引きましょう。

古池や / 蛙飛びこむ 水の音

松尾 芭蕉

閑かさや / 岩にしみ入る 蝉の声

松尾 芭蕉

春の海 / 終日 のたりのたりかな

与謝 蕪村

菜の花や / 月は東に 日は西に

与謝 蕪村

雪とけて / 村いっばいの 子どもかな

小林 一茶

夏山や / 一足づつに 海見ゆる

小林 一茶

〈新しく習う漢字〉

区								
				陽				

## 24

題材名 「こそあど言葉を使いこなそう」(第1時/全1時間)

目標 指示する語句の役割について理解することができる。  
 ◎学習課題に沿って、指示する語句の役割を積極的に理解し使おうとすることができる。

領域等 知識及び技能

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「こそあど言葉を使いこなそう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 こそあど言葉を知り、使えるようにしよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ P88 を読み、こそあど言葉の意味と使い方を考えさせる。 ・生活の中でどのように使われているのかを発表させる。 ・対象との距離や目的に応じて使い分けることを理解する。 ④ P88 を読み、文をより簡潔に表現できることを理解させる。 ・例文を音読させ、両者の簡潔さの違いについて気付かせたい。 ⑤ P89 の設問に取り組み、こそあど言葉が示す語句を考えさせる。 ・主に、3つのルールに沿って、見出し語が順序良く並べられていることを理解させたい。	・こそあど言葉の意味と使い方を理解する。 ・文をより簡潔に表現できることを理解する。 ・こそあど言葉が示す語句を考える。
終末 5分	⑥新出漢字の読み書きを練習させる。 ・「泳」「練」「助」「童」「申」を練習させる。 ⑦本時の学習内容を確認させる。 「こそあど言葉の意味と使い方が分かりましたか。」	・新出漢字の読み書きを練習する。 ・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○ こそあど言葉（指示語）の指導について

- ・日本語を母語としているこの時期の児童は、自分たちが無意識に使っている言葉の特性に気づき、円滑なコミュニケーションを図るために活用しようとする意識を高めたい。
- ・日本語が母語でなかったり、日常生活の中で複数言語を使用している児童には、指示語の使用によってコミュニケーションに障害や混乱が生じていないか配慮する必要がある。



## 板書例

- ① 題材名「こそあど言葉を使いこなそう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ P88を読み、こそあど言葉の意味と使い方を考えさせる。
- ④ P88を読み、文をより簡潔に表現できることを理解させる。
- ⑤ P89の設問に取り組み、こそあど言葉が示す語句を考えさせる。

こそあど言葉を使いこなそう

「こそあど言葉を知り、使えるようにしよう。」

こそあど言葉

①何かを指ししめす言葉

「この・その・あの」「これ・それ・あれ」  
「どの」「どれ」

②相手と自分が同じものを指しているか  
気をつける。

③こそあど言葉を使うと会話や文章を  
短くできる。

〈新しく習う漢字〉

泳ぐ 練習 助言 童話 申しこむ

- ⑥ 新出漢字の読み書きを練習させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「こそあど言葉の意味と使い方が分かりましたか。」

こそあど言葉を使いこなそう

三年 組 名前( )

めあて

--

(1)こそあど言葉の意味を書きましょう。

(2)こそあど言葉を使う時に気をつけることを書きましょう。

(3)こそあど言葉を使うとよいことを書きましょう。

(4)89 ページの問題を考えましょう。

①「そこ」↓

②「これ」↓

②「あれ」↓

〈新しく習う漢字〉

申	助	泳
	童	練



## 25

題材名 「引用するとき」(第1時/全1時間)

目標 引用の仕方や出典の示し方を理解し使うことができる。  
 ◎積極的に引用の仕方を学び、文章を書く時に適切な引用をすることができる。

領域等 知識及び技能

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「引用するとき」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 決まりをまもって引用できるようにしよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ P90を読み、引用について理解させる。 ・調べたことを書いたり、話したりする時は、自分の考えと区別しなければならないことを理解させたい。 ④ P90~91を読み、引用の決まりを理解させる。 「引用するとき大切な3つの決まりを確かめましょう。」 ○文章を引用するときの3つの決まりを確かめさせる。 特に、かぎ(「 」)を必ずつけることを強調する。 ・正しく引用するために必要なメモの取り方を理解させる。 ・人から聞いたことを引用して書く方法を理解させる。	・引用について理解する。 ・文章を書く時に、正しく引用するための決まりを理解する。
終末 5分	⑤本時の学習内容を確認させる。 「引用の意味と決まりが分かりましたか。」	・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○ 情報に関する指導について(情報モラル)

・今回の教科書改訂に伴い、情報の扱い方に関する事項が新設され、「情報の整理」の指導内容の1つとして「引用の仕方」が挙げられている。本時の学習をきっかけに、文章・話・写真など、相手が表現したあらゆるものを尊重しようとする態度を養っていきたい。そのことが、著作権の保護などの情報モラルの意識向上につながっていくと言える。

## 板書例

- ① 題材名「引用するとき」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ P90を読み、引用について理解させる。
- ④ P90~91を読み、引用の決まりを理解させる。  
「引用するときに大切な3つの決まりを確かめましょう。」

引用するとき

決まりをまもって引用できるようにしよう。

引用とは

↓ほかの人の言葉を、自分の文章や話の中で使うこと

引用するときの決まり

- ① かぎ（「」）をつけて、分かるようにする。
- ② 元の文章をそのままぬき出す。
- ③ 何から引用したのかをしめす。

- ⑤ 本時の学習内容を確認させる。

「引用の意味と決まりが分かりましたか。」



三年 組 名前

めあて

--

(1) 引用するときの決まりをまとめましょう。

① かぎをつけたり、本文よりも少し下げたりして、分かるようにする。

② 元の文章を、そのままぬき出す。

③ 何から引用したのかをしめす。

(2) 「こまを楽しむ」から引用して、きょうみをもったこまとその遊び方を、一つしようにかいた文章を書きましょう。

わたしが、きょうみをもったこまは、色がわりごまです。

「こまを楽しむ」では、「色がわりごまは、回っているときの色を楽しむこまです。」と書かれています。

わたしは、ここにきょうみもちました。

## 26

題材名 「仕事のくふう、見つけたよ」(第1時/全4時間)

目標 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

◎内容の中心が明確になるよう、積極的に書く工夫をして文章の構成を考え、学習の見通しをもって、調べたことを報告する文章を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 調べたい仕事を決めて、くわしく調べる。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・4回に分けて学習を進めることを伝える。1回目は、仕事調べの計画を、2、3回目は、報告文の組み立てを確かめて書くことを、4回目は、読み合って、感想を伝え合う学習をすることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 35分	③ 調べたい仕事を決めさせる。 「身の回りにある仕事の中から、自分が調べたい仕事を選びましょう」 ・現地の人々の仕事に興味をもっているものの中から決めさせても、保護者の仕事から決めさせてもよい。 ④くわしく調べるための計画を立てさせたり、準備をさせたりする。 「知りたいことをはっきりさせましょう。」 「どんな工夫をしているのか、見たりきいたりして調べたことをメモしておきましょう。」 ○実際に調べるのは、家庭に帰ってからになるため、調べる時間を確保するためにも、他の単元の学習を入れ換えて、次時の学習との間隔をあげられるとよい。可能ならば、写真を撮影させておいてもよい。	・調べる仕事を決める。 ・くわしく調べるための計画を立てたり、準備をする。
終末 5分	⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「仕」「身」「品」「客」の読み書きの練習をさせる。 ⑦次時の学習内容を確認させる。 「次の時間は、調べたことを報告する文章を書きます。見つけた工夫の中から、伝えたいことを3つぐらい選んでおきましょう。」	・「仕」「身」「品」「客」の読み書きの練習をする。 ・次時で学習することを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○報告文の指導について(1)

・本単元の教材は、文献を用いて調べたことを報告する「文献調査」ではなく、自分が実際に動いて調べたことを報告する「実証調査」となっている。そのため、補習授業校以外の地域や家庭でどれだけ調べる活動を行えるかにかかっている。しかし、国内にくらべていろいろな面で制約があるため、無理の無い範囲で取り組ませたい。



## 板書例

- ① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 調べたい仕事を決めさせる。  
「身の回りにある仕事の中から、自分が調べたい仕事を選びましょう」
- ④ くわしく調べるための計画を立てさせたり、準備をさせたりする。  
「知りたいことをはっきりさせましょう。」  
「どんな工夫をしているのか、見たりきいたりして調べたことをメモしておきましょう。」

仕事のくふう、見つけたよ

調べたい仕事を決めて、くわしく調べる。

今日の学習の進め方

- ① 調べたい仕事を決める。
- ② くわしく調べる。
- (1) 調べたい仕事の知りたいことをはっきりさせる。
- (2) どんなくふうをしているのか、見たりきいたりして調べる。
- (3) 見つけたくふうの中から、つたえたいことをえらぶ。

〈新しく習う漢字〉

仕事 身の回り 商品 お客様

- ⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑦ 次時の学習内容を確認させる。  
「次の時間は、調べたことを報告する文章を書きます。見つけた工夫の中から、伝えたいことを3つぐらい選んでおきましょう。」

# 仕事のくふう、見つけたよ①

三年 組 名前 (

めあて

--

(1)調べたい仕事を決めましょう。

(2)くわしく調べましょう。

Blank writing area with horizontal dashed lines.

式	去	終	品	仕
	筆	銀	客	身

〈新しく習う漢字〉

仕事のくふう、見つけたよ①

〈記入例〉

W  
26

三年 組 名前)

めあて

調べたい仕事を決めて、くわしく調べましょう。

(1) 調べたい仕事を決めましょう。

近所にあるスーパーマーケットを調べてみたい。

(2) くわしく調べましょう。

知りたいこと

① 商品の並べ方のくふう

② たくさんのお客様に来てもらうためのくふう

③ 商品の仕入れ方

調べ方

① お店の人に聞く。

② お客様さんに聞いてみる。

つたえたいことをえらぶ

① ともだちは、商品のおき方をくわしく知りたいかもしれない。

② お客様さんに来てもらうためのくふうも知りたいかな。

## 27、28

題材名 「仕事のくふう、見つけたよ」(第2、3時/全4時間)

目標 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

◎内容の中心が明確になるよう、積極的に書く工夫をして文章の構成を考え、学習の見通しをもって、調べたことを報告する文章を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 調べたことをほうこくする文章を書こう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時と次時の2回に分けて、報告文の組み立てを確かめから書き上げることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 80分	③ 報告文の組み立てを確かめさせる。 ・「仕事の工夫」をキーワードに、最後まで一貫性をもった文章になるように意識付ける。 ・「3. 調べて分かったこと」は、項目を3つほどに指定する。この中に事実のみでなく、自分の考えを書いても可とする。 ④ 組み立てに沿って、報告書を書かせる。 「教科書 P94 に書かれていることに気をつけて報告する文章を書きましょう。」 ○ P94、95 及び、97 を参考に書き進めさせる。特に今回は、これまで児童があまり経験していない、横書きで書かせるため、P95 の例の型をまねて書かせるようにする。また、マス目の用紙があれば使用させたい。 ・絵や写真を入れても可とする。その際、レイアウトに留意させる。	・報告文の組み立てを確かめる。 ・組み立てに沿って、報告書を書く。
終末 5分	⑥ 次時の学習内容を確認させる。 「次の時間は、報告書をお互いに読み合って、感想を伝え合います。」	・次時で学習することを確認める。

### 指導のポイント

#### ○報告文の指導について(2)

・この時点の児童に求められている、文章を書くために必要な技能として、①漢字と仮名を適切に用いた表記②正しい送り仮名の付け方③改行の仕方④適切な句読点の表記⑤適切な文体の表記等と多くの技能がすでに求められている。補習授業校で学ぶ児童は、国内や日本人学校で学ぶ児童に比べると、圧倒的に日本語学習の時間が取れない状況にある。そのため、あれもこれもと指導の窓口を広げずに、「この時間は、これだけは身に付けさせたい。」とポイントを絞った指導になるように心掛けたい。

## 板書例

- ① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 報告文の組み立てを確かめさせる。
- ④ 組み立てに沿って、報告書を書かせる。  
「教科書P94に書かれていることに気をつけて報告する文章を書きましょう。」

仕事のくふう、見つけたよ

調べたことをほうこくする文章を書こう。

ほうこくする文章の組み立て

- ① 調べたきっかけや理由
- ② 調べ方
- ③ 調べて分かったこと
- ④ まとめ

気をつけること

- ① れいをあげて書く。
- ② ないようごとに段落に分ける。
- ③ 見せたいものが、はっきりと分かる絵や写真にする、

- ⑥ 次の学習内容を確認させる。  
「次の時間は、報告書をお互いに読み合って、感想を伝え合います。」



(2)

(3)

4. まとめ



めあて 三年 組 名前( )

調べたことをほうこくする文章を書こう。

題〔スーパーマーケットの商品のならば方のくふう〕

1. 調べた理由

スーパーマーケットに買い物に行ったときに、いつも商品のならば方をお店の人たちはどうしているのか気になっていました。そこで、商品のならば方のくふうについて、調べることにしました。

2. 調べ方

じっさいにお店に行き、見学をしたり、お店の人に質問したりして調べました。

3. 調べて分かったこと

(1) おすすめ品のおき方

このスーパーでは、お客さんにかつてもたいたい商品を手に取ってもらえるようにくふうしています。(以下中略)

4. まとめ

わたしは、こんなにお店の人たちがいろいろなくふうをしているので、とてもびつくりしました。

ほかにもどことなくふうがあるのか、さがしてみたいと思いました。

## 27、28

題材名 「仕事のくふう、見つけたよ」(第2、3時/全4時間)

目標 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

◎内容の中心が明確になるよう、積極的に書く工夫をして文章の構成を考え、学習の見通しをもって、調べたことを報告する文章を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 調べたことをほうこくする文章を書こう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時と次時の2回に分けて、報告文の組み立てを確かめから書き上げることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 80分	③ 報告文の組み立てを確かめさせる。 ・「仕事の工夫」をキーワードに、最後まで一貫性をもった文章になるように意識付ける。 ・「3. 調べて分かったこと」は、項目を3つほどに指定する。この中に事実のみでなく、自分の考えを書いても可とする。 ④ 組み立てに沿って、報告書を書かせる。 「教科書P94に書かれていることに気をつけて報告する文章を書きましょう。」 ○ P94、95及び、97を参考に書き進めさせる。特に今回は、これまで児童があまり経験していない、横書きで書かせるため、P95の例の型をまねて書かせるようにする。また、マス目の用紙があれば使用させたい。 ・絵や写真を入れても可とする。その際、レイアウトに留意させる。	・報告文の組み立てを確かめる。 ・組み立てに沿って、報告書を書く。
終末 5分	⑥ 次時の学習内容を確認させる。 「次の時間は、報告書をお互いに読み合って、感想を伝え合います。」	・次時で学習することを確認める。

### 指導のポイント

#### ○報告文の指導について(2)

・この時点の児童に求められている、文章を書くために必要な技能として、①漢字と仮名を適切に用いた表記②正しい送り仮名の付け方③改行の仕方④適切な句読点の表記⑤適切な文体の表記等と多くの技能がすでに求められている。補習授業校で学ぶ児童は、国内や日本人学校で学ぶ児童に比べると、圧倒的に日本語学習の時間が取れない状況にある。そのため、あれもこれもと指導の窓口を広げずに、「この時間は、これだけは身に付けさせたい。」とポイントを絞った指導になるように心掛けたい。

## 板書例

- ① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 報告文の組み立てを確かめさせる。
- ④ 組み立てに沿って、報告書を書かせる。  
「教科書P94に書かれていることに気をつけて報告する文章を書きましょう。」

仕事のくふう、見つけたよ

調べたことをほうこくする文章を書こう。

ほうこくする文章の組み立て

- ① 調べたきつかけや理由
- ② 調べ方
- ③ 調べて分かったこと
- ④ まとめ

気をつけること

- ① れいをあげて書く。
- ② ないようごとに段落に分ける。
- ③ 見せたいものが、はっきりと分かる絵や写真にする、

- ⑥ 次の学習内容を確認させる。  
「次の時間は、報告書をお互いに読み合って、感想を伝え合います。」



(2)

(3)

4. まとめ

めあて 三年 組 名前)

調べたことをほうこくする文章を書こう。

題〔スーパーマーケットの商品のならば方のくふう〕

1. 調べた理由

スーパーマーケットに買い物に行ったときに、いつも商品のならば方をお店の人たちはどうしているのか気になっていました。そこで、商品のならば方のくふうについて、調べることにしました。

2. 調べ方

じっさいにお店に行き、見学をしたり、お店の人に質問したりして調べました。

3. 調べて分かったこと

(1) おすすめ品のおき方

このスーパーでは、お客さんにかつてもたいたい商品を手に取ってもらえるようにくふうしています。(以下中略)

4. まとめ

わたしは、こんなにお店の人たちがいろいろなくふうをしているので、とてもびつくりしました。

ほかにもどことなくふうがあるのか、さがしてみたいと思いました。

)

## 29

題材名 「仕事のくふう、見つけたよ」（第4時／全4時間）

目標 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対するかんそうや意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。

◎内容の中心が明確になるよう、積極的に書く工夫をして文章の構成を考え、学習の見通しをもって、調べたことを報告する文章を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 <u>読み合って、感想を伝え合おう</u> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時は、読んで感想を伝え合う学習を最後にすることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 35分	③ 書いた文章をお互いに読み合わせ、感想を伝え合わせる。 「説明の仕方で良かった点を伝えてください。また、調べた内容について初めて知ったことも伝えてください。」 ・読後の感想として、説明の仕方で良かった点と調べた内容について新しく知った点の2点について伝え合わせる。 ・伝え方として、直接相手に伝える方法と、付箋紙等を書いて間接的に伝える方法がある。児童の実態に応じて適宜方法を選択する。	・書いた文章をお互いに読み合い、感想を伝え合う。
終末 5分	④ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「終」「銀」「去」「筆」「式」の読み書きの練習をさせる。 ⑤ 本単元の学習内容を確認させる。 「調べたことを報告する文章の書き方が分かりましたか。」	・「終」「銀」「去」「筆」「式」の読み書きの練習をする。 ・本単元で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○報告文の指導について（3）

・本時では、自分たちが書いた報告文を読み合い、感想を伝え合う学習を行う。報告文の命は、分かりやすい表現である。分かりやすい表現ができるようになるためにも、第三者からの感想を聞く活動はとても大切な活動であると言える。報告文に限らず、自分で表現したものが相手にどのように伝わっているのか、お互いに確認し合う活動は、可能な限り行わせたい。

板書例

- ① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

③ 書いた文章をお互いに読み合わせ、感想を伝え合わせる。  
「説明の仕方で良かった点を伝えてください。また、調べた内容について初めて知ったことも伝えてください。」

仕事のくふう、見つけたよ

読み合って、感想を伝え合おう

感想を伝え合う

- ① せつめいのしかたでよかったこと
- ② 調べたことについて知らなかったこと

ほうこくする文章を書くとき

- ① ないようのまとまりごとに  
つたえたいことを分ける。(段落)
- ② 分かったことと考えたことを  
くべつして書く。
- ③ 分かりやすい絵やしんを使う。

〈新しく習う漢字〉

終わり 銀行 去年  
毛筆 入学式

- ④ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑤ 本単元の学習内容を確認させる。  
「調べたことを報告する文章の書き方が分かりましたか。」



仕事のくふう、見つけたよ④

W  
29

三年 組 名前( )

めあて

(1) 友だちのほうこくする文章を読んだ感想を書きましょう。

■ せつめのしかた

■ 調べたことについて

(2) ほうこくする文章を書く時に気をつけることをまとめましょう。

\*ふ号など

●く読点(、)や。( ) ●中点(・) ●ダッシュ(—) ●かぎ「」( ) ●横書き

三年 組 名前)

めあて

のほうこくす読み合つて、感想をつたえ合おう。

(1)友だちのほうこくする文章を読んだ感想を書きましょう。

■せつめいのしかた

おすすめ品のおき方のせつめいのしかたが分かりやすかった。

■調べたことについて

お店の人に聞かないと分からないことは、たくさんあるんだな。

(2)ほうこくする文章を書く時に気をつけることをまとめましょう。

①つたえたいことを、ないようのまとまりに分ける。

②分かったことと考えたことをくべつして書く。

③分かりやすい絵やしやしんを使う。

# 30

題材名 「夏のくらし」(第1時/全1時間)

目標 語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。

◎夏らしさを感じる言葉を積極的に知ろうとし、自らの語彙を豊かにしようとする。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「夏のくらし」を黒板に書く。	・ 本時の目標を知る。
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 夏らしさを感じる言葉を集めよう ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・ 目標を声を合わせて読む。
	③ p98,99の「はなび」を音読させる。 ・音読することで、夏の代名詞である花火の鮮やかなイメージをつかませたい。	・「はなび」を音読する。
終末 10分	④ p98,99を参考に、夏の暑さをしのぐ工夫や、夏ならではの食べ物について話し合う。 ・児童の日本国内における生活経験の差を配慮し、図鑑やネットで検索した関連画像を活用してもよい。 ○授業校が熱帯地方にある場合は、現地における衣食住の工夫についてふれると現地理解にもつながる。	・夏の暑さをのりきる工夫や夏に喜ばれる食べ物について話し合う。
	⑤ 身の回りで見つけた夏らしさを感じたものについて書く。 「身の回りでは夏らしさを感じたものについて書いてみましょう。」 ・P98の例を参考に2～4文程度の文章を書かせる。 ・「暑かったので、してみたこと」について、日記形式で書かせる。 ○日本国内と自然環境が異なる地域の場合は、児童の居住している地域の生活について触れたものであればよしとする。 ・時間がとれたら、書いた文章をお互いに読み合い、交流する。	・ワークシートに暑かったののでしてみたことについて書く。
	⑥ 本時の学習内容を確認させる。 「夏らしさを感じる言葉には、どのような言葉があるのか、分かりましたか。」	・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○「季節の言葉」の学習指導について

- ・本教材は、2～6年生で年間4回ずつ実施する。同じ季節でも学年の実態に応じたテーマが設定されている。2年生が、身近な動植物。3年生が、日常生活。4年生が、年間行事。5年生が、日常の天気や気象。そして6年生が、暦(二十四節気)となっている。とかく海外で暮らす児童にとっては、日本特有の自然や季節感を実感する機会になかなか恵まれない状況にある。そこで本教材を有効に活用して、日本の豊かな自然環境や伝統文化の一端に触れさせたい。

### ○インターネットによる画像検索の活用について

- ・児童は、国内に比べて、季節感を体感する機会がどうしても少なくなる。そのため、インターネットによる画像検索をもとに作成した各種関連画像を大いに活用したい。各種画像を通してより季節感への理解を深めさせたい。その際、著作権を侵さないよう、十分に配慮したい。

## 板書例

① 題材名「夏のくらし」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ p98,99の「はなび」を音読させる。

④ p98,99を参考に、夏の暑さをしのぐ工夫や、夏ならではの食べ物について話し合う。

⑤ 身の回りで見つけた夏らしさを感じたものについて書く。

「身の回りで夏らしさを感じたものについて書いてみましょう。」

夏のくらし

夏らしさを感じる言葉を集めよう。

あつい夏をのりきるためのくふう

すだれ かとり線こう

うち上げ花火 うちわ

ふうりん あみ戸 せんぷうき

夏によろこばれるたべもの

ところてん そうめん 白玉

みつめ 水ようかん

⑥ 本時の学習内容を確認させる。

「夏らしさを感じる言葉には、どのような言葉があるのか分かりましたか。」

三年 組 名前

めあて

--

(1) あつい夏をのりきるためのくふうを集めましょう。

(2) 夏によろこばれる食べ物を集めましょう。

(3) 身の回りで見つけた、夏を感じたものについて書きましょう。

三年 組 名前

めあて

夏らしさを感じる言葉を集める。

(1)あつい夏をのりきるためのくふうを集めましょう。

ふうりん あみど せんぷうき

(2)夏によろこばれる食べ物を集めましょう。

ところてん 白玉 みつまめ そうめん 水ようかん

(3)身の回りで見つけた、夏を感じたものについて書きましょう。

きのうの夜、近所で花火大会がありました。

家族で見に行きました。

たくさんのおち上げ花火を見ることができました。

中でもスターマインという花火がとてもきれいだなと思いました。  
た。

花火を見ていたら、ちよつぴりすずしく感じました。

# 31

題材名 「はじめて知ったことを知らせよう『鳥になった恐竜の話』（第1時／全2時間）

目標 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。  
 ◎積極的に幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って、本を読んだ感想などを発表しようとしたりすることができる。

領域等 知識及び技能

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「はじめて知ったことを知らせよう『鳥になった恐竜の話』」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">本を読んで はじめて知ったことをつたえ合おう。</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・2回に分けて学習を進めることを伝える。本来ならば、P103 に紹介されている本の中から選ばせた本を読ませる流れであるが、本時では、「鳥になった恐竜の話」を読み、次時に本の感想を伝え合う学習をすることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 35分	③ 本を読んで、何かを知ったときのことについて話し合わせる。 「本を読んで新しく知ったことについて話し合おう。」 ○内容まで踏み込めない児童については、今まで読んだ本の中でおもしろかった本の題名を挙げさせる等の支援を行う。 ④ 「鳥になった恐竜の話」を読ませる。 ・長文のため、教師の範読を聞きながら読ませる。また、意味を押さえた方が良い言葉については、逐次説明をしていく。	・本を読んで、何かを知ったときのことについて話し合う。 ・「鳥になった恐竜の話」を読む。
終末 5分	⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「植」「集」「化」の読み書きの練習をさせる。 ⑦次時の学習内容を確認させる。 「次は、読んで はじめて知ったことを伝え合います。」	・「植」「集」「化」の読み書きの練習をする。 ・次時で学習することを確かめる。

## 指導のポイント

### ○読書指導について

・読書をすることで、それまで疑問に思っていたことが解決したり、新しい知識を得る喜びや楽しさを味わったりする経験を積ませたい。そのために必要な図書館（図書室）の使い方や、必要な本の選び方を身に付けさせたい。本単元の学習は、後者を狙っている。

## 板書例

- ① 題材名「はじめて知ったことを知らせよう『鳥になった恐竜の話』」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる

- ③ 本を読んで、何かを知ったときのことについて話し合わせる。

「本を読んで新しく知ったことについて話し合おう。」

- ④ 「鳥になった恐竜の話」を読ませる。

はじめて知ったことを知らせよう『鳥になった恐竜の話』

本を読んで はじめて知ったことをつたえ合おう。

### 学習の進め方

- ① 本を読んで何かを知ったことを思い出す。
- ② 本をえらんで読む。
- ③ 友だちとつたえ合う。

知りたいことがあるとき

↓ 「目次」や「さくいん」を使う。

〈新しく習う漢字〉

植物 集める 目次 化石

- ⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑦ 次時の学習内容を確認させる。  
「次は、読んで はじめて知ったことを伝え合います。」



はじめて知ったことを知らせよう①

三年 組 名前( )

めあて

--

(1)本を読んで何かを知ったときのことを、思い出しましょう。

(2)本をえらんで読みましょう。

〈新しく習う漢字〉

都	化	植
	死	集

はじめて知ったことを知らせよう①〈記入例〉

三年 組 名前( )

めあて

本を読んではじめて知ったことをつたえ合おう

(1)本を読んで何かを知ったときのことを、思い出しましょう。

・だいこんはくきだと思っていたけれど、本を読んでねこっだと知った。

・じどうしゃの本がすきでよくよむけれど、はたらく車はいろんなしゅるいが

あることがわかった。

(2)本をえらんで読みましょう。

・さかなが好きなので、どんなしゅるいがあるかしりたい。

〈新しく習う漢字〉

都	化	植
	死	集

## 3 2

題材名 「はじめて知ったことを知らせよう『鳥になった恐竜の話』（第2時／全2時間）

目標 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。  
 ◎積極的に幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って、本を読んだ感想などを発表しようとしたりすることができる。

領域等 知識及び技能

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「はじめて知ったことを知らせよう『鳥になった恐竜の話』」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">本を読んで はじめて知ったことをつたえ合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。</li> <li>・本時では、前時に読んだ「鳥になった恐竜の話」を読んで、感想を伝え合う学習を行うことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る。</li> <li>・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。</li> </ul>
展開 35分	③ 読んで、新しく知ったことについて話し合わせる。 「本を読んで新しく知ったことについて話し合いましょう。」 ○児童の実態に合わせて、全員に一人ずつ発表させても良いし、班ごとにその中で話し合いをさせても良い。 ・P104の「発表のれい」の型を使って伝えさせるのも良い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んで、新しく知ったことについて話し合う。</li> </ul>
終末 5分	④ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「死」「都」の読み書きの練習をさせる。 ⑤ 本時の学習内容を確認させる。 「図鑑や科学読み物を読む時に大切なことが分かりましたか。」 ・併せて、これからも図鑑や科学読み物を積極的に利用できるように支援したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「死」「都」の読み書きの練習をする。</li> <li>・本時で学習したことを確かめる。</li> </ul>

## 板書例

- ① 題材名「はじめて知ったことを知らせよう『鳥になった恐竜の話』」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる

- ③ 読んで、新しく知ったことについて話し合わせる。

「本を読んで新しく知ったことについて話し合しましょう。」

はじめて知ったことを知らせよう『鳥になった恐竜の話』

本を読んで はじめて知ったことをつたえ合おう。

### 学習の進め方

- ① 本を読んで何かを知ったことを思い出す。
- ② 本をえらんで読む。
- ③ 友だちとつたえ合う。

### 図鑑や科学読み物を読む

- ① 絵や写真、図を使って  
分かりやすく書かれている。
- ② 調べるときは、目次や  
さくいんを使う。

### 〈新しく習う漢字〉

死にたえる 都合

- ④ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑤ 本時の学習内容を確認させる。  
「図鑑や科学読み物を読む時に大切なことが分かりましたか。」

はじめて知ったことを知らせよう②

W  
32

三年 組 名前( )

めあて

--

(1)友だちから聞いて、おどろいたり感心したりしたことを書きましょう。

(2)図鑑や科学読み物について分かったことを書きましょう。

はじめて知ったことを知らせよう2へ記入例

W  
32

三年 組 名前

めあて

本を読んで、はじめて知ったことをつたえ合おう。

(1) 友だちから聞いて、おどろいたり感心したりしたことを書きましょう。

(2) 図鑑や科学読み物について分かったことを書きましょう。

① 絵や写真、図を使って分かりやすく書かれています。

② 調べるときは、目次やさくいんを使う。

### 3 3

**題材名** 「詩を味わおう」（第1時／全1時間）

**目標** 二つの詩を比べながら読み、詩の組み立てがよく分かるように音読することができる。

**領域名** C 読むこと

#### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「詩を味わおう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">詩の組み立てに気を付けて音読しよう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ 「わたしと小鳥とすずと」と「みいつけた」の詩の範読を聞かせる。 「二つの詩を聞きましょう」 ④ 二つの詩の似ているところや違うところについて考えさせる。 「二つの詩のにているところやちがっているところを見つけましょう」 ⑤ 詩の組み立てについて知らせる。 「詩の組み立てについて知りましょう」 ・「連」について説明する。	・二つの詩の範読を聞く。 ・二つの詩の似ているところや違うところについて考える ・詩の組み立てについて知る。
終 末 5 分	⑥ 組み立てに気をつけながら詩を音読させる。 終 「組み立てに気をつけながら詩を音読しましょう」 ⑦ 新出漢字を学習させる。 ⑧ 本時の学習を確認させる 「詩の組み立てに気をつけて音読することができましたか」	・組み立てに気をつけながら詩を音読する。 ・新出漢字を学習する。 ・本時の学習を確認する。

#### 指導のポイント

○詩を読む楽しさを

- ・全員で5～6回音読をさせながら、詩の持つ「リズム」を意識させたい。そのうえで、今後は自分で考えながら読むようにと呼びかけ、自分の読み方を意識させたい。
- ・表情のある読み方をする児童をとり上げ、意欲をもたせる。
- ・ゆっくり、はっきり読むことを心がけさせる。

○音読の定着を目指して

- ・作品を黙読するだけでは、作者の対象把握の感性や言葉に対する思いなどに気がつかないことが多い。自分で実際にとらえ、表現してみることによって、一つ一つの言葉の意味や役割が見えてくる。
- ・児童全員で読む、グループで読む、個人で読む、暗唱する、身体表現をしながら読むなど、いろいろな読み方を意識させながら、何回も音読させる。

# 板書例

- ①題材名「詩を楽しもう」を黒板に書く。
- ②本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③「わたしと小鳥とすずと」と「みいつけた」の詩の範読を聞かせる。  
「二つの詩を聞きましょう」
- ④二つの詩の似ているところや違ってるところについて考えさせる。  
「二つの詩の似ているところやちがっているところを見つめましょう」
- ⑤詩の組み立てについて知らせる。  
「詩の組み立てについて知りましょう」
- ⑥組み立てに気をつけながら詩を音読させる。

## 板書例

両 負	新しく習う漢字 「連」… 詩の中のまどまり	105 頁の詩を揭示	104 頁の詩を揭示	わたしと小鳥とすずと	詩を楽しもう 詩の組み立てに気をつけて音読しよう
		107 頁の詩の揭示	106 頁の詩の揭示	みいつけた	

- ⑦新出漢字を学習させる。

- ⑧本時の学習を確認させる。  
「詩の組み立てに気をつけて音読することができましたか」



# 詩を味わおう

三年 組 名前

めあて

--

Blank writing area with horizontal lines.

新しく習う漢字

両					負				
---	--	--	--	--	---	--	--	--	--

# 詩を味わおう

教材見本      三年      組      名前

めあて

詩の組み立てに気をつけて音読しよう

「連」 … 詩の中のまとめり

新しく習う漢字

両					負				
---	--	--	--	--	---	--	--	--	--

# 34

題材名 「山小屋で三日間すごすなら」(第1時/全1時間)

目標 比較や分類のしかたを使い、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に注目しながら、考えをまとめることができる。

◎互いの意見の共通点や相違点に積極的に着目し、見通しをもって話し合おうとすることができる。

領域等 A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「山小屋で三日間すごすなら」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 <u>グループごとに山小屋にもっていくものを話し合おう。</u> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・1回で一通りの活動を進めることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 30分	③ グループごとに、3日間でしたいことや持っていきたい物を出し合わせる。 「したいことや持っていきたい物をたくさん出し合いましょう。」 ・付箋紙のようなものを用意して、1つの考えにつき、1枚の付箋紙に書かせていく。 ・p117の「考えを広げる話し合い」に書かれている2点に留意させる。 ④グループごとに、出された考えを整理させる。 ・p117のように付箋紙を移動しながら比較、分類をさせていく。 ・p117の「考えをまとめる話し合い」に書かれている2点に留意させる。 ⑤みんなでしたいことを決めて、グループで持っていくものを5つまで選ばせる。 「したいことを決めてから、それに必要な持っていく物を5つまで選びましょう。」 ○持ち物のみ数が制限されているため、したいこととそれに必要な物の数がうまく合わないことも予想される。無理に条件に合わせることはせず、グループの全員が納得すれば可としたい。 ⑥ グループごとに持っていく物を発表させる。 「グループで話し合って決めたことを発表しましょう。」 ・事前に提示された条件内で決められたグループを大いに賞賛したい。	・3日間でしたいことや持っていきたい物を出し合う。 ・出された考えを整理する。 ・したいことを決めてから、それに必要な物を5つまで選ぶ。 ・グループごとに持っていく物を発表する。
終末 10分	(⑦ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。) ・「対」「屋」「貝」の読み書きの練習をさせる。 ⑧本時の学習内容を確認させる。 「どのように話し合いをすれば良いのか分かりましたか。」	・「対」「屋」「貝」の読み書きの練習をする。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○対話の学習について

・令和2年度より始まる小学校の新学習指導要領のキーワードの1つに「主体的で対話的な学び」が掲げられていることから、対話を学習活動の中に積極的に位置付けていくことが求められる。本単元の学習を通して、対話のおもしろさを児童が感じられるようにしたい。

## 板書例

- ① 題材名「山小屋で三日間すごすなら」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③グループごとに、3日間でしたいことや持っていきたい物を出し合わせる。  
「したいことや持っていきたい物をたくさん出し合ひましょう。」
- ④グループごとに、出された考えを整理させる。
- ⑤みんなでしたいことを決めて、グループで持っていくものを5つまで選ばせる。  
「したいことを決めてから、それに必要な持っていく物を5つまで選びましょう。」
- ⑥グループごとに持っていく物を発表させる。  
「グループで話し合って決めたことを発表しましょう。」

山小屋で三日間すごすなら

グループごとに山小屋にもっていくものを話し合おう。

今日の学習の進め方

①グループで、したいことと持っていきたい物  
を出し合う。

②出された考えを整理する。

③みんなでしたいことや持っていく物を決める。

考えを広げる話し合い

①たがいの意見をみとめ合う。

②全員で意見を出し合う。

③出された意見を仲間分けして整理する。

考えをまとめる話し合い

①目的にそって、大事なことの順番を考える。

②より多くの人が大事だと思うことをえらぶ。

- (⑦ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。)
- ⑧本時の学習内容を確認させる。  
「どのように話し合いをすれば良いのか分かりましたか。」

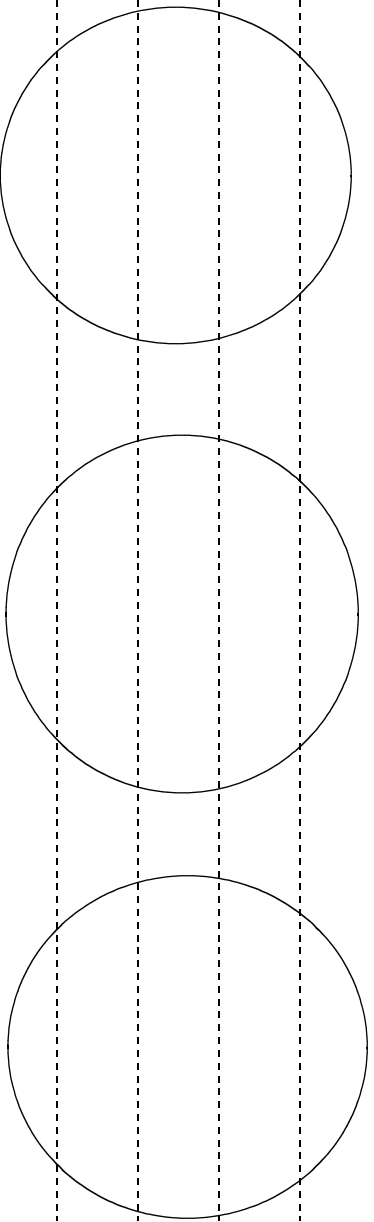
山小屋で三日間すごすなら

三年 組 名前

めあて

--

(1)グループで、したいことと、持っていきたいものを出し合ひましょう。



(2)グループでしたいことを決めて、持っていくもの五つまでえらびましょう。

〈持ち物の決まり〉・食料、水 ・着がえ このほかに、五つまで

〈新しく習う漢字〉

対	
員	
	屋

)

山小屋で三日間過ごすなら〈記入例〉

三年 組 名前)

(

めあて

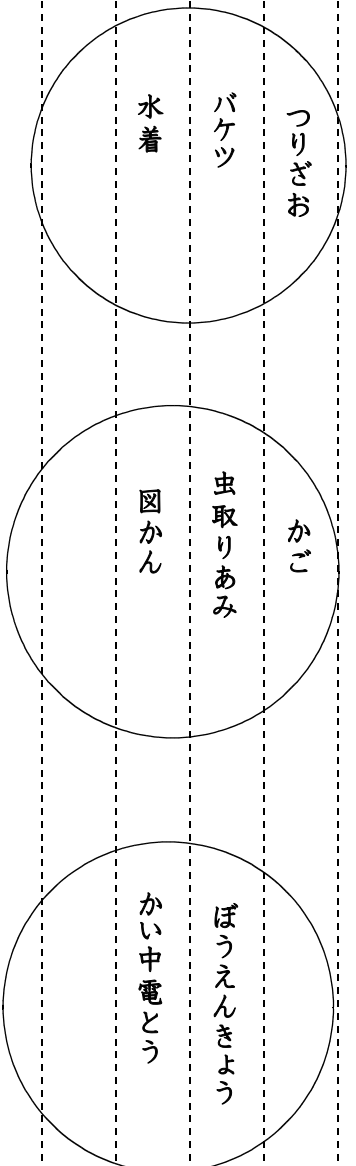
グループごとに山小屋にもっていくものを話し合おう。

(1)グループで、したいことと、持っていくきたいものを出し合ひましょう。

川遊び

虫取り

星のかんさつ



(2)グループでしたいことを決めて、持っていくもの五つまでえらびましょう。

〈持ち物の決まり〉・食料、水・着がえ このほかに、五つまで

〈新しく習う漢字〉

員	対					屋

# 35

題材名 「ポスターを読もう」(第1時/全1時間)

目標 ポスターに書かれている言葉を読んで理解したに基づいて、感想や考えをもつことができる。

◎進んで感想や考えをもとうしたり、学習課題に沿って伝え合おうとしたりすることができる。

領域等 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ポスターを読もう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 ポスターを見て思ったことや考えたことを話し合おう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ ポスターについて知っていることを発表させる。 ・現地のポスターでも良いので、実物を提示できると良い。併せて「キャッチコピー」の用語指導も行う。 ④ P118の「ポスターのれい」を見て、工夫していると思うことを話し合わせる。 「どのようなところが工夫されているのか話し合ひましょう。」 ・言葉と絵図に分けて話し合わせた後、全体で、ポスターの工夫を確認して共有する。 ⑤ P120 - 121の(ア)と(イ)のポスターを比べて読ませる。 「どちらのポスターの方が、お祭りにいきたくありませんか。」 ○まず、どちらのポスターが魅力的に感じるか、なるべく理由を述べながら話し合わせる。その際、お互いの意見を尊重させ、ポスターの優劣まで踏み込まないように配慮する。 ・次に、共通している点と異なる点についてワークシートにまとめさせる。 ・最後に、なぜ違いがあるのかについて話し合わせ、ポスターを読む際に留意する点を全体で共有する。	・ポスターについて知っていることを発表する。 ・「ポスターのれい」を見て、工夫していると思うことを話し合う。
終末 5分	⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「写」「真」「祭」の練習をさせる。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「ポスターを見て、感じたことや考えたことを伝えることができましたか。」	・新出漢字の読み書きの練習をする。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○児童に考えを形成させるために

- ・2年生までに、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつ学習を行う。3、4年生では、文章を読んで理解したに基づいて、感想や考えをもたせることを狙っている。その意味では、写真や絵もあるポスターを用いることで、感想や考えをもちやすくしていると言える。

## 板書例

- ① 題材名「ポスターを読もう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ ポスターについて知っていることを発表させる。
- ④ P118の「ポスターのれい」を見て、工夫していると思うことを話し合わせる。  
「どのようなところが工夫されているのか話し合ひましょう。」
- ⑤ P120-121の（ア）と（イ）のポスターを比べて読ませる。  
「どちらのポスターの方が、お祭りに行きたくなりますか。」

ポスターを読もう

ポスターを見て感じたことや考えたことを話し合おう。

学習の流れ

① ポスターを見てみよう。

② ポスターをくらべて読もう。

ポスターを見るとき

① 言葉と写真や絵のかかわりに気をつける。

② 作られた目的や、知らせたい相手を考える。

〈新しく習う漢字〉

写真 祭り

- ⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「ポスターを見て、感じたことや考えたことを伝えることができましたか。」



三年 組 名前 ( )

めあて

(1)「ポスターのれい」を見て、くふうしていると想うことを話し合いましよう。

(2)お祭りに行きたくなるポスターについて話し合いましよう。

(3)二つのポスターをくらべて、まとめましよう。

①どちらにもあること

②どちらかだけにあること

③しめされ方がちがうところ

〈新しく習う漢字〉

祭	写					
				真		



# 36

**題材名** 「へんとつくり」（第1時／全1時間）

**目標** 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつことができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「へんとつくり」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">漢字の「へん」と「つくり」を知ろう</div> ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展 開 30 分	③ P122 上段のカードを組み合わせて知っている漢字を作らせる。 「カードを2枚一組にして、知っている漢字を作ってみましょ う」 ④ P122 下段、P123 を読んで、「へん」と「つくり」について知 る。 「漢字の『へん』と『つくり』について知みましょう」 ⑤ 「きへん・にんべん・いとへん」のついた漢字について考えさせ る。 「『きへん・にんべん・いとへんのついた漢字は、何に関係がある でしょう」	・P122 上段のカードを組み合わせて 知っている漢字を作る。 ・「へん」と「つくり」について知 らせる。 ・「きへん・にんべん・いとへん」 のついた漢字について考える。
終 末 10 分	⑥ 新出漢字を学習させる。 「漢字を学習しましょう」 ⑦ 本時の学習を確認させる 「漢字の『へん』と『つくり』について分かりましたか」	・新出漢字を学習する。 ・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

### ○ 学習活動について

- ・学習してきた漢字の中には同じ「へん」をもつものがあることに気づき、同じ「へん」の漢字を集める。
- ・漢字には、左と右の二つの部分に分けられるものがあることを知り、「へん・つくり」の名称と意味を理解する。
- ・「へん」や「つくり」がおおまかな意味を表すことを知り、「𠂇」「𠂈」「𠂉」「𠂊」「𠂋」「𠂌」の意味が分かる。

板書例

- ① 題材名「へんとつくり」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ P116 上段のカードを組み合わせて知っている漢字を作らせる。  
「カードを2枚一組にして、知っている漢字を作ってみましょう」
- ④ P122 下段、P123 を読んで、「へん」と「つくり」について知らせる。  
「漢字の『へん』と『つくり』について知りましょう」
- ⑤ 「きへん・にんべん・いとへん」のついた漢字について考えさせる。  
「『きへん・にんべん・いとへん』のついた漢字は、何に関係があるでしょう」

板書例

新しく習う漢字

部  
係  
板  
柱  
油  
港

糸

いとへん

絵・緑

イ

にんべん

住・係

木

きへん

板・柱

海

へん(漢字の左がわの部分)  
「さんずい」…水に関係がある

つくり(漢字の右がわの部分)

言

青

吾

斗

日

漢字の「へん」と「つくり」を知ろう

へんとつくり

二つの部分を組み合わせて漢字を作ってみよう

- ⑥ 新出漢字を学習させる。  
「漢字を学習しましょう」

- ⑦ 本時の学習を確認させる。  
「漢字の『へん』と『つくり』について分かりましたか」

# くんとつくり

三年

組

名前

(

)

めあて

二つの部分を組み合わせる漢字を作ってみよう

日 青

二 五  
口 口

へん

つくり

へんの名前

木

( )

( )

( )

( )

( )

イ

( )

( )

( )

( )

( )

糸

( )

( )

( )

( )

( )

関係があるもの

新しく習う漢字

油	板	部
港	柱	係

# へんとつくり

三年

組 名前 ( )

めあて

漢字のへんとつくりを知ろう

二つの部分を組み合わせる漢字を作ってみよう

青 日

五 言

へん : 漢字の右がわの部分

つくり : 漢字の左がわの部分

へんの名前

関係があるもの

木

(きへん)

板

(鉄板・羽子板)

木

イ

(にんべん)

住

(住所・住まい)

人

糸

(いとへん)

絵

(絵画・絵の具)

色

緑

(緑茶・緑色)

新しく習う漢字

油	板	部
港	柱	係

# 37

**題材名** 「ローマ字」 (第1時/全1時間)

**目標** 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くことができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 5 分	① 題材名「ローマ字」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる ローマ字で読んだり、書いたりしてみよう	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ P128 を読んで、ローマ字表記について知らせる。 「ローマ字表記について知りましょう」 ④ P127 の表を見ながら、ア行の音の表し方を知らせる。 「ア行の音の表し方を知りましょう」 ⑤ P127 の表を見ながら、ア段の音の表し方を知らせる。 「ア段の音の表し方を知りましょう」 ⑥ P127 の表を見ながら、カ行の音の表し方を知らせる。 「カ行の音の表し方を知りましょう」を知る。 ⑦ P127 の表を見ながら、他の段や行の表し方を調べさせる。 「ほかの段や行は、どのように表してありますか」 ⑧ ローマ字の拗音・長音・促音の書き表し方を知らせる。 ⑨ ローマ字の大文字と小文字について知らせる。 「大文字と小文字について知りましょう」 ⑩ ローマ字で自分の名前を書かせる。 「ローマ字で自分の名前を書いてみましょう」	・ローマ字表記について知る。 ・ローマ字の書き表し方を知る。 ・表を見ながら、ア行の音の表し方を知る。 ・表を見ながら、ア段の音の表し方を知る。 ・表を見ながら、カ行の音の表し方を知る。 ・表を見ながら、他の段や行の表し方を調べる。 ・表を見ながら、□や○の中に文字を入れ、読む。 ・ローマ字の拗音・長音・促音の書き表し方を知る ・ローマ字の大文字と小文字について知る。 ・ローマ字で自分の名前を書く。
5 分	⑪ 本時の学習を確認させる 「ローマ字で読んだり、書いたりすることができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

### ○ 学習活動について

- ・身の回りのローマ字で書かれているものから特徴を知り、ローマ字の表記のしかたを理解する。
- ・ローマ字表を見て、五十音のアルファベットの配列を知る。
- ・ローマ字表をもとに、五十音、拗音、長音、発音の表記を練習する。
- ・大文字と小文字の違いを知る。
- ・「し」や「ち」のように、書き方が違うものがあることを知る。
- ・ローマ字の名刺を作って、友達と交換する。
- ・コンピュータなどを使って書いてもよい。

## 板書例

- ① 題材名「ローマ字」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ P124 を読んで、ローマ字表記について知らせる。  
「ローマ字表記について知りましょう」
- ④ P125 の表を見ながら、ア行の音の表し方を知らせる。  
「ア行の音の表し方を知りましょう」
- ⑤ P125 の表を見ながら、ア段の音の表し方を知らせる。  
「ア段の音の表し方を知りましょう」
- ⑥ P125 の表を見ながら、カ行の音の表し方を知らせる。  
「カ行の音の表し方を知りましょう」

板書例

### ローマ字

ローマ字で読んだり、書いたりしてみよう

ローマ字表記 … ヨーロッパで生まれた文字を用いた日本語の書き表し方

a i u e o  
あ い う え お

ka sa ta na ha ma ya ra wa  
か さ た な は ま や ら わ

ka ki ku ke ko  
か き く け こ

ameya → □aki → □aru → □ame → □ami  
あめ かき さる たね なみ

n○mi → n○wa → n○ma → n○ko → n○ri  
なみ にわ むま ねこ のり

- ⑦ P125 の表を見ながら、他の段や行の表し方を調べさせる。  
「ほかの段や行は、どのように表してありますか」
- ⑧ P125 の表を見ながら、□や○の中に文字を入れ、読ませる。  
「□や○の中に文字を入れ、声に出して読んでみましょう」

- ⑨ 本時の学習を確認させる。  
「ローマ字で読んだり、書いたりすることができましたか」



ローマ字

3年 組名前

めあて

[Blank box for writing the purpose]

あ い う え お か き く け こ

[Blank lines for writing]

か さ た な は ま や ら わ

[Blank lines for writing]

① 「きや」「きゅ」「きよ」などの音 読んでみましょう。

→ 「kya」「kyu」「kyo」…3字で表す tyawan (ちゃわん) kingyo (きんぎょ) densya (でんしゃ)

② のぼす音

「おかあさん」

→ 「okāsan」

[Blank lines for writing the Romanized name]

おとうさん

おねえさん

おにいさん

③ つまる音

「きっぷ」

→ 「kippu」

[Blank lines for writing the Romanized name]

④ 大文字と小文字

しっぽ

がっきゅう なっとう  
自分の名前をローマ字で書いてみましょう。

[Blank lines for writing the name in Roman letters]



ローマ字

教材見本

3年 組名前

めあて ローマ字で読んだり、書いたりしてみよう

あ い う え お か き く け こ

a i u e o ka ki ku ke ko

か さ た な は ま や ら わ

ka sa ta na ha ma ya ra wa

① 「きや」「きゆ」「きよ」などの音 読んでみましょう。

→ 「kya」「kyu」「kyo」…3字で表す tyawan (ちゃん) densya (でんしゃ) kingyo (きんぎょ)

② のぼす音 ローマ字で書いてみましょう。

「おかあさん」

o t o s a n      o n e s a n      o n i s a n

→ 「okasan」

③ つまる音

「きっぷ」

おとうさん      おねえさん      おにいさん

s i p p o      g a k k y u      n a t t o

→ 「kippu」

④ 大文字と小文字

しっぽ

がっきゅう

なっとう

Blank lines for writing practice.

# 38

**題材名** 「ちいちゃんのかげおくり」（第1時／全4時間）

**目標** 場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ちいちゃんのかげおくり」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">はじめの感想を書こう</div> ・ワークシートを配布し、目当てを確認する。	・本時のめあてを知る。
展開 30分	③ 戦争について知っていることを発表させる。 「戦争について知っていることがありますか。」 ・導入として簡単に触れたい。 ④ 範読を聞かせる。 ・CDがあれば聞かせて、有効に活用する。 ④ 全文を音読させる。 各自読み → 一斉読み ⑤ 初めの感想を書かせる。 「感想をワークシートに書きましょう」 ・初発の感想なので、全体的なものでよい。 ⑥ 感想を発表させる。 「感想を発表しましょう」	・戦争について知っていることを発表する。 ・先生の範読を聞く。 ・全文を音読する。 ・初めの感想を書く。 ・感想を発表する。
終末 10分	⑦ 語句の意味を確認させる。 「語句の意味を確かめましょう。」 ⑨ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる。 「新しい漢字を学習しましょう。」 ⑩ 本時の学習を確認させる。 「はじめの感想が書けましたか」	・言葉の意味を確かめる。 ・新しい漢字を学習する。 ・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

○初めての戦争文学との出会い

- ・教科書教材としては、初めて出会う戦争状況下の文学である。戦争の悲惨さを理解させるより、愛する家族を奪われた悲しみに共感したり、怖いところとしての空を想像したりすることを通して、平和の大切さを考えさせたい。
- ・必要に応じて、戦時下の状況に関する写真や資料を準備し、簡単な説明をするとよい。
- ・よく晴れた日に、実際に「かげおくり」をやらせてみると、ちいちゃんの感動を共有できる。

板書例

- ① 題材名「ちいちゃんのかげおくり」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 戦争について知っていることを発表させる。  
「戦争について知っていることがありますか。」
- ④ 範読を聞かせる。

- ⑤ 全文を音読させる。  
各自読み → 一斉読み
- ⑥ 初めの感想を書かせる。  
「感想をワークシートに書きましょう」
- ⑦ 感想を発表させる。  
「感想を発表しましょう」

板書例

橋 起  
暑 列  
寒 乗  
軽 急  
命 追  
第 血  
暗

〈新しく習う漢字〉

先祖  
つぶやく  
かげぼうし  
目を落とす  
まばたく  
いくさ  
火が回る  
はぐれる

〈言葉の意味〉

・悲しい話だと思った。ちいちゃんが  
しんじやうから。  
・ひとりぼっちでこわかっただろうね。

はじめの感想

はじめの感想を書こう

ちいちゃんのかげおくり

- ⑧ 語句の意味を確認させる。  
「語句の意味を確かめましょう。」
- ⑨ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる。  
「新しい漢字を学習しましょう。」

- ⑩ 本時の学習を確認させる。  
「はじめの感想が書けましたか」





# 39

**題材名** 「ちいちゃんのかげおくり」（第2時／全4時間）  
**目標** 場面ごとに人物の気持ちを考えながら読むことができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「ちいちゃんのかげおくり」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">場面ごとにあらすじをまとめていねいに読もう</div> ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ 場面ごとに小見出しをつけ、あらすじをまとめさせる 開 「場面ごとに小見出しをつけ、あらすじをまとめましょう」 ・上の教科書で学習した「ありの行列」の学習を思い起こさせ、小見出しやあらすじをつかませる。 ・あらすじをつかんでいく活動を通して、内容を読み取らせる。 ④ 二つのかげおくりについて考えさせる。 「二つのかげおくりの同じところとちがうところは何でしょうか」 ・家族がみんなである場面1のかげおくりと、場面4のちいちゃんがひとりである「かげおくり」がある。次時の授業に生かせるようにするために、この二つの場面は大切に扱いたい。	・場面ごとに小見出しをつけ、あらすじをまとめる。  ・二つのかげおくりについて考える。
終 末 5 分	⑤ 本時の学習を確認させる。 「場面ごとにあらすじをまとめていねいに読むことができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

○物語の設定を確認する

・次の事項は確認しておきたい。

- (1) いつごろの話か…日本が戦争をしていたころ、今から何十年か前。
- (2) どんな場所の話か…日本、空襲のあった町、今は小さな公園になっている。
- (3) 登場人物…ちいちゃん・お母ちゃん・お父ちゃん・お兄ちゃんなど。
- (4) 難語句の意味…出征・先祖・日ノ丸・焼夷弾・空襲警報など。教科書下欄や国語辞典で。
- (5) 場面構成…五つの場面に分かれていることを確認する。

・難語句の意味については、「先祖」「かげぼうし」など、幾つかの言葉を一斉学習で調べさせると、辞書を使う習慣づけができる。

・「かげおくり」のシーンが三つあることを押さえる。

- (1) (お父さんが出征する前日) 家族四人である思い出の「かげおくり」
- (2) (いくさのはげしくなるまで) ちいちゃんとお兄ちゃんがいっしょに遊ぶ「かげおくり」
- (3) (夏のはじめのある朝) ちいちゃんが一人である「かげおくり」

板書例

- ① 題材名「ちいちゃんのかげおくり」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 場面ごとに見出しをつけ、あらすじをまとめさせる  
「場面ごとに小見出しをつけ、あらすじをまとめましょう」
- ④ 二つのかげおくりについて考えさせる。  
「二つのかげおくりの同じところとちがうところは何でしょうか」

板書例

ちいちゃんのかげおくり

場面ごとにあらすじをまとめていねいに読むこと

場面ごとにあらすじをまとめよう

場面	小見出し	あらすじ
一	家族でしかげおくり	お父さんが出征する前日に家族みんなでかげおくりをした。
二	ひとりぼっちになつたちいちゃん	夏のはじめの夜、生しゅうでにげたとき、ちいちゃんはお母さんやお兄さんとはなれて、ひとりぼっちになつてしまった。
三	ぼうせいのうの中のちいちゃん	家のあったところに行つたが、会えなかつた。そして、ひとりでぼうせいのうの中でねむつた。
四	家族に会えたちいちゃん	青い空から聞こえてきた家族みんなの聲でかげおくりをした。ちいちゃんは、空色の花畑の中で家族に会えた。
五	小さな公園	ちいちゃんが一人でかげおくりした所は、小さな公園になつている。

二つのかげおくり  
一場面 … 家族みんな  
四場面 … ちいちゃんひとり

- ⑤ 本時の学習を確認させる。  
「場面ごとにあらすじをまとめていねいに読むことができましたか」



# ちいちゃんのかげおくり2

三年 組 名前

めあて

--

場面ごとにあらすじをまとめよう

場面	小見出し	あらすじ
一		
二		
三		
四		
五		

11つのかげおくりをくみこ

---

---

# ちいちゃんのかげおくり2

教材見本

三年 組 名前

めあて

場面ごとにあらすじをまとめていねいに  
読もう

場面ごとにあらすじをまとめよう

場面	小見出し	あらすじ
一	家族でしか たかげお くり	お父さんが出征する前の日に家族みんなで かげおくりをした。
二	ひとりぼ っちにな ったちい ちゃん	夏のはじめの夜、空しゆうでにげたとき、 ちいちゃんはお母さんやお兄さんとはなれ て、ひとりぼっちになってしまった。
三	ぼう空ご うの中 ちい ちゃん	家のあったところに行ったが、会えな かった。そして、ひとりでぼう空ごうの中 でねむった。
四	家族に会 えたちい ちゃん	青い空から聞こえてきた家族みんなの声で かげおくりをした。ちいちゃんは、空色の 花畑の中で家族に会えた。
五	小さな公 園	ちいちゃんが一人でかげおくりした所は、 小さな公園になっている。

二つのかげおくりをくらべて

一場面 :: 家族みんなで

四場面 :: ちいちゃんひとりで

# 40

**題材名** 「ちいちゃんのかげおくり」（第3時／全4時間）

**目標** 場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ちいちゃんのかげおくり」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">心にのこった場面を話そう</div> ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ 音読させる。 各自読み → 一斉読み ④ 内容をより深く理解させる。 「二つのかげおくりの間の出来事を考え、失われていったものをまとめましょう。」 「第3場面でちいちゃんの願いが分かるところに線を引きましょう。」 「一人でかげおくりをしているときのちいちゃんの気持ちを考えましょう。」 ⑤ 心に残った場面を選び、そのわけを話させる。 「五つの場面の中で、一番心に残っているのはどの場面ですか」	・音読する。 ・二つのかげおくりの間に失われていったものについてまとめる。 ・第3場面でちいちゃんの願いがわかるところをさがす。 ・一人でかげおくりをしているときのちいちゃんの気持ちを考える ・心に残った場面を選び、そのわけを発表する。
終末 5分	⑥ 本時の学習を確認させる。 「心にのこった場面について話せましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

○道場人物に同化して読む

- ・心情の読み取りが音読に生かされるように意識づける。
- ・前後の文章に注目させ、ちいちゃん的心情の移り変わりははっきりととらえさせたい。
- ・ちいちゃんに聞こえる音やにおい、目に映るものなどを、叙述をもとに想像させることも、空襲から逃げる際の情景の理解を助ける。

○ 比べながら読み深める

- ・P19 を読み、第一場面と第四場面を比べながら読ませる。
- ・児童は、共通の会話文や表現の違いをたくさん見つけるだろう。そのすべてを取り上げて検討する必要はないが、第四場面で聞こえてくる家族の声は、ちいちゃんにだけ聞こえる声であり、ちいちゃんが一人であるかげおくりであることを理解させる。この場面のかげおくりは、ちいちゃんにとって「どんな」かげおくりなのかを児童の言葉でまとめさせ、第一場面でのかげおくりと比較させる。

- ① 題材名「ちいちゃんのかげおくり」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③ 音読させる。  
各自読み → 一斉読み

- ④ 内容をより深く理解させる。
  - 「二つのかげおくりの間の出来事を考え、失われていったものをまとめましょう。」
  - 「第3場面でちいちゃんの願いが分かるところに線を引きましょう。」
  - 「一人でかげおくりをしているときのちいちゃんの気持ちを考えましょう。」

- ⑤ 心に残った場面を選び、そのわけを話させる。
  - 「五つの場面の中で、一番心に残っているのはどの場面ですか。」

板書例

ちいちゃんのかげおくり

心に残った場面を話そう

二つのかげおくりの間の出来事にうしなわれていったもの  
お父さん、お母さん、お兄ちゃん、町、家、くらし、  
思い出の品、命、夢、未来、楽しい空、ちいちゃんの命

ちいちゃんのおねがい (第三場面)  
「おうちのとこ」「お兄ちゃんとお母さんとお父さんの部屋」  
「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの」

お母さんやお兄ちゃんに会いたい 早く帰ってきてほしい

一人でかげおくりしているちいちゃんの気持ち  
お父さん、お母さんの声が聞けてうれしい  
一緒にかげおくりをしたい。やっと会えて願いがかなった

一番心に残っている場面

第一場面 みんなそろって楽しそうだから。  
第二場面 ちいちゃんがひとりぼっちになってかわいそうだから。  
第三場面 自分の家の場所に戻れたから。  
第四場面 家族のみんなに会えたから。ちいちゃんが死んでしま  
ったから。  
第五場面 平和になったから。

- ⑥ 本時の学習を確認させる。
  - 「心に残った場面について話せましたか」

# ちいちゃんのかげおくり3

三年 組 名前

めあて

心にのこった場面を話そう

1つのかげおくりの間の出来事にうしなわれていったもの

ちいちゃんのねがい (第三場面)



一人でかげおくりしているちいちゃんのお気持ち

一番心に残っている場面

めあて

心にのこった場面を話そう

二つのかげおくりの間の出来事にならなわれていったもの  
お父さん、お母さん、お兄ちゃん、町、家、  
くらし、思い出の品、命、夢、未来、  
楽しい空、ちいちゃんの命

ちいちゃんのねがい (第三場面)

「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋」

「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの」



お母さんやお兄ちゃんに会いたい

早く帰ってきてほしい

一人でかげおくりしているちいちゃんの気持ち

お父さん、お母さんの声が聞けてうれしい。

いっしょにかげおくりをしたい。やっと会えて  
願いがかなった

一番心に残っている場面

第一場面 みんなそろって楽しそうだから。

第二場面 ちいちゃんがひとりぼっちになっ

てかわいそうだから。

第三場面 自分の家の場所に戻れたから。

第四場面 ちいちゃんが死んでしまったから。

第五場面 平和になったから。

# 4 1

**題材名** 「ちいちゃんのかげおくり」（第4時／全4時間）  
**目標** 場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ちいちゃんのかげおくり」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">感想をまとめよう</div> ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ P26 を読んで感想文の書き方について知らせる。 「感想文の書き方を読みましよう」 ④ 「書きだしのれい」と「むすびのれい」を参考にして、「はじめ」と「おわり」を書かせる。 「くふうして『はじめ』と『おわり』を書きましよう」 ⑤ 本文を引用や要約し、「中」を書かせる。 「くふうして『中』を書きましよう」 ⑥ 書いた感想文を発表させる。 「感想文を発表し合いましよう」	・感想文の書き方を読む。 ・「書きだしのれい」と「むすびのれい」を参考にして、「はじめ」と「おわり」を書く。 ・本文を引用や要約し、「中」を書く。 ・書いた感想文を発表し合う。
終末 5分	⑦ 本時の学習を確認させる。 「感想をまとめられましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

○ 主題について ・以下はこの作品の主題について触れた文献から引用したものである。

戦時下、温かな愛情に包まれた一家族が離散し、主人公のちいちゃんも命を失うまでを、「かげおくり」という明るい陽光の下で行う遊びを中心において描いている。ちいちゃんのように家族にはぐれてひっそりと死んでいった幼い子どもたちは少なくない。そういう一人に光を当てて作った作品として読むことになる。（『国語教材研究大辞典』国語教育研究所 明治図書出版）

あまんきみこ

1931（昭和6）年、旧満州撫順市に生まれる。結婚後日本女子大学児童学科（通信）に入学。与田順一との出会いが童話の世界へ入る契機となる。卒業後「びわの実学校」を舞台に活躍し、現代に至る。著書に「車のいろは空のいろ」「おにたのぼうし」「ミュウのいるいえ」など多数ある。

# 板書例

- ① 題材名「ちいちゃんのかげおくり」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ P21を読んで感想文の書き方について知らせる。  
「感想文の書き方を読みましょう」
- ④ 「書きだしのれい」と「むすびのれい」を参考にして、「はじめ」と「おわり」を書かせる。  
「くふうして『はじめ』と『おわり』を書きましょう」
- ⑤ 本文を引用や要約し、「中」を書かせる。

## 板書例

おわり	中	はじめ	感想をまとめよう	ちいちゃんのかげおくり
	<p>↓心被打たれた文を引用して ↓場面全体を短くまとめながら</p> <p>（書くときのくふう）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・心被打たれた理由といつしよに書く。</li><li>・登場人物の気持ちをそうぞうして</li><li>・場面の様子をそうぞうして</li></ul>	<p>○いちばん心被打たれた場面を中心に、</p>	感想をまとめよう	ちいちゃんのかげおくり

- ⑥ 書いた感想文を発表させる。  
「感想文を発表しましょう」

- ⑦ 本時の学習を確認させる。  
「感想をまとめられましたか」



# ちいちゃんのがげおくり4

三年 組 名前

めあて

はじめ

中

おわり

めあて

感想をまとめよう

はじめ

中

○ いちばん心を打たれた場面を中心に、  
心を打たれた理由と、いっしょに書く。

- ・ 登場人物の気持ちをそうぞうして
- ・ 場面の様子をそうぞうして

〈書くときのくふう〉

- ↓ 心を打たれた文を引用して
- ↓ 場面全体を短くまとめながら

おわり

## 4 2

題材名 「修飾語を使って書こう」(第1時/全1時間)

目標 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。  
 ◎今までの学習を生かして理解しようとし、積極的に言葉の役割や性質を捉え直そうすることができる。

領域等 知識及び技能

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「修飾語を使って書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 修飾語を知り、使えるようにしよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ P29-30 を読み、修飾語の意味と使い方を考えさせる。 ・主語と述語について既習の内容を確認させる。 ・修飾語によって文の内容が詳しくなることを理解させる。 ④修飾語について理解していることを確かめさせる。 ・教師が、例示した文を主語、述語、修飾語に分けさせる。 3色のペンで色分けさせても良い。 ○ P31 の課題に取り組みさせる。特に②の課題をしっかりと取り組みませ、修飾語をえるための下地を作りたい。	・修飾語の意味と使い方を理解する。 ・修飾語について理解していることを確かめる。
終末 5分	⑥新出漢字の読み書きを練習させる。 ・「主」「州」「根」「流」「荷」「君」「守」を練習させる。 ⑦本時の学習内容を確認させる。 「修飾語の意味と使い方が分かりましたか。」	・新出漢字の読み書きを練習する。 ・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○ 文法の指導について

- ・2年生で主語と述語の学習を行っているが、改めてこれらの理解の確認をした上で、修飾語の指導を行いたい。
- ・表題にあるように、文法的な指導をするよりは、児童が文を書いたりする時により詳しく、より分かりやすく表現できるようになることを主眼に指導するのが望ましい。

## 板書例

- ① 題材名「修飾語を使って書こう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ P29-30を読み、修飾語の意味と使い方を考えさせる。
- ④ 修飾語について理解していることを確かめさせる。

修飾語を使って書こう

修飾語を知り、使えるようにしよう。

文の組み立て

- ① 「何が(は)」「だれが(は)」に  
当たる言葉↓ 主語

- ② 「どうした(どうする)」「どんなだ」  
「なんだ」に当たる言葉↓ 述語

- ③ 「どんな」「どれくらい」のように  
意味をくわしくする言葉↓ 修飾語

〈新しく習う漢字〉

主語 九州 屋根 流れる

荷物 山田君 守る

- ⑥ 新出漢字の読み書きを練習させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「修飾語の意味と使い方が分かりましたか。」

修飾語を使って書こう

W  
42

三年 組 名前（

めあて

--

主語：

述語：

修飾語：

\* 31 ページの三つの問題を考えましょう。

①

②

③

〈新しく習う漢字〉

守	荷	根	主
	君	流	州

三年 組 名前( )

めあて

修飾語を知り、使えるようにしよう。

主語：「何が(は)」 「だれが(は)」に当たる言葉

述語：「どうした」 「どんなだ」 「なんだ」の当たる言葉

修飾語：「どんな」 「どのくらい」のように、文の意味をくわし

くする言葉

\* 31 ページの三つの問題を考えましょう。

① 一文目：すべて「書きました。」に係っている。

二文目：「弟の」が「風船が」に、「屋根の」が「上を」に、他は「とぶ」に係っている。

② 水が、ごうごうと流れている。

- ・ 荷物が、とてつもなくおもい。
- ・ 山田君は、自分から守った。
- ・ かえるは、小さい生き物だ。

③ 青いシャツと半ズボンを着た男の子が、つりをしている。

となりには、黒と茶色の犬がいる。

## 4 3

題材名 「秋のくらし」(第1時/全1時間)

目標 語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。

◎秋らしさを感じる言葉を積極的に知ろうとし、自らの語彙を豊かにしようとする。

領域等 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「秋のくらし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 秋らしさを感じる言葉を集めよう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	・ ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ③ p32の「虫の声」を音読させる。 ・ 音読することで、虫の鳴き声のイメージから、秋の情緒を感じ取らせたい。 ④ p32,33を参考に、秋ならではの活動や食べ物について話し合う。 ・ 児童の日本国内における生活経験の差を配慮し、図鑑やネットで検索した関連画像を活用して児童の理解の一助とするのもよい。	・ 「虫の声」を音読する。 ・ 秋ならではの活動や食べ物について話し合う。
終末 10分	⑤ 身の回りで見つけた秋らしさを感じたものについて書く。 「身の回りで秋らしさを感じたものについて書いてみましょう。」 ・ P32の例を参考に2～3文程度の文章を書かせる。 ○日本国内と自然環境が異なる地域の場合は、児童の居住している地域の生活について触れたものであればよしとする。 ・ 時間がとれたら、書いた文章をお互いに読み合い、交流する。 ⑥ 本時の学習内容を確認させる。 「秋らしさを感じる言葉には、どのような言葉があるのか分かりましたか。」	・ ワークシートに秋らしさを感じたことについて書く。 ・ 本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○「季節の言葉」の学習を通じた現地理解、国際教育

- ・ 児童によっては、日本での生活経験が少なかったり、場合によっては無い場合も予想される。国内にいても、以前ほど日本古来の季節に応じた伝統行事や文化に触れる機会が減っている。ましてや海外にいれば尚更である。そこで、この学習をきっかけに受け継がれたきた伝統に興味をもったり、自分たちの生活に少しでも取り入れようとする気持ちをもたせたいものだ。更に、現在暮らす地域との違いを比べることで、お互いの文化を尊重しようとする態度が育つことを期待したい。

#### ○インターネットによる画像検索の活用について

- ・ 児童は、国内に比べて、季節感を体感する機会がどうしても少なくなる。そのため、インターネットによる画像検索をもとに作成した各種関連画像を大いに活用したい。各種画像を通してより季節感への理解を深めさせたい。その際、著作権を侵さないよう、十分に配慮したい。



## 板書例

① 題材名「秋のくらし」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ p32の「虫の声」を音読させる。

④ p32,33を参考に、秋ならではの活動や食べ物について話し合う。

⑤ 身の回りで見つけた秋らしさを感じたものについて書く。

「身の回りで秋らしさを感じたものについて書いてみましょう。」

秋のくらし

秋らしさを感じる言葉を集めよう。

「○○の秋」という言い方

スポーツの秋 しよくよくの秋

げいじゅつの秋

秋に実る食べ物

さつまいも ぶどう かき

くり りんご

⑥ 本時の学習内容を確認させる。

「秋らしさを感じる言葉には、どのような言葉があるのか分かりましたか。」

三年 組 名前)

めあて

--

(1)「○○○の秋」という言葉を集めましょう。

(2)秋に実る食べ物を集めましょう。

(3)身の回りで見つけた、秋を感じたものについて書きましょう。

三年 組 名前)

めあて

秋らしさを感じる言葉を集める。

(1)「○○○の秋」という言葉を集めましょう。

スポーツの秋 しよくよくの秋 げいじゅつの秋

(2)秋に実る食べ物を集めましょう。

さつまいも ぶどう かき りんご

(3)身の回りで見つけた、秋を感じたものについて書きましょう。

きのうの夕食に、くりごはんを食べました。

くりがあまくて、いつもよりたくさん食べられました。

おとうさんやお母さんも、

「おいしいね。」

と言いながら食べていました。

## 4 4

題材名 「はんで意見をまとめよう」(第1時/全2時間)

目標 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。

◎進んで目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら、学習の見通しをもって、グループで話し合い、考えをまとめようとするができる。

領域等 A 話すこと・聞くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「はんで意見をまとめよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 はんで話し合いをするための進め方をたしかめよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時で、P34の「学習の進め方」の前半部を、次時で後半部を学習することを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 30分	③ グループごとに話し合う目的と決めることをたしかめさせる。 「グループごとに話し合いの目的や決めることをたしかめましょう。」 ・自分の考えを付箋紙等にかかせる。 ・活動に意欲的に取り組ませるため、目的は自分たちで決めさせたいが、学習時間がかなり限られているので、教科書に掲載されている例にそって行うとよい。 ④ 司会を決めさせたり、話し合いの進め方を確認させたりする。 「司会を決めて、話し合いの進め方をたしかめましょう。」 ・時間の制限があるため、各班で1名ずつ司会を決めさせるだけに して、記録と計時の係は省略する。 ・P35の「ノートのれい」を参考に確認させる。例…意見を出し合う→決め方を確かめる→決め方に沿って話会う→話し合いをまとめる。	・グループごとに話し合う目的と決めることをたしかめる。 ・司会を決めたり、話し合いの進め方を確認する。 ・話し合いの進め方を確認する。
終末 10分	⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「進」「役」「他」の読み書きの練習をさせる。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「どのように話し合いをすれば良いのか分かりましたか。」	・「進」「役」「他」の読み書きの練習をする。 ・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○話し合いの進め方の指導について

・本来ならば、指導過程を踏んで、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめられるように支援していけるのが望ましい。本単元では、2時間扱いのため、それらの指導が十分に行えない。その代わりに、自分の意見を理由も入れて述べられたら大いに賞賛し、自分の考えを進んで相手に伝えようとする意欲を高めたい。

板書例

- ① 題材名「はんで意見をまとめよう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ グループごとに話し合う目的と決めることをたしかめさせる。  
「グループごとに話し合いの目的や決めることをたしかめましょう。」
- ④ 司会を決めさせたり、話し合いの進め方を確認させたりする。  
「司会を決めて、話し合いの進め方をたしかめましょう。」

はんで意見をまとめよう

今日の学習の進め方

- ① 目的と決めることをたしかめ、自分の考えをもつ。
- ② 役わりを決め、進め方をたしかめる。

〈やくわり〉

司会 きろく 時間をはかる

〈進め方〉

- ① 意見を出し合う
- ② 決め方をたしかめる
- ③ 決め方にそって話し合う
- ④ 話し合いをまとめる

〈新しく習う漢字〉

進行 役わり 他

- ⑥ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「どのように話し合いをすれば良いのか分かりましたか。」

はんで意見をまとめよう①

三年 組 名前

めあて

(1) 目的と決めることをたしかめましょう。

目的

決めること

(2) 役わりを決め、進め方をたしかめましょう。

役わり

進め方

① 決め方にそつて話し合う。

② 決め方にそつて話し合う。

③ 話し合いをまとめる。

新しく習う漢字

進	他
役	

はんで意見をまとめよう①〈記入例〉

三年 組 名前)

めあて

はんで話し合いをするための進め方をたしかめよう。

(1) 目的と決めることをたしかめましょう。

目的

一年生が、本をすきになつてくれるような、読み聞かせをしよう。

決めること

どのような本を読むとよいか。

(2) 役わりを決め、進め方をたしかめましょう。

〈役わり〉

〈進め方〉

① 決め方にそつて話し合う。

② 決め方にそつて話し合う。

③ 話し合いをまとめる。

〈新しく習う漢字〉

進	他
役	

# 45

題材名 「はんで意見をまとめよう」(第2時/全2時間)

目標 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。  
 ◎進んで目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら、学習の見通しをもって、グループで話し合い、考えをまとめようとする事ができる。

領域等 A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「はんで意見をまとめよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 決め方にそって話し合い、読む本を決めよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時で、P34の「学習の進め方」の前半部を、次時で後半部を学習することを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 30分	③ どのようにして本を決めるのか、班ごとに話し合わせる。 「はんごとに、読み聞かせて読む本の決め方をたしかめましょう。」 ・司会の児童を中心に、どのように話し合い、本を選んでいくのか条件を決めさせる。(時間は、5分程度) ④ 決め方に沿って、班ごとに話し合わせる。 「決め方にそって、読み聞かせて読む本はどれが良いのか話し合いましょう。」 ・司会の児童を中心に、どの本が良いのか、お互いに、理由を述べながら意見を出させる。(時間は、10分程度) ⑤ 出された意見の中から、どの本にするのか班ごとに決めさせる。 ・司会の児童を中心に、どの本にするのか話し合いをまとめさせる。(時間は、5分程度) ○時間内に結論を出せなくても、お互い自分の意見を述べられたらよしとする。	・班ごとに本の決め方を話し合う。 ・決め方に沿って、班ごとに話し合う。 ・どの本にするのか、班ごとに決める。
終末 10分	⑥ 班ごとに、自分たちの話し合いを振り返らせる。 ・自分たちの話し合いを振り返って良かった点を具体的に伝え合わせる。例…「～のがよかったね。」「～が分かりやすかったね。」 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「どのようにすれば、話し合いをまとめられるのか分かりましたか。」	・自分たちの話し合いを振り返る。 ・本時で学習したことを確かめる。



## 板書例

- ① 題材名「はんで意見をまとめよう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ どのようにして本を決めるのか、班ごとに話し合わせる。  
「はんごとに、読み聞かせで読む本の決め方をたしかめましょう。」
- ④ 決め方に沿って、班ごとに話し合わせる。  
「決め方にそって、読み聞かせで読む本はどれが良いのか話し合いましょう。」
- ⑤ 出された意見の中から、どの本にするのか班ごとに決めさせる。

はんで意見をまとめよう

決め方にそって話し合い、読む本を決めよう。

今日の学習の進め方

- ① はんで話し合う。
- ② 話し合いをふりかえる。

〈進め方〉

- ① 意見を出し合う
- ② 決め方をたしかめる
- ③ 決め方にそって話し合う
- ④ 話し合いをまとめる

- ⑥ 班ごとに、自分たちの話し合いを振り返させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「どのようにすれば、話し合いをまとめられるのかわかりましたか。」

はんで意見をまとめよう②

w  
45

三年 組 名前( )

めあて

--

(1) はんで話し合いました。

〈進め方〉

- ① 決め方をたしかめる。
- ② 決め方にそつて話し合う。
- ③ 話し合いをまとめる。

(2) 話し合いのしかたで、よかつたところをつたえ合おう。

■ 発言のしかた

■ 話し合いの整理のしかた

はんで意見をまとめよう②〈記入例〉

W  
45

三年 組 名前( )

めあて

(1) はんで話し合いました。

〈進め方〉

① 決め方をたしかめる。

② 決め方にそつて話し合う。

③ 話し合いをまとめる。

(2) 話し合いのしかたで、よかつたところをつたえ合おう。

■ 発言のしかた

○○さんは、最初に自分の意見をはつきりと言つたあとに、理由を言つたのがよかつた。

■ 話し合いの整理のしかた

○○さんは、話し合いがうまくいかなつた時に、最初に決めた決め方をもういちどたしかめたのがよかつた。

# 46

題材名 「漢字の広場④」(第1時/全1時間)

目標 第2学年までに配当させている漢字を書き、分や文章の中で使うことができる。  
 ◎進んで第2学年までに配当指されている漢字を書き、課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場④」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。 絵の中に住んでいるつもりで、町の様子をせつめいする文を書こう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 提示されている言葉を音読させる。 ・〈れい〉を参考に、絵の中にある漢字を1つ以上ずつ使いながら、図中の町の様子を方位を表す言葉をなるべく用いて書くことを確かめる。 ・方位を表す言葉に印を付けさせたりして、予め意識させておくとよい。 ○児童の実態に応じて、町にあるものの説明のみに絞らせ、その他の様子の説明は省略してもよい。 ・例示されている言葉以外も必要に応じて使えるように支援する。 ④ P40の絵を見ながら、説明させる。 「絵を見て、町にはどんなものがあるのか教えてください。次に、それがどんな様子なのかも教えてください。」 ・時を表す言葉が無い場合は、自分で付け足してもよいことを伝える。 ⑤ 町にあるものやそれらの様子について説明する文をワークシートに書かせる。 「絵の中の言葉など使って、町の中にあるものの様子を説明する文をワークシートに書いてみましょう。」 ○自分が書いた文を音読させることで、間違いや表現のねじれの有無があるのか確かめられるように意識させたい。	・例語を読み、読み方を確かめる。 ・町にあるものやそれらの様子を説明する。 ・ワークシートに出来事や予定を書く。
終末 10分	⑥ 作った文を読み合わせる。 「作った文をお互いに読み合ひましょう。」 ・文意が整った文や複文を作ることができた場合、大いに賞賛し、児童の日本語に対する興味関心を高めたい。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「2年生で習った漢字を使ってを町の様子を説明できましたか。」	・友だちの作った文を読む。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○方位・方角を表す言葉とその概念

・本来ならば、3年生の社会や理科の学習で方位に関する言葉や方角についての指導が行われる。しかし児童によって未習であったり、現地校の授業で異なる概念で学習している可能性も考えられる。そこで、時間的な制約があるが、方位と方角の違いなど最低限必要な事柄は、身に付いているかを確認したい。

### ○条件に合った文を書かせるために

・今回で4回目になる「漢字の広場」の学習は、毎回文を書く条件が提示されている。前回までの条件がクリアされているのが理想だが、日本語能力にばらつきが見られる場合は、個に応じた対応が求められる。一斉指導で示した目標の他に、その子に合った目標を設定して、少しでも達成感を与えたい。

## 板書例

① 題材名「漢字の広場④」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。

③ 提示されている言葉を音読させる。

④ P40の絵を見ながら、説明させる。

「絵を見て、町にはどんなものがあるのか教えてください。  
次に、それがどんな様子なのかも教えてください。」

⑤ 町にあるものやそれらの様子について説明する文をワークシートに書かせる。

「絵の中の言葉など使って、町の中にあるものの様子を説明する文をワークシートに書いてみましょう。」

### 漢字の広場④

町の様子をせつめいする文を書こう。

〈れい〉わたしの家は、町の北の方にあります。  
近所に、犬をかつている家があります。

（やくそく）①方位を表す言葉を使って書こう。  
う。 東 西 南 北

②じゅんじょよく文を書こう。

「じう」「やう」

「だれが」「どうした」

町にあるもの 家 市場 公園 交番  
線路など

⑥ 作った文を読み合わせる。

「作った文をお互いに読み合しましょう。」

⑦ 本時の学習内容を確認させる。

「2年生で習った漢字を使ってを町の様子を説明できましたか。」

めあて 三年 組 名前)

〈れい〉わたしの家は、町の北の方にあります。近所に犬をかつている家があります。

\* 町の様子をせつめいする文章を書きましよう。

Blank writing area with 18 vertical dashed lines for student response.

めあて 三年

組 名前

町の様子をせつめいする文を書こう。

〈れい〉わたしの家は、町の北の方にあります。近所に犬をかつている家があります。

\* 町の様子をせつめいする文章を書きましょう。

① 町の東の方には、市場があります。とくに夕方は、とても活気があります。自動車で、たくさんのやさいやくだものが運ばれて来ます。

② 町の南の方には、線路があります。いつもオレンジ色の電車が、走っています。

③ 町の西がわに公園があります。広場では、思いきり走ることができます。

## 47

**題材名** 「すがたをかえる大豆」 (第1時/全4時間)

**目標** 「すがたをかえる大豆」を読んで大豆を使った食品について読み取ることができる。

**領域名** C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「すがたをかえる大豆」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大豆がすがたをかえた食品について読み取ろう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 30分	③ 範読を聞かせる。 「今から読みますので、教科書を見ながら聞きましょう。」 ④ 全文を音読させる。 「本文を読みましょう。」 各自読み → 一斉読み ⑤ 大豆を使った食品について読み取らせる。 「大豆がすがたをかえた食品にはどんなものがあるでしょう」 ⑥ おいしく食べる工夫について読み取らせる。 「おいしく食べるくふうには、どのようなものがありますか」	・範読を聞く。 ・全文を音読する。 ・大豆を使った食品について読み取る。 ・おいしく食べる工夫について読み取る。
終末 10分	⑦ 新出漢字や語句を確認させる。 「新しく習う漢字や言葉をたしかめましょう」 ⑧ 本時の学習を確認させる 「大豆がすがたをかえた食品について読み取ることができましたか」	・新しく習う漢字や言葉をたしかめる。 ・本時の学習を確認する。

### 指導のポイント

○ 学習を始めるにあたって

・大豆という食品の名前は知っているが、実物をじっくりと見たことのないという児童も多いであろう。ここでは、まず、大豆の実物に触れることで、これから学習する大豆についての関心を高めたい。また、可能であれば、枝についたさやの状態で提示したい。

○ 本文と写真の食品を対応させながら

・黙読をしながら、大豆からできている食品に線を引かせる。線を引いた箇所を全員で確認してから、大豆食品と写真とを対応させる。それらの食品を食べた経験などを発表させ、味や食べる頻度などを話し合わせることで、身の回りの食べ物に対する関心が高まることを期待できる



## 板書例

- ① 題材名「すがたをかえる大豆」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 範読を聞かせる。  
「今から読みますので、教科書を見ながら聞きましょう。」
- ④ 全文を音読させる。  
「本文を読みましょう。」 各自読み → 一斉読み

- ⑤ 大豆を使った食品について読み取らせる。  
「大豆がすがたをかえた食品にはどんなものがあるでしょう」
- ⑥ おいしく食べる工夫について読み取らせる。  
「おいしく食べるくふうには、どのようなものがありますか」

## 板書例

すがたをかえる大豆

大豆がすがたをかえた食品について読み取ろう

大豆がすがたをかえた食品

に豆 きなこ とうふ なつとう みそ しょうゆ  
みそ えだ豆 もやし

おいしく食べるくふう

・ いたり、にたりして、やわらかくする

・ こなにひく

・ すりつぶして水をくわえ、中身をしぼりだす

・ 小さな生物の力をかりる

〈新しく習う漢字〉

豆 者 育 消 取 期 畑

〈言葉の意味〉

さや：マメの種が入ってるからのこと

消化：食べ物を吸収しやすいように形を変化させる

こと

ニガリ：海水から食塩を取り出した後のえき体

- ⑦ 新出漢字や語句を確認させる。  
「新しく習う漢字や言葉をたしかめましょう」
- ⑧ 本時の学習を確認させる。  
「大豆がすがたをかえた食品について読み取ることができましたか」





# 48

**題材名** 「すがたをかえる大豆」 (第2時/全4時間)  
**目標** 大豆をおいしく食べる工夫と食品を整理してまとめることができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「すがたをかえる大豆」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">大豆をおいしく食べるくふうと食品をまとめよう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ 段落を確認させる。 「この説明文はいくつの段落からできていますか」 ④ P48 の表を使っておいしく食べる工夫と食品についてまとめさせる。 「おいしく食べる工夫と食品を表にまとめましょう」	・段落を確認する。 ・おいしく食べる工夫と食品を表にまとめる。
終 末 5 分	⑤ 本時の学習を確認させる 「おいしく食べるくふうと食品をまとめることができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

- 大豆が食品に姿を変える方法を読み取る
- ・ 9種類の大豆食品が、どんな方法で姿を変えて加工されていくのかを分類させる学習である。ワークシートに整理する前に、大豆の姿を変える方法が幾つ例示されているかを、通読の後に予想させる。それにより、分類のしかたについての関心を高めさせる。

板書例

- ① 題材名「すがたをかえる大豆」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 段落を確認させる。
  - 「この説明文はいくつの段落からできていますか」
- ④P48 の表を使っておいしく食べる工夫と食品についてまとめさせる。
  - 「おいしく食べる工夫と食品を表にまとめましょう」

板書例

7	6	5	4	3	段落	
る。	て、ちがう食品にする。	ちがう食品にする。	こなに引いて食べる。	やわらかく、おいしくする。	おいしく食べるくふう	おいしく食べるくふうと食品
とり入れる時期や育て方をくふうす	目に見えない小さな生物の力をかり	大切なえいようだけを取り出して、	きなこと	その形のままいったり、にたりして、	おいしく食べるくふう	大豆をかえる大豆
やし	みそ	とうふ	きなこ	いり豆・に	食品	大豆をおいしく食べるくふうと食品をまとめよう
えだ豆・も	しょうゆ・	なっとう・	とうふ	豆(黒豆)	食品	大豆をかえる大豆

段落をたしかめよう … 八段落

- ⑤ 本時の学習を確認させる。
  - 「おいしく食べるくふうと食品をまとめることができましたか。」

# すがたをかえる大豆2

三年 組 名前

めあて

--

段落をたしかめよう … 八 段落

おいしく食べるくふうと食品

段落	おいしく食べるくふう	食品
3		
4		
5		
6		
7		

# すがたをかえる大豆2

教材見本

三年 組 名前

めあて

大豆をおいしく食べるくふうと食品をまとめよう

段落をたしかめよう … 八 段落

おいしく食べるくふうと食品

段落	おいしく食べるくふう	食品
3	その形のままいたり、いたりして、やわらかく、おいしくする。	いり豆・に豆（黒豆）
4	こなに引いて食べる。	きなこ
5	大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にする。	とうふ
6	目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にする。	なっとう・しょうゆ・みそ
7	とり入れる時期や育て方をくふうする。	えだ豆・もやし

# 49

**題材名** 「すがたをかえる大豆」 (第3時/全4時間)

**目標** 段落を組み立てる順番を考えることができる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「すがたをかえる大豆」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大豆をおいしく食べるくふうと食品をまとめよう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ 本文を音読させる。 「『すがたをかえる大豆』を音読しましょう」 ④ 前時の学習を確認させる。 「大豆をおいしく食べるくふうはいくつありましたか」 ⑤ 段落がどんな順番で組み立てられているか考えさせる。 「五つのくふうはどんな順序でならべられていますか」 ・筆者は内を基準にした順番でこの説明文を構成しているのかを 考えることで、段落構成について理解させたい。	・本文を音読させる。 ・前時の学習を確認する。 ・段落がどんな順番で組み立てられているか考える。
終 末 5 分	⑥ 自分で順序を考え、発表させる。 「自分ならどのような順序でしょうかいいますか」 ⑦ 本時の学習を確認させる 「おいしく食べるくふうと食品をまとめることができましたか」	・自分で順序を考え、発表する。 ・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

○ 大豆に手を加えるときの言葉

- ・いる (煎る・炒る) … 鍋などに入れて火であぶること、また水分がなくなるまで煮詰めること。
- ・にる … 食物を、水または調味料を加えた汁に加えて加熱し、食べられる状態にすること。
- ・ひく … ひき臼やその他の道具で、粒状のものや肉を細かくすること。
- ・熱する … 熱を加えること。熱くすること。
- ・すりつぶす … すって細かく砕くこと。また、すって形をなくすこと。
- ・しぼり出す … 圧力を加え、中の液体などを出すこと。
- ・むす … 蒸気でものを熱すること。ふかすともいう。
- ・ゆでる … 熱湯で煮ること。うでるともいう。



板書例

- ① 題材名「すがたをかえる大豆」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③ 本文を音読させる。  
『すがたをかえる大豆』を音読しましょう」

- ④ 前時の学習を確認させる。  
「大豆を美味しく食べるくふうはいくつありましたか」
- ⑤ 段落がどんな順番で組み立てられているか考えさせる。  
「五つのくふうはどんなじゅんじょでなられていますか」
- ⑥ 自分で順序を考え、発表させる。  
「自分ならどのようなじゅんじょでしょうかいしますか」

板書例

大豆をかえる大豆

段落を組み立てるきじゅんじょを考えよう

おいしく食べるくふう … 五つ

どのようなじゅんじょでしょうかいしますか。

その形のままいたり、にたりして、やわらかく、おいしくする。

こなに引いて食べる。

大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にする。

目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にする。

とり入れる時期や育て方をくふうする。

いり豆  
に豆  
きなこ  
とうふ  
なつとう  
しょうゆ  
みそ  
えだ豆  
もやし

⑦ 本時の学習を確認させる。  
「段落を組み立てる順番を考えたことができましたか」

# すがたをかえる大豆③

三年 組 名前

めあて

おいしく食べるくふう … 五つ

どのようなじゆんじよでしようかいたしますか

# すがたをかえる大豆③

教材見本

三年 組 名前

めあて

段落を組み立てるきじゆんじよを考えよう

おいしく食べるくふう … 五つ

どのようなじゆんじよでしようかいしますか

その形のままいたり、にたりして、やわらかく、おいしくする。

いり豆

に豆

こなに引いて食べる。

おぼろ

大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にする。

豆腐

目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にする。

納豆

しょうゆ

みそ

とり入れる時期や育て方をくふうする。

えだ豆

もやし

# 50

**題材名** 「すがたをかえる大豆」 (第4時/全4時間)  
**目標** 「すがたをかえる大豆」全体の組み立てを考察することができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「すがたをかえる大豆」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">全体の組み立てを読み取ろう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ 全体を大きく三つのまとまりに分けさせる。 「全体を『はじめ』『中』『終わり』に分けてみましょう」 ④ 「はじめ」にどんな「問い」が入るか考えさせる。 「『はじめ』にどんな『問い』が考えられますか」 ⑤ 「中」の各段落の文章構成について読み取らせる。 「『中』のそれぞれの段落では、何が、どのじゅんじょで書いてありますか」 ・「おいしく食べるくふう」→「食品」の順で書かれている。	・全体を大きく三つのまとまりに分ける。 ・「はじめ」にどんな「問い」が入るか考える。 ・「中」の各段落の文章構成について読み取る。
終 末 5 分	⑥ 本時の学習を確認させる 「全体の組み立てを読み取ることができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

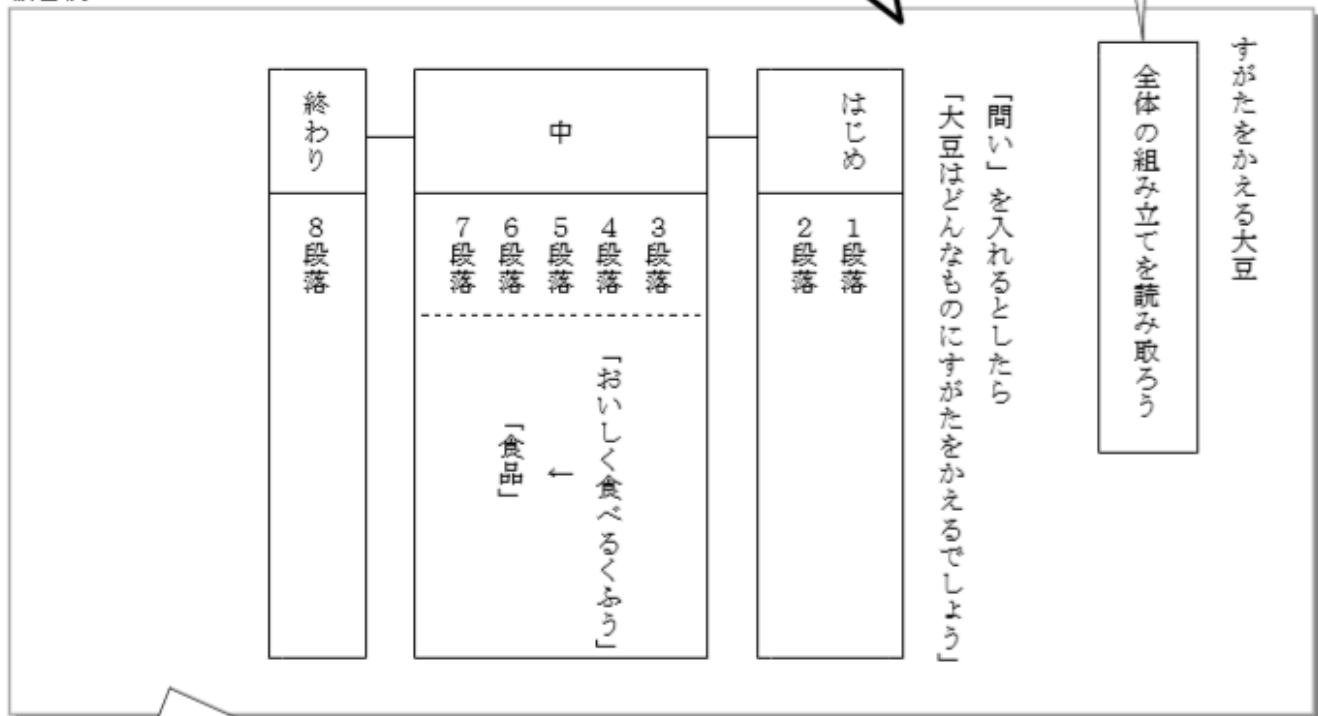
- これまでの学習を生かして
  - ・まず、「終わり」の部分を見つけさせる。その際、見つけられない児童には、既習の「ありの行列」を思い出させ、「このように」という言葉に注目させるようにする。
  - ・2段落と3段落のどちらで「はじめ」と「中」に分けたらよいのかに迷う児童もいるであろう。その場合は、「中」の部分はどんなことを中心に書かれているのかを考えさせ、大豆をおいしく食べる工夫について書かれていることを確認させる。そのうえで、おいしく食べる工夫は、どこから書かれているのかを考えさせるようにする。

板書例

- ① 題材名「すがたをかえる大豆」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。  
・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 全体を大きく三つのまとまりに分けさせる。  
「全体を『はじめ』『中』『終わり』に分けてみましょう」
- ④ 「はじめ」にどんな「問い」が入るか考えさせる。  
『はじめ』にどんな『問い』が考えられますか」
- ⑤ 「中」の各段落の文章構成について読み取らせる。  
『中』のそれぞれの段落では、何が、どのじゅんじょで書いてありますか」

板書例



- ⑥ 本時の学習を確認させる。  
「全体の組み立てを読み取ることができましたか」

# すがたをかえる大豆 4

三年 組 名前

めあて

--

「問い」を入れるとしたら

「豆はどんなものにすがたをかえるでしょう」

はじめ	1 段落	
	2 段落	

中	3 段落	
	4 段落	
	5 段落	←
	6 段落	

終わり	8 段落	
-----	------	--

---

---

# すがたをかえる大豆 4

教材見本

三年 組 名前

めあて

全体の組み立てを読み取る

「問い」を入れるとしたら

「豆はどんなものにすがたをかえるでしょう」

はじめ	1 段落 2 段落
-----	--------------

中	3 段落	
	4 段落	「おいしく食べるくふう」
	5 段落	←
	6 段落	「食品」

終わり	8 段落
-----	------

.....

.....

# 51

**題材名** 「食べ物のひみつを教えます」（第1時／全2時間）

**目標** 「はじめ・中・おわり」の構成を意識し、「中」の例と絵を組み合わせながら段落に分けて書くことができる。

**領域名** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「食べ物のひみつを教えます」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">すがたをかえる食べ物について調べよう</div> ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ 全食材を一つ選び、どのようにすがたを変えて食べられているか調べさせる。 「『米』『麦』『とうもろこし』『さとうきび』『牛乳』『魚』の中から一つえらび、どのようにすがたをかえて食べられているか調べましょう」 ④ P52 の図や票を参考に、調べたことを図や表でまとめさせる。 「調べたことを図や表にまとめてみましょう」 ⑤ 「すがたをかえる大豆」の学習を思い出させ、「はじめ・中・おわり」の組み立てについて確認させる。 「『はじめ・中・おわり』の組み立てをたしかめましょう」 ⑥ P53、54 の例を参考にして、説明の文章を書かせる。 「上田さんのように、せつめいの文章を書きましょう」	・食材を一つ選び、どのようにすがたを変えて食べられているか調べる。 ・P52 の図や表を参考に、調べたことをまとめる。
終末 5分	⑦ 本時の学習を確認させる 「調べたことをもとにせつめいの文章が書けましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

### ○ 学習活動について

- ・分かりやすい説明に必要なことを話し合い、学習課題「調べたことを、れいをあげてせつめいする文章を書こう」を設定し、学習計画を立てる。
- ・「米」「麦」「とうもろこし」「さとうきび」「牛乳」「魚」の中から食材を一つ選び、どのように姿を変えて食べられているか調べる。
- ・教科書P52を参考にして、思いついたことや考えたことを書いて、調べる内容を整理する。
- ・P53、54の例を参考にして「はじめ」「中」「おわり」の構成になるように、調べたことの例を示しながら書く。



## 板書例

- ① 題材名「食べ物のひみつを教えます」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 「すがたをかえる大豆」の学習を思い出させ、「はじめ・中・おわり」の組み立てについて確認させる。  
『はじめ・中・おわり』の組み立てをたしかめましょう」
- ④ P36、37の例を参考にして、説明の文章を書かせる。  
「丸川さんのように、せつめいの文章を書きましょう」
- ⑤ グループで書いた文章を読み合わせる。  
「書いた文章を読み合ひましょう」

## 板書例

<p>・友だちの書いた文章を読み合ひましょう。</p>	<p><b>おわり</b></p> <p>・全体をまとめる。</p>	<p><b>中</b></p> <p>・具体的なれいをあげてせつめいする。 ・れい① ・れい②</p>	<p><b>はじめ</b></p> <p>・これからせつめいする話題をおおまかにしめす。</p>	<p>調べたことをもとにせつめいの文章を書こう</p> <p>食べ物のひみつを教えます</p>
-----------------------------	------------------------------------	---	--	---

- ⑥ 本時の学習の確認をさせる。  
「調べたことをもとにせつめいの文章が書けましたか」



# 食べ物のひみつを教えます

教材見本

三年 組 名前

めあて

おいしく食べる工夫	食品
そのままいただく	い は ん
こなこなにする	白玉

・ これからせつめいする話題をおおまかにしめす。

・ 具体的なれいをあげてせつめいする。

・ れい ①

・ れい ②

・ 全体をまとめる。

## 5 2

題材名 「ことわざ・故事成語」(第1時/全1時間)

目標 長い間使われてきたことわざや故事成語の意味を知り、使うことができる。  
 ◎積極的に意味を知ろうとし、学習課題に沿って、調べたことをまとめて書こうとすることができる。

領域等 知識及び技能

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「ことわざ・故事成語」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 ことわざや故事成語を知り、使えるようにしよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ことわざの意味を知らせ、P56のことわざの意味調べをさせる。 ・辞書または、ことわざ・故事成語辞典があれば用意しておく。 ・意味を書かせずに、意味を確かめさせたら、次のことわざの意味調べに進ませる。 ○ことわざには、生活する上で、役立つ意味が含まれていることに気付かせたい。 ④故事成語の意味を知らせ、P58の故事成語の意味や由来調べをさせる。 ・意味を書かせずに、意味を確かめさせたら、次の故事成語の意味や由来調べに進ませる。 ○故事成語にも、生活する上で、役立つ意味が含まれていることに気付かせたい。	・ことわざの意味調べをする。 ・故事成語の意味や由来調べをする。
終末 10分	⑥新出漢字の読み書きを練習させる。 ・「福」「苦」「倍」「談」を練習させる。 ⑦本時の学習内容を確認させる。 「主なことわざや故事成語の意味が分かりましたか。」 ・時間があったら、調べたものの中から、自分で気に入ったことわざや故事成語を発表させるのも良い。	・新出漢字の読み書きを練習する。 ・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○ ことわざや故事成語の指導について

- ・ことわざや故事成語言葉を通して、先人の知恵や教訓、機知に触れることができるため、主な言葉の意味を知って使えるようにすることは大切である。
- ・児童が暮らす国や地域にも、昔から伝えられていることわざのような言葉があることが予想される。機会があれば、それらの言葉にも触れさせると国際教育の実践にもつながる。

## 板書例

- ① 題材名「ことわざ・故事成語」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ ことわざの意味を知らせ、P56のことわざの意味調べをさせる。
- ④ 故事成語の意味を知らせ、P58の故事成語の意味や由来調べをさせる。

ことわざ・故事成語

ことわざ

\*生きていくうえで  
のちえや教えを  
短い言葉や言い回しで表したもの

故事成語

\*中国につたわる古い出来事や元になつてできた言葉

〈新しく習う漢字〉

福 苦勞 二倍 相談

ことわざや故事成語を知り、使えるようにしよう。

- ⑥ 新出漢字の読み書きを練習させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「主なことわざや故事成語の意味が分かりましたか。」

三年 組 名前( )

めあて

--

(1)ことわざ…

(2)故事成語…

〈新しく習う漢字〉

倍	福
談	苦



## 53

**題材名** 「漢字の意味」 (第1時/全1時間)

**目標** 同じ発音でも、意味の違う漢字があることを理解し、適切に漢字をつかうことができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の意味」を黒板に書く。 ② 教科書P60の「人形にはなをつける」の文をもとに、漢字の持つ意味について考える。 ③ 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">漢字の意味に気をつけて、漢字を使おう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・漢字の持つ意味について考える。  ・本時のめあてを知る。
展開 30分	④ 教科書P60の「1」の設問に取り組みさせる。 ⑤ 「1」の設問の絵から、漢字の意味の違いがよくわかる短文を書かせる。 ・漢字とかなを交ぜて書くことで意味が分かりやすく、文が読みやすくなることに気づかせる。 ⑥ P61の「2」の設問に取り組みさせる。 ⑦ 同じ読み方で意味の違う漢字があることに気づかせる。 ⑧ P61の「3」の設問に取り組みさせる。	・設問「1」に取り組む。  ・同じ読みでも漢字の意味の違いがよくわかる短文を発表させる。  ・「設問「2」に取り組む。  ・同じ読み方で意味の違う漢字があることに気づく。 ・短文を作る。
終末 10分	⑨ 新出漢字を学習させる。 ⑩ 本時の学習を確認させる 「漢字には意味があることがわかりましたか」	・新出漢字を学習する。  ・本時の学習を確認する。

### 指導のポイント

○同音異字の間違い

児童は漢字の音に影響された誤用がおおいので、表意文字としての漢字の利便性に気づかせ、漢字を理解していこうという態度を育てていく。

○意味の区別がすぐにつく

漢字を使えば意味の違いにすぐに気づくことや、文を理解しやすくなることに気づかせたい。



## 板書例

- ① 題材題材名「漢字の意味」を黒板に書く。
- ② 教科書P60の「人形にはなをつける」の文をもとに、漢字の持つ意味について考える。
- ③ 本時の目標を児童に知らせる。

- ④教科書P60の「1」の設問に取り組みさせる。
- ⑤短文を考えさせる。
- ⑥P61の「2」の設問に取り組みさせる。
- ⑦同じ読み方で意味の違う漢字があることに気づかせる。
- ⑧P61の「3」の設問に取り組みさせる。

### 板書例

漢字の意味

漢字の意味に気をつけて、漢字を使おう

花をつける  
鼻をつける

火 齒  
日 葉

は は は は は  
母は齒はじょうぶです

新出漢字  
鼻、齒、諧、央、旅、委、級、昭、  
和、駅、業、皮・皿

- ⑨本時の学習を確認させる。  
「言葉の区切りに気をつけながら短歌を詠むことで、言葉の調子や響きを楽しむことができましたか。」

# 漢字の意味

三年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

「1」  
葉

「2」

① 二

の中央から

おじは二

目

② 学級新聞の

、

の仕組み

③ 山

のてっだい

「3」

同じ読み方で意味の違う漢字を見つけて、それぞれの漢字で文を作りましょう。

# 漢字の意味

三年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

漢字の意味に気をつけて、漢字を使おう

「1」  
葉

齒

火

日

「2」

④ 二階

の中央から

おじは二

回

目

⑤ 学級新聞の

記者

、  
汽車

の仕組み

⑥ 山

火事

家事

のてつだい

「3」 同じ読み方で意味の違う漢字を見つけて、それぞれの漢字で文を作りましょう。

# 54

**題材名** 「短歌を楽しもう」（第1時／全1時間）

**目標** 短歌を声を出して読むことで、言葉の調子や響きに親しむことができる。

◎ 積極的に言葉の調子やリズムに親しみ、覚えて言うことができる。

**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 B 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「短歌を楽しもう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">短歌のことばの調子やひびきを楽しもう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 教科書P62, 63の短歌を教師が範読する。 ④ 切れ目にしるしをいれて、言葉のまとまりを見つけさせる。 「切れ目にしるしをいれてみよう」 ○ むしのねも / のこりすくなに / なりにけり / よなよなかぜの / さむくしなれば ・以下、次の3つの短歌も切れ目にしるしを入れて、言葉のまとまりを見つけさせる。 ・教科書の現代語訳を説明してもよいが、言葉の響きやリズムに重きを置く。	・教師の範読を聞く。 ・児童が言葉のかたまりごとにしるしをつける。
終末 5分	⑤ 五・七・五・七・七の音のまとまりを確かめさせる。 「五・七・五・七・七の音の塊をたしかめよう」 ・短歌について、五・七・五・七・七の三十一音で作られた短い詩であることを説明する。 ⑥ 音読を互いに聞き合って、読み方を練習する。 ⑦ 気に入った短歌を選び、暗唱できるように練習する。 「好きな短歌を詠んで、どこが気に入ったのかを、お互いに発表しあいましょう」	・音のまとまりが、五・七・五・七・七になっていることを確かめる。 ・好きな短歌を選んで、その理由を書く。 ・お互いに好きな短歌とその理由を発表しあう。
終末 5分	⑧ 本時の学習を確認させる。 「言葉の区切りに気をつけながら短歌を詠むことで、言葉の調子や響きを楽しむことができましたか。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○切れ目を意識しながら、言葉の調子や響きを味わわせ、音読する中で音に慣れさせる。

○気に入ったものは、覚えて言えるようにする。

## 板書例

- ① 題材名「短歌を楽しもう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

- ③ 教科書 P62, 63 の短歌を教師が範読する。
- ④ 切れ目にしるしをいれて、言葉のまとまりを見つけさせる。  
「切れ目にしるしをいれてみよう」
- ⑤ 五・七・五・七・七の音のかたまりを確かめさせる。  
「五・七・五・七・七の音のかたまりをたしかめよう」
- ⑥ 音読を互いに聞き合っ、読み方を練習する。
- ⑦ 気に入った短歌を選び、暗唱できるように練習する。  
「好きな短歌を詠んで、どこが気に入ったのかを、お互いに発表しあいましょう」グループで発表しあう。

## 板書例

短歌を楽しもう

短歌のことばの調子やひびきを楽しもう

一 むしのねも ー のこりすくなに ー なりにけり ー

よなよなかぜの ー さむくしなれば

秋きぬと目にはさやかに見えねども

風の音にぞおどろかれぬる

おく山にもみじふみ分け鳴くしかの

声聞く時ぞ秋は悲しき

あまのはらふりさけ見ればかすがなる

みかさの山にいでし月かも

二 言葉のかたまりの数を確かめてみよう。

五・七・五・七・七

三 声に出して読んでみよう。

四 自分の好きな短歌とその理由

- ⑨ 本時の学習を確認させる。  
「言葉の区切りに気をつけながら短歌を詠むことで、言葉の調子や響きを楽しむことができましたか。」

# 短歌を楽しもう

三年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

一 切れめにしるしをいれてみよう。

むしのねものこりすくなになりにつけり

よなよなかぜのさむくしなれば

秋きぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

おく山にもみじふみ分け鳴くしかの声聞く時ぞ秋は悲しき

あまのはらふりさけ見ればかすがなるみかさの山にいでし月かも

二 言葉のまとまりの数をかぞえてみよう。

三 声に出して読んでみよう。

四 自分の好きな短歌を選んでどこが好きかを書いてみよう。

# 短歌を楽しもう

教材見本

三年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

短歌のことばの調子やひびきを楽しもう

一 切れめにしるしをいれてみよう。

むしのねものこりすくなになり  
にけり

よなよなかぜのさむくしなれば

秋きぬと目にはさやかに見えねども  
風の音にぞおどろかれぬる

おく山にもみじふみ分け鳴くしかの  
声聞く時ぞ秋は悲しき

あまのはらふりさけ見ればかすがなる  
みかさの山にいでし月かも

二 言葉のまとまりの数をかぞえてみよう。

三 声に出して読んでみよう。

四 自分の好きな短歌を選んでどこが好きかを書いてみよう。

# 55

題材名 「漢字の広場⑤」(第1時/全1時間)

目標 第2学年までに配当させている漢字を書き、分や文章の中で使うことができる。  
 ◎進んで第2学年までに配当指されている漢字を書き、課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場⑤」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。 「学校でのようすを、日記をつけるように文を書こう。」 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 提示されている言葉を音読させる。 ・〈れい〉を参考に、絵の中にある漢字を1つ以上ずつ使いながら、学校内の学習の様子を教科を表す言葉を用いて常態の文体で書くことを確かめる。 ・教科を表す言葉に印を付けさせたりして、予め意識させておくとよい。 ○児童の実態に応じて、何の教科を行っているのかについてのみに絞らせ、その他の様子の説明は省略してもよい。また、常態の書き方が難しい場合は、無理に訂正させなくてよい。 例：国語の勉強をしている。 ・例示されている言葉以外も必要に応じて使えるように支援する。 ④ P64の絵を見ながら、説明させる。 「絵を見て、何の勉強をしているのか教えてください。次に、どのように勉強をしているのか教えてください。」 ⑤ 学校で行われていることを説明する文をワークシートに書かせる。 「絵の中の言葉などを使って、学校で行われていることを日記をつけるようにワークシートに書いてみましょう。」 ○自分が書いた文を音読させることで、間違いや表現のねじれの有無があるのか確かめられるように意識させたい。	・例語を読み、読み方を確かめる。 ・学校内で行われていることを説明する。 ・ワークシートに説明する文を書く。
終末 10分	⑥ 作った文を読み合わせる。 「作った文をお互いに読み合ひましょう。」 ・文意が整った文や複文を作ることができた場合、大いに賞賛し、児童の日本語に対する興味関心を高めたい。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「2年生で習った漢字を使って、学校の様子を文に書けましたか。」	・友だちの作った文を読む。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○ 教科について

・補習授業校では、一般的に国語と算数のみの学習である。そのため、国内の学校や日本人学校に在籍したことのない児童にとって、馴染みの無いものがあることが予想される。特に社会や図画工作のような実技系の教科についての補足説明を必要に応じて行いたい。

### ○ 条件に合った文を書かせるために

・今回の例文は、常態の文末表現になっている。これまで児童が国語と算数の教科書で目にしてきた文末表現は、ほぼ全て敬体の文末表現になっている。そのため、児童によっては、文を書く際に抵抗感を覚える可能性がある。実態に合わせた指導が求められる。



## 板書例

- ① 題材名「漢字の広場⑤」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。

- ③ 提示されている言葉を音読させる。
- ④ P64の絵を見ながら、説明させる。  
「絵を見て、何の勉強をしているのか教えてください。  
次に、どのように勉強をしているのか教えてください。」
- ⑤ 学校で行われていることを説明する文をワークシートに書かせる。  
「絵の中の言葉など使って、学校で行われていることを日記をつけるようにワークシートに書いてみましょう。」

漢字の広場⑤

学校の様子について、日記を書こう。

〈れい〉

〈やくそく〉

①文の最後の書き方に気をつける。  
くだ。　くである。など

②じゅんじょよく文を書く。  
「いつ」「どうして」  
「だれが」「どうした」

- ⑥ 作った文を読み合わせる。  
「作った文をお互いに読み合しましょう。」
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「2年生で習った漢字を使って、学校の様子を文に書けましたか。」



三年 組 名前)

めあて

〈れい〉理科の時間に、かん電池を使つて、じつけんをした。

(やくそく)①文のさいごの書き方に気をつける。

②じゅんじょよく文を書く。↓「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」

①国語のじゅぎょうで、話し合いの勉強をした。四人でグループを作り、友だちの話をよく聞いてから、発言するようにした。

②社会のじゅぎょうでは、新聞を使った勉強をした。世の中のよ  
うすを新しく知ることができた。また、世の中のことについて考  
えることもできた。

③理科のじゅぎょうでは、かん電池を使つて、電気の回路を作るべ  
んきょうをした。まめ電球がついて、おもしろかった。

# 56

**題材名** 「三年とうげ」（第1時／全2時間）  
**目標** 物語を読んで考えたことを発表することができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「三年とうげ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">『三年とうげ』のおもしろいところを見つけよう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 30分	③ 範読を聞かせる。 「様子を思い浮かべながら聞きましょう」 ④ 全文を音読させる。 各自読み → 一斉読み ⑤ 「三年とうげ」のおもしろいところを見つけ、発表させる。 「『三年とうげ』を読んで、おもしろいと思ったところに線を引き発表しましょう」	・範読を聞く。 ・全文を音読する。 ・「三年とうげ」のおもしろいところを見つけ、発表する。
終末 10分	⑥ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる。 ⑦ 言葉の意味を知らせる。 ⑧ 本時の学習を確認させる 「『三年とうげ』のおもしろいところを見つけることができましたか」	・新しく習う漢字を学習する。 ・言葉の意味を確かめる。 ・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

- 視覚的に訴えて
  - ・この時期の児童には、日本のお話、外国のお話という区分はあるものの、どこの国のお話かという感覚はない。視野を広げる意味でも、外国のお話については、大きな世界地図（おおまかなものでよい）を教室に張り、署名をカードや短冊に書いてその世界地図にはって視覚的に喚起していくのも、一つの方法である。
- 教師の範読で魅力的なお話の世界へ
  - ・児童に「朝鮮や韓国ってどこにあるか知ってる？」と尋ね、世界地図などで位置を確認させるなどして、日本にとっても近い所ということを知らせてから判読する。
  - ・範読は、思い思いに聞かせてもよいが、教科書の挿絵を拡大し、紙芝居風に読んでもよい。挿絵を利用することによって、おおまかなあらすじをつかませていきたい。

# 板書例

- ① 題材名「三年とうげ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③ 範読を聞かせる。  
「様子を思い浮かべながら聞きましょう」
- ④ 全文を音読させる。  
各自読み → 一斉読み

- ⑤ 「三年とうげ」のおもしろいところを見つけ、発表させる。  
『三年とうげ』を読んで、おもしろいと思ったところに線を引き、発表しましょう」

## 板書例

三年とうげ

三年とうげ「のおもしろいところを見つけよう

おもしろいと思ったところに線を引こう。

「三年とうげでころがすなう。」

「ころころころりんと、転がり落ちてしまいました。」

「えいやら えいやら…ころりやめでたい。」

新しく習う漢字

息美転病医  
飲重配度幸始

言葉の意味

とうげ…山の坂道を上り切って、それを過ぎれば下りになるというところ。

なだらかな…かたむきなどのゆるやかなようす。

ふもと…山のすその部分。

言いつたえ…長い間、人から人に口づてにつたえられてきた話・伝説。

おそるおそる…こわがりながら、びくびくしながら。

反物…着物にする布地。

ひと息入れる…ひと休みすること。

- ⑥ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる
- ⑦ 言葉の意味を知らせる。

- ⑧ 本時の学習の確認をさせる。  
『三年とうげ』のおもしろいところを見つけることができましたか」



めあて

「三年とうげ」のおもしろいところを見つけてよう

おもしろいと思ったところに線を引こう。

「三年とうげでころぶでない。」

「ころころころりんと、転がり落ちてしまいました。」

「えいやら えいやら…こりや めでたい。」

言葉の意味

とうげ…山の坂道を上り切って、それを過ぎれば下りになるというところ。

なだらかな…かたむきなどのゆるやかなようす。

ふもと…山のすその部分。

言いつたえ…長い間、人から人に口づてにつたえられてきた話・伝説。

新しく習う漢字

息					美				
転					病				
医					薬				
飲					重				
配					度				
幸					始				

# 57

**題材名** 「三年とうげ」（第2時／全2時間）

**目標** 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づくことができる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「三年とうげ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる。 ③ なぜおもしろいと思ったのかわけをまとめ、話し合おう ・本時のめあてを知る。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ 本文を読ませる。 「前の時間におもしろいと感じたところを考えながら読みま 35しょう」 ・この時間読んでみて、おもしろいと感じたところが変わる場 合が考えられるが、それも認める。 ④ おもしろいと思ったわけをまとめさせる。 「おもしろいと思ったわけをワークシートに書きましよう」 ⑤ おもしろいと思ったところやそのわけについて話し合わせる。 「おもしろいと感じたところやそのわけを話しましよう」 ・友だちの感じ方や考えを知り、様々な受け止め方があることに気 づかせる。」	・本文を読む。 ・おもしろいと思ったわけをまとめる。 ・おもしろいと思ったところやそのわけについて話し合う。
終末 5分	⑥ 本時の学習を確認させる。 「おもしろいと思ったわけをまとめ、話し合うことができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

○ 学習を広げる

- ・このお話の後、「三年とうげ」の言い伝えがどうなったかを考えてもおもしろい。
- ・「なくなった」「まだ続いている」など、理由も加えて発表させたい。
- ・友達との考え方の違いが分かり、違う考えも認めるような雰囲気になりたい。
- ・これまでに読んだ民話・昔話や物語で、同じような組み立てのものがあつたか思い出して話し合い、図書館などで本を探して読ませてみたい。



板書例

- ① 題材名「三年とうげ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③ 本文を読ませる。  
「前の時間におもしろいと感じたところを考えながら読みましょう」

- ④ おもしろいと思ったわけをまとめさせる。  
「おもしろいと思ったわけをワークシートに書きましょう」
- ⑤ おもしろいと思ったところやそのわけについて話し合わせる。  
「おもしろいと感じたところやそのわけを話しましょう」

板書例

<p>「えいやら えいやら…こりやめでた い」</p>	<p>「ころころころり んと転がり落ちて しまいました。」</p>	<p>「三年とうげでころ ぶでない」</p>	<p>おもしろいと思ったところ</p>	<p>そのわけ</p>
<p>よくないと思っていた ことを、考え方一つで よいことにかえてしま うのがすごい。</p>	<p>あんなにこわがってい たのに、楽しそうに転 がっているところが おもしろい。</p>	<p>言ったえはこわいけれ ど、「三年とうげ」と いう名前がおもしろい。</p>		

三年とうげ

なぜおもしろいと思ったのかわけをまとめ、  
話し合おう

- ⑥ 本時の学習を確認させる。  
「おもしろいと思ったわけをまとめ、話し合うことができましたか」



# 三年とうげ 2

教材見本

三年 組 名前

めあて

なぜおもしろいと思ったのかわけをまとめて、話し合おう。

おもしろいと思ったところ	そのわけ
三年とうげで ころがでない」	言つたえはこわいけ れど、「三年とうげ」
	という名前がおもしろい。
「ころころころり んと転がり落ち	あんなにこわがって
てしまいましたし た。」	いたのに、楽しそう に転がっているところ がおもしろい。
「えいやら えい やら…こりや	よくないと思ってい
めでたい」	たことを、考え方一 つでよいことにかえ
	てしまうのがすごい。

# 58

題材名 「たから島のぼうけん」(第1時/全3時間)

目標 絵地図を見て想像したことをもとに、物語の大まかな内容を決めることができる。  
 ◎進んで課題に沿って、内容や構成を工夫しながら物語を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「たから島のぼうけん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。 物語を書くためのないようを考えよう ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ p81の前書きを読み、学習の見通しを立てさせる。 ・本時で構想を練り、次時で物語を書き、その次の時間に物語を読み返したり、友だちと読み合い交流したりすることを伝えて見通しをもたせる。 ・時間が限られているため、短い(原稿用紙1,2枚程度)物語でよいことも併せて伝えたい。 ④ P82の地図を見ながら物語の内容を考えさせる。 「地図を見て、物語のないようをそうぞうしましょう。」 ・p82の青線で囲まれた部分の6点について問いかけながら想像をふくらませる。 ⑤ 組み立てと場面の様子をワークシートに書かせる。 「地図を見てそうぞうしたことをもとに、組み立てを整理しましょう。」 ○実態に応じて、「中」の部分(出来事が起きたり、解決したりする場面)のみでもよしとする。	・学習の見通しをもつ。 ・物語の内容を考える。 ・ワークシートに組み立てと場面の様子を書く。
終末 5分	⑥ 新出漢字の練習をさせる。 ・「島」「待」「受」の練習をさせる。 ⑦ 本時と次時の学習内容を確認させる。 「物語の内容を整理することができましたか。」 「次の時間は、わくわくする物語を書きましょうね。」	・新出漢字の練習をワークシートにする。 ・本時で学習したことや次時で学習することを確かめる。

## 指導のポイント

### ○ 物語を書く指導について

- ・児童は、前学年にも絵をもとにしたお話作りを行っている。今回は構成をより充実させることをねらっている。この言語活動を可能にするにはには、児童の想像力と創造力が求められる。つまり、児童のこれまでの読書経験や生活体験の内容によって大きく左右されると言える。そのため、児童の実態に応じた個別の対応が必要となる。

## 板書例

- ① 題材名「たから島のぼうけん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。

- ③ p81の前書きを読み、学習の見通しを立てさせる。
- ④ P82の地図を見ながら物語の内容を考えさせる。  
「地図を見て、物語のないようをそうごうしましょう。」
- ⑤ 組み立てと場面の様子をワークシートに書かせる。  
「地図を見てそうごうしたことをもとに、組み立てを整理しましょう。」

たから島のぼうけん

物語を書くためのないようを考えよう。

次のことを考えよう

①どんな人がぼうけんをしたのか

②たから島のどこで、どんなぼうけんをしたのか

③どんなたから物を手に入れたのか

④その後どうなったのか

【漢字】

たから島

待ち受ける

- ⑥ 新出漢字の練習をさせる。
- ⑦ 本時と次時の学習内容を確認させる。  
「物語の内容を整理することができましたか。」  
「次の時間は、わくわくする物語を書きましょうね。」

めあて三年 組 名前)

--

(1) 82 ページの地図を見て物語のないようをそうぞうしましょう。

① どんな人物か

② どのようにして地図を手に入れたか。

③ どの道をえらび、どんなものに出会ったか。

④ 登場人物は、どんな行動をしたか。

⑤ どんなたから物を手に入れたか。

⑥ 登場人物は、その後どうなったか。

〈新しく習う漢字〉

受	島
	待



# 59

題材名 「たから島のぼうけん」(第2時/全3時間)

目標 「初め」「中」「終わり」の組み立てに沿って、短い物語を書くことができる。  
◎進んで課題に沿って、内容や構成を工夫しながら物語を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「たから島のぼうけん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。 組み立てにそって、わくわくする物語を書こう	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ p84の注意書きを読み、学習の見通しを立てさせる。 ・場面の様子や登場人物の行動、気持ちが読む人に分かるように書く事を伝える。 ・時間が限られているため、短い(原稿用紙1,2枚程度)物語でよいことも併せて伝えたい。④ ④原稿用紙(ノート)に組み立てに沿って物語を書く。 「自分で考えた組み立てにそってわくわくする物語を書こう。」 ○実態に応じて、書く所を部分的のみとすることもよしとする。 例…「中」の部分のみ(出来事が起きたり、解決したりする場面) ・児童の書く内容を個別に確認しながら、字の間違いや表現に行き詰まっている児童の支援を適宜行う。	・学習の見通しをもつ。 ・組み立てに沿って物語を書く。
終末 5分	⑤ 本時と次時の学習内容を確認させる。 「おもしろい物語を書くことができましたか。」 「次の時間は、友だちの書いた物語を読み合います。」	・本時で学習したことや次時で学習することを確かめる。

## 指導のポイント

### ○ 物語を書く指導について(2)

- ・児童の実態に応じた個別の対応を行うための具体的な手立てとして次の様なものが考えられる。

自分から書ける児童…表現内容で良い点を具体的に指摘して賞賛する。

例「～が驚いた様子がとてもよく伝わってきますね。素晴らしいです。」

自力で何とか書ける児童…児童が困っている点を見つけたり、尋ねたりして必要な助言をする。

例…「ここをこうするとこうなるからがんばろうね。」

自力では困難な児童…書き出しを指定してあげたり、場合によっては、例文(p84)を一部または、全文視写させてもよい。



## 板書例

- ① 題材名「たから島のぼうけん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。

- ③ p84の注意書きを読み、学習の見通しを立てさせる。
- ④原稿用紙（ノート）に組み立てに沿って物語を書く。  
「自分で考えた組み立てにそってわくわくする物語を書こう。」

たから島のぼうけん

組み立てにそってわくわくする物語を書こう。

次のものがつたわるように書こう。

- ①場面の様子
- ②登場人物の行動や気持ち

次のことをたしかめよう。

- ①分かりやすい表げんになっているか。
- ②主語と述語は合っているか。
- ③文字にまちがいがいないか。

- ⑤ 本時と次時の学習内容を確認させる。  
「おもしろい物語を書くことができましたか。」  
「次の時間は、友だちの書いた物語を読み合います。」

めあて 三年 組 名前( )

\* 物語を書きましょう。

① 始まり

② 出来事(事件)が起こる

③ 出来事（事件）が解決する

④ むすび

めあて 三年 組 名前)

組み立てにそつてわくわくする物語を書こう。

\* 物語を書きましよう

① 始まり

そうまとゆなは、小さいころからの友だちで、毎日いつしよに登校するほどなかよしです。(以下省略)

② 出来事(事件)が起こる

めずらしい鳥に見とれたそうまは、何かをふみました。なんとそれは、おそろしいワニのしっぽだったのです。(以下省略)

③ 出来事(事件)が解決する

「このつるを使って。急いで。」そうまは、ゆなにもらった草のつるで、ワニの口をぐるぐるとしばりました。二人は、とぶようににげました。(以下省略)

④ むすび

二人は、ぶじに島から家にもどることができました。でも、たから島のことはだれにも話しませんでした。

# 60

題材名 「たから島のぼうけん」(第3時/全3時間)

目標 物語を読み合い、感想を伝え合うことができる。  
 ◎進んで課題に沿って、内容や構成を工夫しながら物語を書こうとする。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「たから島のぼうけん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。 物語を読み合い、感想を伝え合おう。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ 自分が書いた物語を読み返して手直し(推敲)をさせる。 「自分が書いた物語を読み返して、字のまちがいが無いかをたしかめよう。」 ○誤字、脱字がないかと句読点や符号が正しく使われているかの2点に絞って推敲させる。 ・清書をする時間がとれないので、直接 赤ペンなどを用いて修正させる。 ④ 書いた物語をお互いに読み合わせる。 「友だちの書いた物語を読んで楽しみましょう。」 ⑤ 読んだ感想をお互いに伝え合わせる。 「おもしろかったことやまねしたいことをつたえましょう。」 ・直接書いた友だちに感想を伝えても良いし、付箋紙等を感想を書いて作品に付けていくのも良い。 ○作品の優劣によって、読まれる頻度にばらつきが生じないように配慮する。例…教師も加わって、意図的に感想を伝える。	・自分が書いた物語を読み返して手直しをする。 ・友だちの書いた物語を読む。 ・読んだ感想をお互いに伝え合う。
終末 5分	⑥ 本時の学習内容を確認させる。 「友だちの物語を読んで楽しむことができましたか。」 ・可能ならば、最後に p85 の「たいせつ」のコラム欄を取り扱い、学びを振り返らせる。	・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○ 読書指導との関連

- ・3年生の児童に限らず、子どもは、どきどき、はらはらする物語が大好きである。本時のタイトル中にもある「ぼうけん」的な要素をもつ児童向けに書かれた書物は多く出版されている。授業校に日本の図書室にあたる施設があれば、是非読ませる機会を設けたい。

## 板書例

- ① 題材名「たから島のぼうけん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。

- ③ 自分が書いた物語を読み返して手直し（推敲）をさせる。  
「自分が書いた物語を読み返して、字のまちがいがいがないかをたしかめよう。」
- ④ 書いた物語をお互いに読み合わせる。  
「友だちの書いた物語を読んで楽しみましょう。」
- ⑤ 読んだ感想をお互いに伝え合わせる。  
「おもしろかったことやまねしたいことをつたえましょう。」

## 板書例

たから島のぼうけん

物語を読み合い、感想をつたえ合おう。

次のものがつたわるように書こう。

- ① おもしろかったこと
- ② まねしたいこと

【たいせつ】

物語は、四つの組み立てで書く。

- ① 始まり
- ② 出来事（事件）が起こる
- ③ 出来事（事件）が解決する
- ④ むすび

- ⑥ 本時の学習内容を確認させる。  
「友だちの物語を読んで楽しむことができましたか。」

めあて 三年 組 名前 ( )

(1) 友だちの作品を読んでおもしろかったところを書きましょう。

(2) 友だちの作品を読んでまねしたいことを書きましょう。

(3) 物語を書く時の組み立てをまとめましょう。

①

②

③

④

組 名前( )

めあて

物語を読み合い、感想をつたえ合おう。

(1) 友だちの作品を読んでおもしろかったところを書きましょう。

ワニが出てきたところは、うまくにげられるのか、読んでいてときどき  
した。

(2) 友だちの作品を読んでまねしたいことを書きましょう。

「とぶようににげました」というところから、とてもこわかったこ  
とがわつてきたので、言葉の使い方まねしたい。

(3) 物語を書く時の組み立てをまとめましょう。

① 始まり

② 出来事(事件)が起こる

③ 出来事(事件)解決する

④ むすび



# 6 1

題材名 「冬の暮らし」(第1時/全1時間)

目標 語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。  
 ◎冬らしさを感じる言葉を積極的に知ろうとし、自らの語彙を豊かにしようとする。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「冬の暮らし」を黒板に書く。	・本時の目標を知る。
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">冬らしさを感じる言葉を集めよう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・目標を声を合わせて読む。
	③ p86,87の「ゆき」を音読させる。 ・音読することで、冬の代名詞である雪の質感のイメージをつかませたい。	・「ゆき」を音読する。
	④ p86,87を参考に、冬の寒さを防ぐ工夫や、冬ならではの食べ物について話し合う。 ・児童の日本国内における生活経験の差を配慮し、図鑑やネットで検索した関連画像を活用してもよい。 ○授業校が寒冷地にある場合は、現地における衣食住の工夫についてふれると現地理解にもつながる。	・冬の寒さをのりきる工夫や冬に美味しい食べ物について話し合う。
終末 10分	⑤ 身の回りで見つけた冬らしさを感じたものについて書く。 「身の回りで冬らしさを感じたものについて書いてみましょう。」 ・P86の例を参考に2～4文程度の文章を書かせる。 ・「寒かったので、してみたこと」について、日記形式で書かせる。 ○日本国内と自然環境が異なる地域の場合は、児童の居住している地域の生活について触れたものであればよしとする。 ・時間がとれたら、書いた文章をお互いに読み合い、交流する。	・ワークシートに寒かったののでしてみたことについて書く。
	⑥ 本時の学習内容を確認させる。 「冬らしさを感じる言葉には、どのような言葉あるのか分かりましたか。」	・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○「季節の言葉」の学習を通じた現地理解、国際教育

- ・児童によっては、日本での生活経験が少なかったり、場合によっては無い場合も予想される。国内にいても、以前ほど日本古来の季節に応じた伝統行事や文化に触れる機会が減っている。ましてや海外にいれば尚更である。そこで、この学習をきっかけに受け継がれたきた伝統に興味をもったり、自分たちの生活に少しでも取り入れようとする気持ちをもたせたいものだ。更に、現在暮らす地域との違いを比べることで、お互いの文化を尊重しようとする態度が育つことを期待したい。

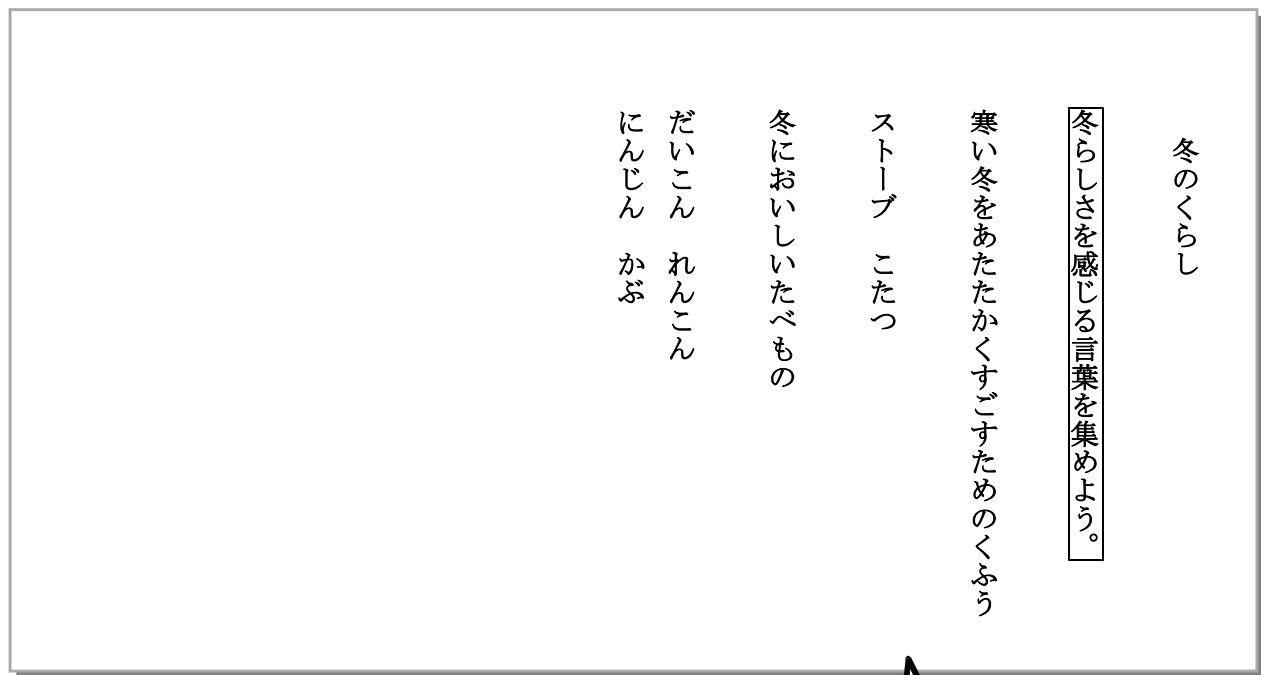
### ○インターネットによる画像検索の活用について

- ・児童は、国内に比べて、季節感を体感する機会がどうしても少なくなる。そのため、インターネットによる画像検索をもとに作成した各種関連画像を大いに活用したい。各種画像を通してより季節感への理解を深めさせたい。その際、著作権を侵さないよう、十分に配慮したい。

## 板書例

- ① 題材名「冬の暮らし」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書く。

- ③ p86,87の「ゆき」を音読させる。
- ④ p86,87を参考に、冬の寒さを防ぐ工夫や、冬ならではの食べ物について話し合う。
- ⑤ 身の回りで見つけた冬らしさを感じたものについて書く。  
「身の回りで冬らしさを感じたものについて書いてみましょう。」



- ⑥ 本時の学習内容を確認させる。  
「冬らしさを感じる言葉には、どのような言葉あるのか分かりましたか。」

三年 組 名前)

めあて

--

(1)寒い冬をあたたかくすごすためのくふうを集めましょう。

(2)土の中で育つ野菜を集めましょう。

(3)身の回りで見つけた、冬を感じたものについて書きましょう。

三年 組 名前)

めあて

冬らしさを感じる言葉を集めよう。

(1)寒い冬をあたたかくすごすためのくふうを集めましょう。

ストーブ こたつ

(2)土の中で育つ野菜を集めましょう。

だいこん れんこん にんじん かぶ

(3)身の回りで見つけた、冬を感じたものについて書きましょう。

わたしが日本にいるときにすんでいたところは、北海道です。

冬は、とても寒いところです。

道路に雪や氷があるので、すべらないように気をつけていまし  
た。

## 62

題材名 「詩のくふうを楽しもう」(第1時/全1時間)

目標 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。  
 ◎進んで詩を読んで感想や考えをもとうとし、今までの学習を生かして詩のおもしろさを紹介する文を書いたり、詩をつくってみようとするができる。

領域等 知識及び技能

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「詩のくふうを楽しもう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 詩を読んで、くふうを見つけて楽しもう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ P88～90の6つの詩を読み、それぞれどのような工夫がされているのか確かめさせる。 「それぞれどのような工夫がされているのか見つけましょう。」 ○最初の2作品は、各行の最初の一字をつなげると詩の題名になっていておもしろい点、次の2作品は、音読することで言葉の調子のおもしろさが味わる点、最後の2作品は、題名と書かれている言葉のつながりのおもしろさが味わる点に気付かせたい。 ④ 2つの活動のどちらかを選んで、詩を楽しませる。 「おもしろいと思った詩の工夫を紹介する簡単な文を書きましょう。」 又は、「おもしろいと思った工夫を使って、詩を作ってみましょう。」 ・自分が気に入った詩の工夫を紹介する文を書くか、自分が気に入った詩の工夫を元に詩を作ってみるか、どちらかを選ばせる。	・6つの詩を読んで、工夫を見つける。 ・活動を選んで、詩を楽しむ。
終末 5分	⑤ 本時の学習内容を確認させる。 「自分で選んだ活動を通して、詩の工夫を楽しむことができましたか。」	・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○ 詩の指導について

- これまで教師が提示した詩を読むという受け身の立場であったが、本時の学習は、より主体的、能動的に詩と関わっていかうとするきっかけとなると言える。これを機会に、自ら進んで詩に触れたり、詩に対する感性を磨いたりできるようにさせたい。

## 板書例

- ① 題材名「詩の工夫を楽しもう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

③ P88～90の6つの詩を読み、それぞれどのような工夫がされているのか確かめさせる。  
「それぞれどのような工夫がされているのか見つけましょう。」

④ 2つの活動のどちらかを選んで、詩を楽しませる。  
「おもしろいと思った詩の工夫を紹介する簡単な文を書きましょう。」  
又は、「おもしろいと思った工夫を使って、詩を作ってみましょう。」

詩のくふうを楽しもう

詩を読んで、くふうを見つけて楽しもう。

〈詩のくふうのれい〉

① 行のさいしよの字に言葉をかくす。

② 声に出して読むとおもしろい。  
言葉を使う

③ 文字や言葉を絵のようにならべる。

⑤ 本時の学習内容を確認させる。  
「自分で選んだ活動を通して、詩の工夫を楽しむことができましたか。」

三年 組 名前 (

めあて

--

(1)それぞれの詩のくふうを見つけて書きましよう。

① 88ページの詩

② 89ページの詩

③ 90ページの詩

(2)二つの活動(①詩のくふうをしようかいる文章を書く。②詩のくふうを使って、詩を作る)からえらんで、詩を楽しみましよう。

三年 組 名前( )

めあて

詩を読んで、くふうを見つけて楽しもう。

(1)それぞれの詩のくふうを見つけて書きましよう。

① 88ページの詩

行のさいしよの一字ずつ読んでいくと詩の題がかくされている。

② 89ページの詩

声を出して読むと楽しい。

③ 90ページの詩

言葉のならびを見て楽しめる。

(2)二つの活動(①詩のくふうをしようかいつする文章を書く。②詩の

くふうを使って、詩を作る)からえらんで、詩を楽しみましょう。



## 63

**題材名** 「カンジーはかせの音訓かるた」 (第1時/全1時間)  
**目標** 3年生で学習した漢字を読んだり、書いたりすることができる。  
**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「カンジーはかせの音訓かるた」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">音訓遊び歌を楽しもう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 30分	③ P92 を読んで、「音訓遊び歌」について知らせる。 「カンジーはかせの音訓かるたを読みましょう」 ④ 音訓遊び歌を声に出して読ませる。 「音訓遊び歌を声に出して読んでみましょう」 ⑤ P93 を読んで音訓遊び歌の作り方を知らせる。 「音訓遊び歌の作り方を読みましょう」 ⑥ 音訓遊び歌を作らせる。 「みんなで音訓遊び歌を作りましょう」	・P92 を読んで、「音訓遊び歌」について知る。 ・音訓遊び歌を声に出して読む ・P93 を読んで音訓遊び歌の作り方を知る。 ・みんなで音訓遊び歌を作る。
終末 10分	⑦ 作った音訓遊び歌を発表させる。 「作った音訓遊び歌を発表しましょう」 ⑧ 本時の学習を確認させる。 「音訓遊び歌を作ることができましたか」	・作った音訓遊び歌を発表する ・本時の学習を確認する。

### 指導のポイント

- 音訓遊び歌を作り、言語感覚を磨く
  - ・なかなか漢字を見つけて短文を作れない児童には、「上」「下」「勝」「負」「親」「切」「落」「話」など、比較的書きやすい字から選ばせて文を作らせるとよい。
  - ・音訓遊び歌ができたなら、必ず作った文を教師にチェックしてもらうことを約束させる。正しい文ができていたら、おおいにほめてやることが大切である。そうすることで、本人だけでなく、他の児童の意欲も高めることができる。
  - ・「読み札」と「取り札」をつくり、カルタにして楽しんでもよい。

板書例

- ① 題材名「カンジーはかせの音訓遊び歌」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 音訓遊び歌を声に出して読ませる。  
「音訓遊び歌を声に出して読んでみましょう」
- ④ P.93を読んで音訓遊び歌の作り方を知らせる。  
「音訓遊び歌の作り方を読みましょう」
- ⑤ 音訓遊び歌を作らせる。  
「みんなで音訓遊び歌を作りましょう」

板書例

カンジーはかせの音訓遊び歌

みんなで音訓遊び歌を作ろう

〈作り方〉

- ① どの漢字を使うかを決める。
- ② 漢字の読み方一つ一つについて、その読み方を使った言葉を集める。
- ③ 音訓みを使った言葉と、訓読みを使った言葉を一つずつ使って、ひとつながりの文を考える。
- ④ リズムを整えて、かんせい。

上等の ケーキ等しく 切り分ける

旅先の 宿で宿題 はかどらず

日記帳 三日ぼうずは そつきようだ

宮大工 大きな寺院 しゅうりする

口笛を ふくと速くで 汽笛鳴り

自転車の 速度速める 待ち合わせ

- ⑥ 作った音訓遊び歌を発表させる。  
「作った音訓遊び歌を発表しましょう」

- ⑦ 本時の学習を確認させる。  
「音訓遊び歌を作ることが」

# カンジーはかせの音訓遊び歌 1

三年 組 名前

めあて

## 〈音訓遊び歌〉

- ・漢字の音と訓を使って
- ・五・七・五のリズムで

千代紙で 千羽のつるを おつたとせ  
五                      七                      五

## 〈作り方〉

# カンジーはかせの音訓遊び歌 1

教材見本

三年 組 名前

めあて

音訓遊び歌を楽しもう

## 〈音訓遊び歌〉

- ・漢字の音と訓を使って
- ・五・七・五のリズムで

千代紙で 千羽のつるを おつたとさ

五 七 五はし  
目の前を 第一走者 走りねけ

石炭は もえるふしぎな 黒い石

犬根も かぶもごぼうも 根っこだよ

羊毛が ふわふわしている 羊さん

運転を 終えたら車庫に 車入れ

## 〈作り方〉

- ① どの漢字を使うかを決める。
- ② 漢字の読み方一つ一つについて、その読み方を使った言葉を集める。
- ③ 音読みを使った言葉と、訓読みを使った言葉を一つずつ使って、ひとつながりの文を考える。
- ④ リズムを整えて、かんせい。

## 64

題材名 「漢字の広場⑥」（第1時／全1時間）

目標 第2学年までに配当させている漢字を書き、分や文章の中で使うことができる。  
 ○進んで第2学年までに配当指されている漢字を書き、課題に沿って文を書こうとする。

領域等 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場⑥」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。 それぞれのきせつでどんなことをしたかをくわしく書こう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 提示されている言葉を音読させる。 ・〈れい〉を参考に、絵の中にある漢字をなるべく多く使いながら、どんなことをしたのか、修飾語も付け足しながら書くことを確かめる。 ・まず、4枚の絵が表す季節や用語の読み方を確かめる。 ○〈れい〉を活用して、それぞれの言葉が主語・述語・修飾語に当たるのか把握させる。 ④ P94の絵を見ながら、説明させる。 「絵を見て、どんなことをしているのか教えてください。」 ○修飾語の使用を促すため、児童に問いかけをしながら文作りで使える言葉を増やしたい。 ⑤ 季節でしたことをワークシートに書かせる。 「絵の中の言葉などを使って、季節でしたことをワークシートに書いてみましょう。」 ○自分が書いた文を音読させることで、間違いや表現のねじれの有無があるのか確かめられるように意識させたい。	・例語を読み、読み方を確かめる。 ・P94の絵を見ながら、内容を説明する。 ・季節ごとにしたことを条件に沿って書く。
終末 10分	⑥ 作った文を読み合わせる。 「作った文をお互いに読み合いましょう。」 ・文意が整った文や複文を作ることができた場合、大いに賞賛し、児童の日本語に対する興味関心を高めたい。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「2年生で習った漢字を使って、季節の様子を文に書けましたか。」	・友だちの作った文を読む。 ・本時で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○ 季節感について

・児童が居住している国や地域は、日本国内のように四季が分かれているとは限らない。そこで、教科書の図版以外にも、日本の四季に関する画像や映像を入手できたら、児童に見せて、「季節感を追体験させるのもよい。

#### ○ 条件に合った文を書かせるために

・短文を紹介し合う際に、事前に提示された観点に沿って評価させ合うのもよい。

観点の例として、

- (1) 例示されたどの言葉を使っているか。
  - (2) 書き方でおかしい所（まちがいや不自然さ）はないか。
  - (3) 書き方の条件は、あっているか等が挙げられる。
- 但し、欠点のみでなく、長所も伝えられるように働きかけたい。

## 板書例

- ① 題材名「漢字の広場⑥」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて知らせる。

- ③ 提示されている言葉を音読させる。
- ④ P94の絵を見ながら、説明させる。  
「絵を見て、どんなことをしているのか教えてください。」
- ⑤ 季節でしたことをワークシートに書かせる。  
「絵の中の言葉などを使って、季節でしたことをワークシートに書いてみましょう。」

### 漢字の広場⑥

きせつでしたことをくわしく書こう。

（れい）わたしは、春に、友だちと野原へピクニックに出かけました。空は、すっきりと晴れ、あたたかな風がふいていました。

（やくそく）①絵の中の人になりきって書く。

②修飾語を使って書く。

「すっきりと」「あたたかな」

春 晴れ 鳥 風 野原 明るい

昼ごはん 食べる

夏 雲 魚 岩 船 体そう

海 麦茶

秋 遠い 汽車 山里 歩く 米

冬 夜空 星 雪 毛糸

- ⑥ 作った文を読み合わせる。  
「作った文をお互いに読み合しましょう。」
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「2年生で習った漢字を使って、季節の様子を文に書けましたか。」

三年 組 名前（

めあて

へれい）わたしは、春に、友だちと野原へピクニックに出かけまし

た。空は、すつきりと晴れ、あたたかな風がふいていました。

（やくそく）①絵の中の人になりきって書く。

②修飾語を使って文を書く。↓「すつきりと」「あたたかな」

三年 組 名前)

めあて

きせつでしたことをくわしく書こう。

〈れい〉わたしは、春に、友だちと野原へピクニックに出かけまし

た。空は、すつきりと晴れ、あたたかな風がふいていました。

(やくそく)①絵の中の人になりきって書く。

②修飾語を使って文を書く。↓「すつきりと」「あたたかな

①夏にわたしは、海に遊びに行きました。

すなはまで、はりきって体そうをしたあとに、岩の近くで泳いだり、魚つりをしたりしました。

遊んだあとに飲んだ麦茶は、とてもつめたくておいしかったです。

②秋にわたしは、山里の道をのんびりと歩きました。

遠くに、汽車がけむりを上げて走っているのが見えました。

近くでは、田んぼに米がたくさんみのつていました。



# 65

**題材名** 「ありのぎょうれつ」（第1時／全4時間）  
**目標** ありの行列を読んで感想を持つことができる。  
**領域名** C 読むこと B 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「ありのぎょうれつ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「ありの行列」を読んでかんそうを持とう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展 開 30 分	③ 範読を聞かせる。 「今から読みますので、教科書を見ながら聞きましょう。」 ④ 言葉の意味を確認させる。 ⑤ 全文を音読させる。 「本文を読みましょう。」 各自読み → 一斉読み ⑥ 段落について知らせ、段落番号を付けさせる。 「行の初めが一文字下がっているところを探して、番号を付けましょ う。」 ⑦ 初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことをメモさせる。	・範読を聞く。 ・言葉の意味を確認する。 ・全文を音読する。 ・段落に番号を付ける。 ・感想メモをワークシートに書き込む。
終 末 10 分	⑦ 感想を発表させる。 「友だちの感想を聞いて、自分と同じところや違うところを見つけま しょう。」 ⑧ 本時の学習を確認させる。 「観想をもつことができましたか」	・感想を発表する。 ・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

- 一文一列の形で音読させる。
  - ・音読に抵抗を感じている児童に対しては他の列が音読しているときに自信のない漢字や言葉を確認させたり、音読をリードしてやったりして、できるかぎり音読に対する抵抗感を軽減させる。
- 文章を読んで、初めて知ったこと・驚いたこと、疑問に思ったことをなどをワークシートに書き、発表させる。
  - ・感想を「初めて知ったこと・驚いたこと」と、「疑問に思ったこと」の二つに分け、文章の順に沿って並び替えると分かりやすい。
  - ・感想を書いた短冊（一つの短冊に感想を一つずつ書く）を分類・整理するなどして、利用してもよい。

# 板書例

- ① 題材名「ありの行列」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 範読を聞かせる。  
「今から読みますので、教科書を見ながら聞きましょう。」
- ④ 言葉の意味を確認させる。
- ⑤ 全文を音読させる。  
「本文を読みましょう。」 各自読み → 一斉読み

- ⑥ 段落について知らせ、段落番号を付けさせる。  
「行の初めが一文字下がっているところを探して、番号を付けましょう。」
- ⑦ 初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことをメモさせる。

## 板書例

ありの行列

「ありの行列」を読んでかんそうを持とう

新しく習う漢字

研究 庭

言葉の意味

かんさつ…物事のようにすをありのまま、注意深く見

ること

道すじ…通っていく道

さえぎる…じやまをして動きを止める。

みだれる…きちんとしたもの、まとまりがなくな

ったり、ばらばらになったりする。

ちりぢり…集まっていたものが、はなればられにな

るさま。ばらばら。

目的地…目指している土地。達しようとする所

じよう発…液体が気体になること

交わる…二つ以上の線などが、一つの点で重なる。

段落

・行の初めが一文字下がっているところ

・そこを区切りとして内容がひとまとまり

になっているところ

かんそう

- ⑧ 感想を発表させる。  
「友だちの感想を聞いて、自分と同じところや違うところを見つけましょう。」
- ⑨ 本時の学習を確認させる。  
「感想を持つことができましたか。」



めあて

「ありの行列」を読んでかんそうを持とう

新しく習う漢字

研					究				
庭									

言葉の意味

かんさつ…物事のようにすをありのまま、注意深く見ること

道すじ…通っていく道

さえぎる…じやまをして動きを止める。

みだれる…きちんとしたものが、まとまりがなくなったり、ばらばらになったりする。

ちりぢり…集まっていたものが、はなればられになるさま。ばらばら。

目的地…目指している土地。達しようとする所

じょう発…液体が気体になること

交わる…二つ以上の線などが、一つの点で重なる。

## ありの行列 1

### 段落

- ・ 行の初めが一字下がっているところ
- ・ そこを区切りとして内容がひとまとまりになっているところ

### かんそう

## ありの行列 1

### 段落

- ・ 行の初めが一字下がっているところ
- ・ そこを区切りとして内容がひとまとまり  
になっているところ

### かんそう

# 66

**題材名** 「ありのぎょうれつ」（第2時／全4時間）  
**目標** ありの行列を読んで「問い」と「答え」を見つけることができる。  
**領域名** C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ありのぎょうれつ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「問い」と「答え」を探そう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ 第1段落を音読させる。 「P96,L1からL6までを声に出して読みましょう。」 ④ 第1段落を読み、「問い」をまとめさせる。 「第1段落には、何が書かれていましたか。」 ⑤ 第2段落から最後まで音読させる。 「P96,L7からP97,L12までを声に出して読みましょう。」 ⑥ 「問い」に対する「答え」を探させる。 「行列ができるわけは、どの段落に書かれていますか。」 「行列ができるわけは何と書かれていますか。」	・第1段落を音読する。 ・第1段落を読み、「問い」をまとめる。 ・第2段落から最後まで音読する。 ・第9段落から、「問い」に対する「答え」を見つける。
終末 5分	⑦ 本時の学習を確認させる。 「『問い』と『答え』を見つけることができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

- 「問い」の文を見つけ、学習のしかたを明確にする
  - ・第1段落には「問題提起」とともに「導入」の役割がある。ここは、第1段落の役割を明らかにし、しっかりと確認させ、同時にその文章の大きな方向性を確認させる。
  - ・次のような言葉かけが考えられる。「この段落の中には、これからみんなに考えてほしい問題（問いかけの文）があります。どの文でしょうか。線を引いてみましょう。」
- 「問い」に対する「答え」をしっかりととらえる。
  - ・第9段落が、この文章の「答え」となるべき文で、第1段落の「問い」の文と呼応することを確認する。
  - ・第9段落が「まとめ・答え」、10段落は「発展」であることを全員で押さえる（第10段落は、この文章全体の「答え」ではなく、「その答えから、さらに分かったこと」として把握していれば、それでよい）。

# 板書例

- ① 題材名「ありの行列」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 第1段落を音読させる。
- ④ 第1段落を読み、「問い」をまとめさせる。  
「第1段落には、何が書かれていましたか。」

- ⑤ 第2段落から最後まで音読させる。
- ⑥ 「問い」に対する「答え」を探させる。  
「行列ができるわけは、どの段落に書かれていますか。」  
「行列ができるわけは何と書かれていますか。」

## 板書例

ありの行列

「問い」と「答え」を探そう

問い（二段落）  
ありはものがよく見えないのに、  
なぜ、行列ができるのでしょうか。

答え（九段落）  
~~井の中の蛙、~~においをたどって、えさの所へ  
行ったり、単に帰ったりするので、ありの行列  
ができるわけはです。

「問い」… 「なぜ」

↑

「答え」… 「このように」

- ⑦ 本時の学習を確認させる。  
「『問い』と『答え』を見つけることができましたか。」



# ありの行列 2

三年 組 名前

めあて

--

問い ( 1 段落 )

---

---

---

---

答之 ( 段落 )

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## ありの行列 2

教材見本  
三年 組 名前

めあて

「問い」と「答え」を探そう

問い（一 段落）

ありはものがよく見えないのに、  
なぜ、行列ができるのでしょうか。

答え（九 段落）

~~このように~~、おいをたどって、え  
さの所へ行ったり、巣に帰ったりす  
るので、ありの行列ができる~~という~~  
~~わけです。~~

# 67

**題材名** 「ありのぎょうれつ」（第3時／全4時間）  
**目標** 段落ごとに要点を短くまとめ、文章構成を把握することができる。  
**領域名** C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ありのぎょうれつ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">段落ごとに内容を深く読みとろう</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ 段落ごとの内容をまとめさせる。 「表にまとめましょう。小見出しとはその段落の題名のことで 」「 「各段落で大事な言葉に線を引きましょう。」 「その言葉をもとに各段落の中心をまとめましょう。」 ・机間指導をして助言する。 ・7のように小見出しをつけるのが難しい段落は事前に記入しておく。	・段落ごとに内容をまとめる。
終末 5分	④ 三つの意味段落にまとめさせる。 「1～10の段落を『はじめ』『なか』『おわり』の3つに分けるとどのようなまとまりになるのでしょうか。」 ⑤ 本時の学習を確認させる。 「段落ごとに内容を短くまとめ、組み立てを考えたか」	・三つの意味段落にまとめる。 ・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

○文章全体を見通すために

- ・一つ一つの段落の内容は分かっても、全体で何を言っているのかよく分からないことが多い。読み取りのまとめの意味も含めて、全体がどのような構造になって、何を言っているのかを理解させたい。この学習は以後高学年・中学校まで続く。ここで必ず理解させるというのではなく、一つ一つの段落を詳しく見ていくと、全体がすっきり見えてくることを実感させ、最後は文章全体に戻る習慣をつけさせたい。
- ・全体を見通すときは、それぞれの段落がどんな関係にあるのか、接続語、文末表現に着目して考えさせる。
- ・「問題提示」（第1段落）→「実験」（第2～5段落）→「研究」（第6～8段落）→「結論」（第9段落）→「発展」（第10段落）という文章構成をもう一度確認させる。
- ・内容がきちんと理解できていないところは、ここでもう一度立ち返り、押さえる

板書例

- ① 題材名「ありの行列」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 段落ごとの内容をまとめさせる。
  - 「表にまとめましょう。小見出しはその段落の題名のことで。」
  - 「各段落で大事な言葉に線を引きましょう。」
  - 「その言葉をもとに各段落の中心をまとめましょう。」
- ④ 三つの意味段落にまとめさせる。
  - 「1～10の段落を『はじめ』『なか』『おわり』の3つに分けるとどのようなまとまりになるでしょうか。」

板書例

おわり		中					はじめ		ありの行列				
1	0	9	8	7	6	5	4	3		2	1	小見出し(例)	内  よ う
まわらない理由	行列のつくり	えきのひみつ	ン	わけを知ったウイ	仕組	はたしきありの体の	ウイ	石の	ありの列の	ウイ	ありの行列の	ありは、ものがよく見え	段落ごとの内容を表にまとめよう。 小見出し：…段落の題名
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	

段落ごとにないようをみじかくまとめ、組み立てを考えよう。

- ⑤ 本時の学習を確認させる。
  - 「段落ごとに内容を短くまとめ、組み立てを考えることができましたか。」

# ありの行列 3

三年 組 名前

めあて

--

段落ごとの内ようを表にまとめよう。

小見出し : 段落の題名

段落	小見出し	内  よ う
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

# ありの行列 3

教材見本

三年 組 名前

めあて

段落ごとにないようをみじかくまとめ、組み立てを考えよう。

段落ごとの内ようを表にまとめよう。

小見出し : 段落の題名

段落	小見出し	内 よ う
1	ありの行列のなぜ	・ありは、ものがよく見えないのに、なぜ、行列ができるか。
2	ウイルソンの紹介	・ウイルソンという学者が、実験とかんさつをした。
3	ありの列の観察	・ありの巣から少しはなれた所にひとつまみのさとうをおく。 ・一びきのありがそれを見つけて帰った道すじに行列ができた。
4	石の実験	・この道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎった。・行列はみだれたが、まただんだんにありの行列ができた。
5	ウイルソンの考え	・ウイルソンは、これらのかんさつから、ありが地面に何か道しるべをつけておいたのではないかと考えた。
6	はたらきありの体の仕組み	・ありの体の仕組みを研究し、特別のえきを出すことが分かった。
7	わけを知ったウイルソン	・この研究から、ありの行列のできるわけを知ることができた。
8	えきのひみつ	・ありは、えきを見つけて帰るとき、えきを地面につけ、ほかのありたち
9	行列のできるわけ	・においをたどって行ったり、帰ったりするので、ありの行列ができる。
10	まよわない理由	・このえきにおいては、ありのしゆるいによってちがうので、けっしてまよわず歩く。

# 68

**題材名** 「ありのぎょうれつ」（第4時／全4時間）  
**目標** 文末表現や接続語の働きについて考えることができる。  
**領域名** C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ありのぎょうれつ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             文の終わりの書き方や内よりのつながりが分かる言葉の役わりについて考えよう           </div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ P103の上段を読み、文末表現の違いとその意味を考えさせる。 「『ました。』で終わる文と『です。』『ます。』で終わる文がありますが、どのように使い分けていますか。」 ④ P101を読み、引きつけられたことや、もっと知りたいと思ったこと、考えたことを文書に書きましょう。 ⑤ 書いた文章を、友だちと読みあいながら、自分と同じところやちがうところを見つけて、つたえ合ひましょう。	・文の終わりの書き方のちがいについて考える。 ・もっと知りたいことなどを文章に書く。 ・書いたことつたえ合う。
終末 5分	⑥ 本時の学習を確認させる。 「文の終わりの書き方や内よりのつながりが分かる言葉の役わりについて考えることができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

### ○言葉のまとめ

- ・「ありの行列」には、「ました。」で終わる文と、「です。」「ます。」で終わる文とがある。それぞれの文末表現の違いとその意味を理解させる。のようにして、この二つを分けて使っているかを話し合わせるが、なかなか意見が出ない場合は、観察・研究したことを書いた文と分かっていること・分かったことを説明している文は、それぞれどちらの書き方が多く使われているかを調べるように助言する。
- ・「ありの行列」では、時間を表す言葉がポイントになっている。ここで、接続語の働きに気づかせておきたい。

## 板書例

- ① 題材名「ありの行列」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ P47の上段を読み、文末表現の違いとその意味を考えさせる。  
『ました。』で終わる文と『です。』『ます。』で終わる文がありますが、どのように使い分けていますか。」
- ④ 「引きつけられたことや、もっと知りたいと思ったこと、考えたことを文書に書きましょう。」  
書いた文章を、友だちと読みあいながら、自分と同じところやちがうところを見つけて、つたえ合ひましょう。

### 板書例

ありの行列

文の終わりの書き方や内よりのつながりが分かる言葉の役わりについて考えよう。

文の終わりの書き方

…ました。

…観察したり研究したりした

ことを書いた文

…です。…ます。

…分かったことを説明している文

引きつけられたこと

もっと知りたいと思ったこと

考えたこと

を文書に書きましよう

自分と同じところ

ちがうところ

を見つけてみよう

- ⑤ 本時の学習を確認させる。  
「文の終わりの書き方や内よりのつながりが分かる言葉の役わりについて考えることができましたか。」





# ありの行列 4

教材見本  
三年 組 名前

めあて

文の終わりの書き方や内よりのつながりが分かる  
言葉の役わりについて考えよう。

△文の終わりの書き方△

…ました。 …観察したり研究したりし  
たことを書いた文

…です。 …分かったことを説明して  
います。

△つながりが分かる言葉△

・はじめに—次に … 順番

・しばらくすると—やがて  
ようやく—そのうち

… 時間

・すると—それで … 結果、理由

# 69

題材名 「つたわる言葉で表そう」(第1時/全1時間)

目標 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。

◎相手に伝わるための文章を書くための語句を進んで増やして使い、課題に沿って伝えたいことを文章にしようすることができる。

領域等 知識及び技能

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分 込	① 題材名「つたわる言葉で表そう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 <u>どのようにしたら、つたわる言葉で表せるかを考えよう</u> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 35分	③ P105-106 を読み、伝えたいことを言葉で表すことについて考えさせる。 ・「いつ」「どこで」「だれが」「だれ(何)と」「どうして」「どのように」をなるべく書き、詳しく思い描いて書けるようにすると良いことを理解させる。 ④ P107 を読み、伝えたいことを言葉で表すことについて考えさせる。 ・自分の気持ちや表したい様子に合う言葉を選べると良いことを理解させる。 ⑤ 学習したことを生かして、50~100字程度の文章を書かせる。 ○児童の実態に合わせて行う。題材として教科書の例以外に、「日曜日の出来事」「最近の現地校の出来事」等考えられる。無理のない範囲で取り組ませたい。	・伝えたいことを言葉で表すことについて考える。 ・伝えたいことを言葉で表すことについて考える。 ・50~100字程度の文章を書く。
終末 5分	⑥ 新出漢字の読み書きを練習させる。 ・「等」「湖」「注」を練習させる。 ⑦ 本時の学習内容を確認させる。 「どのようにしたら、伝わる言葉で表せるか分かりましたか。」	・新出漢字の読み書きを練習する。 ・本時で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○言葉の特徴や使い方に関する指導について

- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることにしっかりと気付かせるために、様子や行動、気持ちを表す語句の量を増やしたり、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解させたりする必要がある。3年生の補習授業校の国語の年間時数が、国内の公立小や日本人学校の245時間に対して、80時間しかないことを考えると厳しいものがあるが、教科書の巻末にある「言葉のたから箱」の活用が図れると、児童の語彙力向上に大きな効果が挙げられる。

# 板書例

- ① 題材名「つたわる言葉で表そう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ P105-106を読み、伝えたいことを言葉で表すことについて考えさせる。
- ④ P107を読み、伝えたいことを言葉で表すことについて考えさせる。
- ⑤ 学習したことを生かして、50~100字程度の文章を書かせる。

つたわる言葉で表そう  
どのようにしたら、つたわる言葉で表せるかを考えよう

つたわる言葉で表す

① くわしく思いえがく

↓ 「いつ」「どこ」「だれが」

「だれ（何）と」「どうして」

「どのように」「をなるべく書く。」

② 言葉を選ぶ

↓ 自分の気持ちや表したい様子に  
合う言葉を選ぼう。

\* 「言葉を選ぶ」

自分にとっても 相手にとっても大切なこと

〈新しく習う漢字〉

全力 一等 湖 注意

- ⑥ 新出漢字の読み書きを練習させる。
- ⑦ 本時の学習内容を確認させる。  
「どのようにしたら伝わる言葉で表せるか分かりましたか。」

三年 組 名前( )

めあて

--

(1)「くわしく思いえがく」で分かったことをまとめましょう。

(2)「言葉をえらぶ」で分かったことをまとめましょう。

(3)

(の出来事とその時の気持ちを)

(字ぐらいで書きましょう。)

〈新しく習う漢字〉

注	等				
				湖	

つたわる言葉で表そう 〈記入例〉

三年 組 名前( )

めあて

どのようなしたら、つたわる言葉で表せるかを考える。

(1)「くわしく思いえがく」で分かったことをまとめてみましょう。

「いつ」「だれが」「どこで」「だれ(何)と」「どうして」「どの ように」の中から書けそうなものをえらんで書く。

(2)「言葉をえらぶ」で分かったことをまとめてみましょう。

新しい言葉を知ったら、進んで使い、自分の気もちや表したい様子にぴったり合う言葉をえらぶようにする。

(3)冬休みの出来事とその時の気持ちを60字ぐらいで書きましょう。

冬休みに日本に帰りました。ひさしぶりにおじいちゃんとおばあちゃんに会いました。とてもよろこんでくれたことが心にのこりました。

〈新しく習う漢字〉

注	等							
					湖			

# 70

題材名 「これがわたしのお気に入り」(第1時/全3時間)

目標 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。  
 ◎自分の考えとそれを支える理由の関係を明確にして、進んで書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、紹介する文章を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「これがわたしのお気に入り」を黒板に書く。 ② 単元の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">お気に入りのものをしょうかいする文章を書こう。</div> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・3回に分けて学習を進めることを伝える。1回目は、題材決めと文章の組み立てメモの作成を、2回目が、紹介文を書くことを、3回目が、読み合って、感想を伝え合う学習をすることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、単元で学ぶ学習内容をつかむ。
展開 35分	③ 紹介したいものを決めさせる。 「3年生になってから作った作品の中で、お気に入りのものを選びましょう。」 ・現地校に図工のような教科がある場合は、そこで作った作品の中から選ばせ、ない場合は、自宅にあるものから紹介したいものを選ばせてもよい。 ④ 組み立てメモを書かせる。 「ワークシートに、選んだ作品、作品の説明、紹介したい理由の3つのことについてメモを書こう。」 ・作品の説明には、使った材料、作り方、使い方等について記入させる。また、紹介したい理由には、2点ほど記入させる。	・紹介する作品を決める。 ・組み立てメモを書く。
終末 5分	⑤ 次時の学習内容を確認させる。 「次の時間は、お気に入りの作品を紹介する文章を書きます。」	・次時で学習することを確認する。

## 指導のポイント

### ○紹介文の指導について(1)

・本単元は、3年生の書く学習のまとめとして位置付けられている。そのため、本単元の学習が終わった時点で、4年教科書上巻 P6「三年生の学びをたしかめよう」に挙げられている8点の項目が定着しているよう、意識して指導したい。特に、内容のまとまりごとに段落を分けたり、書いたものを読み返し、まちがいがいや読みにくいところを直したりする所が不十分になりがちなので留意したい。

## 板書例

- ① 題材名「わたしのお気に入り」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 紹介したいものを決めさせる。  
「3年生になってから作った作品の中で、お気に入りのものを選びましょう。」
- ④ 組み立てメモを書かせる。  
「ワークシートに、選んだ作品、作品の説明、紹介したい理由の3つについて、メモを書こう。」

これがわたしのお気に入り

お気に入りのものをしようかいる文章を書こう。

今日の学習の進め方

- ① しようかいる作品をえらぶ。
- ② 文章を書くための、  
組み立てメモを書く。
  - (1) えらんだ作品
  - (2) 作品の説明
  - (3) しようかいる理由

- ⑤ 次時の学習内容を確認させる。

「次の時間は、お気に入りの作品を紹介する文章を書きます。」



これがわたしのお気に入り①

W  
70

めあて三年 組 名前)

(

(1) しようかいする作品をえらび、くわしく書き出しましょう。

<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 120px; height: 60px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 100px; height: 60px;"></div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 120px; height: 60px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 100px; height: 60px;"></div>
<div style="border: 3px double black; border-radius: 10px; width: 140px; height: 40px;"></div>	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 150px; height: 60px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 90px; height: 60px;"></div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 120px; height: 60px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; width: 150px; height: 60px;"></div>

(2) 組み立てにそつて、書きたいことをメモしましょう。

えらんだ作品

作品のせつめい

しようかいしたい理由

①

②

これがわたしのお気に入り① 〈記入例〉

めあて 三年 組 名前)

お気に入りのものをしようかいでする文章を書こう。

(1) しようかいでする作品をえらび、くわしく書き出しましょう。

The form consists of ten rounded rectangular boxes arranged in two columns. The left column has five boxes, and the right column has five boxes. The second box from the top in the right column is highlighted with a double border.

(2) 組み立てにそつて、書きたいことをメモしましょう。

えらんだ作品

図工で作った小物入れ

作品のせつめい

- ① 材料は、ペットボトルとねん土と絵の具
- ② えんぴつを入れるのに使っている。

しようかいたい理由

- ① きれいな色にしあげることができたから。
- ② 家の人から、とてもほめられたから。

# 7 1

題材名 「これがわたしのお気に入り」(第2時/全3時間)

目標 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。  
 ◎自分の考えとそれを支える理由の関係を明確にして、進んで書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、紹介する文章を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「これが、わたしのお気に入り」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 お気に入りのものをしょうかいする文章を書こう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時は、紹介文の組み立てを確かめから書き上げることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 35分	③ 組み立てメモに沿って、紹介文を書かせる。 「前の時間に書いた組み立てメモをもとに、紹介する文を書きましょう。」 ○ P112 の「しょうかいする文章のれい」を参考に書き進めさせる。横書きの文章は、上巻の「仕事のくふう、見つけたよ」の学習以来なので、必要に応じて横書きのポイントを復習してから書かせるのもよい。また、マス目の用紙があれば、今回も使用させたい。 ・書いた文章を読み返し、まちがいや読みにくい所を直させる。 ・絵や写真を入れても可とする。その際、レイアウトに留意させる。	・組み立てに沿って、紹介文を書く。
終末 5分	⑥ 次時の学習内容を確認させる。 「次の時間は、報告書をお互いに読み合って、感想を伝え合います。」	・次時で学習することを確認める。

## 指導のポイント

### ○紹介文の指導について(2)

・この時点の児童に求められている、文章を書くために必要な技能として、①漢字と仮名を適切に用いた表記②正しい送り仮名の付け方③改行の仕方④適切な句読点の表記⑤適切な文体の表記等と多くの技能がすでに求められている。補習授業校で学ぶ児童は、国内や日本人学校で学ぶ児童に比べると、圧倒的に日本語学習の時間が取れない状況にある。そのため、あれもこれもと指導の窓口を広げずに、「この時間は、これだけは身に付けさせたい。」とポイントを絞った指導になるように心掛けたい。

## 板書例

- ① 題材名「仕事のくふう、見つけたよ」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ 組み立てメモに沿って、紹介文を書かせる。

「前の時間に書いた組み立てメモをもとに、紹介する文を書きましょう。」

これがわたしのお気に入り

お気に入りのものをしょうかいする文章を書こう。

しょうかいする文章の組み立て

(1) 題名

(2) えらんだ作品

(3) 作品の説明

(4) しょうかいしたい理由

気をつけること

① 段落の分け方を考えて書く。

② わかりやすい説明をを考えて書く。

③ わかりやすい場所に絵や写真を入れる。

- ⑥ 次の学習内容を確認させる。

「次の時間は、報告書をお互いに読み合って、感想を伝え合います。」

これがわたしのお気に入り②

W  
71

めあて 三年 組 名前( )

題名

氏名

えらんだ作品

作品のせつめい

Blank writing area with vertical dashed lines.

しょうかいしたい理由

これがわたしのお気に入り② 〈記入例〉

W  
71

めあて 三年 組 名前（

お気に入りのお気に入りの作品をしようかいする文章を書こう。

**題名** 花もようが大こうひよう

**氏名**

**えらんだ作品**

わたしのお気に入りのお気への作品は、図工の時間に作った小物入れです。

**作品のせつめい**

絵の具をまぜたねん土を、ペットボトルにはって作りました。細長いので、えんぴつやペンを入れるのに使えます。

**しようかいしたい理由**

この作品をしようかいしたい理由は、二つあります。

一つは、（中略）

もう一つは、（以下省略）

## 72

題材名 「これがわたしのお気に入り」(第3時/全3時間)

目標 書こうとしたことが明確になっているかなど、分掌に対するかんそうや意見を伝え合い、自分の分掌のよいところを見つけることができる。

◎自分の考えとそれを支える理由の関係を明確にして、進んで書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、紹介する文章を書こうとすることができる。

領域等 B 書くこと

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「これがわたしのお気に入り」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。 <u>読み合って、感想を伝え合おう</u> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時は、読んで、お互いに感想を伝え合う学習をすることを確認する。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読み、本時の学習内容をつかむ。
展開 35分	③ 書いた文章をお互いに読み合わせ、感想を伝え合わせる。 「書き方で良かった点を伝えてください。また、紹介の内容について良かったことも伝えてください。」 ・読後の感想として、書き方と内容で良かった点の2点について伝え合わせる。 ・伝え方として、直接相手に伝える方法と、付箋紙等を書いて間接的に伝える方法がある。児童の実態に応じて適宜方法を選択する。	・書いた文章をお互いに読み合い、感想を伝え合う。
終末 5分	④ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。 ・「反」の読み書きの練習をさせる。 ⑤ 本単元の学習内容を確認させる。 「紹介する文章の書き方が分かりましたか。」	・「反」の読み書きの練習をさせる。 ・本単元で学習したことを確かめる。

### 指導のポイント

#### ○報告文の指導について(3)

・本時では、自分たちが書いた紹介文を読み合い、感想を伝え合う学習を行う。分かりやすい表現ができるようになるためにも、第三者からの感想を聞く活動は、とても大切な活動であると言える。自分の表現の仕方で良かったところに気付かせることで、児童の進んで表現しようとする意欲が高まるようにしたい。



## 板書例

- ① 題材名「これがわたしのお気に入り」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

③ 書いた文章をお互いに読み合わせ、感想を伝え合わせる。  
「書き方で良かった点を伝えてください。また、紹介の内容について良かったことも伝えてください。」

これがわたしのお気に入り

読み合って、感想を伝え合おう

感想を伝え合う

- ① ないようや書き方について、  
どう思ったのかつたえる
- ② 自分の書いた文章の感想を知ると。  
自分のよいところがよく分かる。

しようかいする文章を書くとき

- ① ないようのまとまりごとに  
つたえたいことを分ける。(段落)
- ② 分かりやすい絵やしんを使う。

〈新しく習う漢字〉

反対

- ④ 新出漢字の読み書きの練習をさせる。
- ⑤ 本単元の学習内容を確認させる。  
「紹介する文章の書き方が分かりましたか。」

これがわたしのお気に入り③

W  
72

三年 組 名前( )

めあて

--

(1) 感想をつたえ合いましょう。

■ 書き方について

■ ないようについて

〈新しく習う漢字〉

反

これがわたしのお気に入りに入り③ 〈記入例〉

W  
72

三年 組 名前( )

めあて

読み合って、感想をつたえ合おう。

① 感想をつたえ合しましょう。

■ 書き方について

理由を「一つは」「もう一つは」と書いていたのが分かりやすかつた。

■ ないようについて

家の人に使ってもらえて、高山さんがうれしく思っていることがつたわってきた。

〈新しく習う漢字〉

反

# 73

**題材名** 「コンピュータのローマ字入力」 (第1時/全1時間)  
**目標** 短歌を声を出して読むことで、言葉の調子や響きに親しむことができる。  
 ◎ 積極的に言葉の調子やリズムに親しみ、覚えて言うことができる。  
**領域名** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「コンピュータのローマ字入力」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">コンピュータにローマ字で入力してみよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。	・本時のめあてを知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展 開 35 分	③ コンピュータを立ち上げよう。 ・多くの補習授業校では、コンピュータを使うことができないので、入力の規則を学習して、宿題として家でローマ字を入力する。 ④ 教科書のローマ字入力の規則を読みながら、ワークシートにローマ字で書かせる。 ア ローマ字入力のやり方 イ ローマ字の書き方がふたつある場合「し」「ち」「ふ」 ウ 長音の入力のやり方 「ぢ」「づ」 エ 「を」「ん」の入力のやり方 オ 促音「っ」の入力のやり方 カ 漢字の入力のやり方 キ カタカナの入力のやり方 ・大文字のローマ字を習っていないので、大文字と小文字の対照表を準備しておくといよい。 ⑤ 家のコンピュータに入力して、印刷できればしてもらおう。	・教師の範読を聞く。 ・ワークシートにローマ字で書く。 ・家のコンピュータで練習をする。
終 末 5 分	⑥ 本時の学習を確認させる。 「コンピュータにローマ字を入力するやり方はわかりましたか」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- コンピュータの入力におけるローマ字は、あくまでも便宜的な手段であり、本来のローマ字とは違うので、児童が混乱しないように指導する。
- ローマ字入力をして、ひらがなを表示させてから、漢字に変換するという作業を知らせる。

板書例

- ① 題材名「コンピュータのローマ字入力」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。

- ③ コンピュータを立ち上げよう。
- ④ 教科書のローマ字入力の規則を読みながら、ワークシートにローマ字で書かせる。
  - ア ローマ字入力のやり方
  - イ ローマ字の書き方がふたつある場合「し」「ち」「ふ」
  - ウ 濁音の入力のやり方 「ぢ」「づ」
  - エ 「を」「ん」の入力のやり方
  - オ 促音「っ」の入力のやり方
  - カ 漢字の変換のやり方
  - キ カタカナの入力のやり方

板書例

コンピュータのローマ字入力

コンピュータにローマ字で入力してみよう

ー 入力のやりかた

ア ローマ字入力のやり方 A M E

イ ローマ字の書き方がふたつある場合「し」「ち」「ふ」

S I S H I T I C H I H U F U

S H A S Y A T Y A C Y A

ウ 濁音の入力のやり方 「ぢ」「づ」

D I D U

エ 「を」「ん」の入力のやり方

W O N N

オ 長音の入力のやりかた方 K U U K I

オ 促音「っ」の入力のやり方 K I P P U

カ 漢字の変換のやり方

ひらがな↓変換

キ カタカナの入力のやり方

- ⑥ 本時の学習を確認させる。  
「コンピュータにローマ字を入力するやり方はわかりましたか。」

# コンピュータのローマ字入力

三年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

## 1 コンピュータにローマ字入力してみましょう。

「あめ」→ AME

- ① 「し」「ち」「ふ」など、ローマ字での書き方が二つあるものはどちらの内方でも入力できます。

「し」→   「ち」→    
「ふ」→   「しゃ」→    
「ちゃ」→

- ② 「ぢ」「づ」「を」「ん」などは次のように打ちます。

「ぢ」→  「づ」→   
「を」→  「ん」→

- ③ のばす音は、平がなで書かれたとおりに打ちます。

「くうき」→

- ④ 「きっぷ」などの「っ」（つまる音）は、「っ」の次の音のはじめの文字を重ねていれます。

「きっぷ」→

- ▷ 次の言葉を、コンピュータに入力してみましょう。

ちらし  しゃかい   
はなぢ  ほんをかう   
こうつう  にっき

## 2 漢字やかたかなにへんかんしてみましょう

- ① 記者 帰社  ノート

- ▷ 次の言葉をコンピュータに入力して、へんかんしてみましょう。

クラス  ソース   
ジュース  電波   
勉強  放送   
記者 帰社

# コンピュータのローマ字入力

三年 組 氏名 ( )

今日の学習のめあて

## 1 コンピュータにローマ字入力してみましょう。

「あめ」→ AME

- ⑤ 「し」「ち」「ふ」など、ローマ字での書き方が二つあるものはどちらの内方でも入力できます。

「し」→   「ち」→

「ふ」→   「しゃ」→ SYA SHA

「ちゃ」→

- ⑥ 「ぢ」「づ」「を」「ん」などは次のように打ちます。

「ぢ」→  「づ」→

「を」→  「ん」→

- ⑦ のぼす音は、平がなで書かれたとおりに打ちます。

「くうき」→

- ⑧ 「きっぷ」などの「っ」(つまる音)は、「っ」の次の音のはじめの文字を重ねていれます。

「きっぷ」→

- ▷ 次の言葉を、コンピュータに入力してみましょう。

ちらし  しゃかい

はなぢ  ほんをかう

こうつう  にっき

## 2 漢字やかたかなにへんかんしてみましょう

- ② 記者 帰社  ノート

- ▷ 次の言葉をコンピュータに入力して、へんかんしてみましょう。

クラス  ソース

ジュース  電波

勉強  放送

記者 帰社

# 74

題材名 「わたしたちの学校じまん」(第1時/全3時間)

- 目標 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を  
考えることができる。
- ◎進んで言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意し、学習の見通しをもって、グループで練習  
し、発表しようとするすることができる。
- 領域等 A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「わたしたちの学校じまん」を黒板に書く。 ② 単元の学習の見通しをもたせる。 <u>グループごとに「〇〇のじまん発表会」をしよう。</u> ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本単元は、3回に分けて学習することを確認する。1回目が、グループごとに自慢したいことを決めて、発表するための準備をする。2回目が、グループで分担して発表原稿を作る。3回目が、発表会を開いて、学習をふりかえる。時間が限られているため、無理の無い範囲で取り組ませたい。	・単元の学習の見通しをもつ。
展開 35分	③ グループごとに自慢したいことを決めさせる。 「グループごとに自慢したいことを決めましょう。」 ・自分たちの補習授業校の中で、または、自分たちの住む現地の良いところから決めさせる。 ○ p117 を参考に発表する相手や場、目的等を決めさせる。それぞれの補習授業校の実情に合わせて、適宜、内容を変えたり、省略したりする。 ④グループごとに、理由を考えさせたり、資料を集めさせたりする。 「グループごとに自慢したい理由を出し合ひましょう。」 「発表で見せる資料を準備しましょう。」 ・相手があまりよく知らないものについては、丁寧に理由付けをしたり、相手が分かりやすい事例を挙げたりさせる。	・グループごとに自慢したいことを決める。 ・グループごとに、理由を考えたり、資料を集めたりする。
終末 5分	⑤ 次時の学習内容を確認させる。 「次の時間は、組み立てを考え、発表原稿を作ります。」	・次時で学習することを確認する。

## 指導のポイント

### ○ プレゼンテーションの初期指導について

- ・今回の学習活動は、児童が、これから進学や就職をした際、求められる能力の1つ、企画説明力の育成に深く繋がっている。指導が技能面だけに偏らずに、自分たちで伝えたいことを相手に伝える喜びが味わえるように指導したい。この喜びを味合わせるためにも、些細なことでもよいので、成功体験を積み重ねてあげたい。



## 板書例

- ① 題材名「わたしたちの学校じまん」を黒板に書く。
- ② 単元の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ グループごとに自慢したいことを決めさせる。  
「グループごとに自慢したいことを決めましょう。」
- ④ グループごとに、理由を考えさせたり、資料を集めさせたりする。  
「グループごとに自慢したい理由を出し合いましょう。」  
「発表で見せる資料を準備しましょう。」

わたしたちの学校じまん

グループごとに「〇〇のじまん発表会」をしよう。

今日の学習の進め方

- ① じまんしたいことを決める。
  - ・ 発表する場
  - ・ 発表すること
  - ・ 目的
  - ・ 相手
  - ・ 時間
  - ・ 場所
- ② 理由を考えて、しりょうを集める。

- ⑤ 次時の学習内容を確認させる。  
「次の時間は、組み立てを考え、発表原稿を作ります。」

わたしたちの学校じまん①

三年 組 名前( )

めあて

○グループで話し合い、発表のじゆんびをしましょう。

・発表する場：

・発表すること：

・目的：

・時間：

・場所：

・じまんしたいことと理由

①

②

・発表で見せるしりよう

①

②

三年 組 名前)

めあて

グループごとに「〇〇のじまん大会」をしよう。

○グループで話し合い、発表のじゆんびをしましょう。

・発表する場：学習発表会

・発表すること：学校のじまん

・目的：わたしたちの学校のよいところを知ってもらうため

・時間：一グループ三分いない

・場所：教室で

・じまんしたいことと理由

① すごしていて、とても気持がよい。

② そうじや手入れがきちんとされている。

・発表で見せるしりよう

① 広場の写真

②

# 75

題材名 「わたしたちの学校じまん」(第2時/全3時間)

- 目標 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を  
 考えることができる。  
 ◎進んで言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意し、学習の見通しをもって、グループで練習  
 し発表しようとする事ができる

領域等 A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「わたしたちの学校じまん」を黒板に書く。 ② 本時の学習の目標を知らせる。 「〇〇のじまん発表会」の原稿作りをしよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ・本時は、グループで分担して発表原稿を作ることを確認する。時間が限られているため、無理の無い範囲で取り組ませたい。	・本時の学習の目標を知る。
展開 35分	③ グループごとに発表原稿を作らせる。 「グループごとに、分担して発表原稿を作りましょう。」 ・p119の「発表のれい」を参考に、組み立てを考えさせ、分担させる。 ・発表の持ち時間内で収まる分量になるように支援する。 ○なるべく行間を空けて書かせる。行間のスペースを利用して、訂正や追加、話し方の工夫点を、可能な限り朱書きさせるとよい。	・グループごとに原稿を作る。
終末 5分	⑤ 次時の学習内容を確認させる。 「次の時間は、発表会を開き、感想を伝え合います。」	・次時で学習することを確認める。

## 指導のポイント

### ○ 発表原稿作りの指導について

- ・発表原稿は、通常の記事と異なり、読みやすさが第一に求められる。そのため、より一層の推敲作業が必要となる。3年生の「書く」に関する指導項目の1つ、「書いたものを読み返し、まちがいや読みにくいところを直す。」を身に付けさせるためにも、本時の学習でしっかりと取り組ませたい。

## 板書例

- ① 題材名「わたしたちの学校じまん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ グループごとに発表原稿を作らせる。

「グループごとに、分担して発表原稿を作りましょう。」

わたしたちの学校じまん

「〇〇のじまん発表会」の原稿作りをしよう。

今日の学習の進め方

- ① 組み立てを考える
  - ・はじめ(じまんしたいものとそのせつめい)
  - ・中(じまんしたい理由)
  - ・終わり(もういちどじまんしたいものをくりかえしてまとめる)
- ② 発表げんこうを作る
  - ・行と行のすきまをあけて書く。
  - ・赤字で、気をつけたいことや直したいところをつけたして書く。

- ⑤ 次時の学習内容を確認させる。

「次の時間は、発表会を開き、感想を伝えます。」

わたしたちの学校じまん②

めあて 三年 組 名前( )

( )

はじめ

( )

( )

中

( )

( )

終わり

( )

わたしたちの学校じまん② 〈記入例〉

W  
75

めあて 三年 組 名前)

「○○のじまん大会」のげんこうを書こう。

わたしたちがじまんしたいのは、「にこにこ広場」です。(中略)

はじめ

わたしたちが「にこにこ広場」をじまんしたい理由は、二つあります。

一つ目は、(中略)

じまんしたい一つ目の理由

中

二つ目は、(中略)

じまんしたい二つ目の理由

このように、(以下省略)

じまんしたいことをくり返す

終わり

※必要に応じて発表する時の注意点を朱書きさせる。

# 76

題材名 「わたしたちの学校じまん」(第3時/全3時間)

目標 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。  
 ◎進んで言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意し、学習の見通しをもって、グループで練習し発表しようとするすることができる。

領域等 A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「わたしたちの学校じまん」を黒板に書く。 ② 本時の学習の目標を知らせる。 「〇〇のじまん発表会」をしよう。 ・ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・本時の学習の目標を知る。
展開 35分	③ グループごとに発表の練習をさせる。 「グループごとに、発表の練習をしましょう。」 ○1、2回練習させる。その際、教室の広さや聞き手、発表のないように合わせて、声の強弱や速さ、調子、間の取り方、言葉づかいを工夫させたい。あれもこれも工夫させるのは、困難なので、児童の実態に応じて指導のポイントを取捨選択したい。 ・気づいたことを発表原稿に朱書きさせるとよい。 ④ グループごとに発表させる。 ・練習で、自分たちで直した点が1つでも改善されていたら、大いに賞賛して、児童のまた発表してみたいという意欲を高めたい。	・グループごとに発表の練習をする。 ・グループごとに発表する。
終末 5分	⑤ 新出漢字の読み書きを練習させる。 ・「速」の漢字の読み書きを練習させる。 ⑥本単元の学習内容を確認させる。 「発表の原稿の書き方や話し方の工夫が分かりましたか。」	・新出漢字の読み書きを練習する。 ・本単元で学習したことを確かめる。

## 指導のポイント

### ○ 話し方の指導について

・今回が、人前で話す活動を行う3年生の最後の単元となる。そのため、3年生の指導目標である①聞き手を見て、様子確かめながら話す②声の調子や強弱の気をつけて話す、の2点をしっかりとおさえて指導したい。



板書例

- ① 題材名「わたしたちの学校じまん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書いて児童に知らせる。

- ③ グループごとに発表の練習をさせる。  
「グループごとに、発表の練習をしましょう。」
- ④ グループごとに発表させる。

わたしたちの学校じまん

「〇〇のじまん発表会」をしよう。

今日の学習の進め方

- ① 発表会の練習をする
- ② 発表会をする。

■話し方のくふうのれい

- ・ つたえたいところは、強く言う。
- ・ 分かりにくい言葉は、せつめいしたり言いかえたりする。
- ・ とくに見てもらいたいところを指さしたりする。

〈新しく習う漢字〉

速さ

- ⑤ 新出漢字の読み書きを練習させる。
- ⑥ 本単元の学習内容を確認させる。  
「発表の原稿の書き方や話し方の工夫が分かりましたか。」





# 77

**題材名** 「モチモチの木」 (第1時/全4時間)

**目標** 場面ごとの登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや性格をとらえて読むことができる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「モチモチの木」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">はじめの感想を書こう</div> ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展 開 30 分	③ 「モチモチの木」という題名から想像したことを発表する。 「『モチモチの木』という題名からどんなことを思いましたか」 ④ 範読を聞かせる。 ・CDがあれば聞かせて、有効に活用する。 ⑤ 全文を音読させる。各自読み → 一斉読み ⑥ ⑥ 初めの感想を書かせる。 「感想をワークシートに書きましょう」 ・初発の感想なので、全体的なものよい。 ⑦ 感想を発表させる。 「感想を発表しましょう」	・「モチモチの木」という題名から想像したことを発表する。 ・先生の範読を聞く。 ・全文を音読する。 ・初めの感想を書く。 ・感想を発表する。
終 末 10 分	⑧ 語句の意味を確認させる。 「語句の意味を確かめましょう。」 ⑨ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる。 「新しい漢字を学習しましょう。」 ⑩ 本時の学習を確認させる 「はじめの感想が書けましたか」	・言葉の意味を確かめる。 ・新しい漢字を学習する。 ・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

### ○範読での留意点

- ・「モチモチの木」という題名から想像できる内容を自由に話し合わせた後、「モチモチの木」を範読する。その際、次のことに留意する。
  - (1) 範読後に心に残ったことや分からなかったことなどを話し合うことを始めに告げる。
  - (2) 分かりにくい言葉は説明を加えながら読む。
  - (3) 挿絵をたどっていくと、ある程度あらすじがとらえられるので、各挿絵が本文中のどの場面と対応しているかを児童に尋ねながら読む。

## 板書例

- ① 題材名「モチモチの木」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 「モチモチの木」という題名から想像したことを発表させる。  
『モチモチの木』という題名からどんなことを思いましたか
- ④ 範読を聞かせる。

- ⑤ 全文を音読させる。  
各自読み → 一斉読み
- ⑥ 初めの感想を書かせる。  
「感想をワークシートに書きましょう」
- ⑦ 感想を発表させる。  
「感想を発表しましょう」

## 板書例

神  
箱  
湯

〈新しく習う漢字〉

おくびよう ……小さなことにもこわがって、  
びくびくすること。  
ぐっすり ……よく眠っている様子。  
きもちひやす ……驚いてぞっとする様子。  
さいそくする ……せかせること。  
みつともない ……恥ずかしくて、見せられない。  
灯がともる ……あかりがつく。  
歯を食いしぼる ……じつとがまんすること。

〈言葉の意味〉

・弱虫だった豆太が医者様をよびに行ったのが  
すごいと思った。  
・モチモチの木を見た豆太はどんな気持ちだっ  
たのかな。

はじめの感想

はじめの感想を書こう

モチモチの木

- ⑧ 語句の意味を確認させる。  
「語句の意味を確かめましょう。」
- ⑨ 新出漢字・読み替えの漢字を学習させる。  
「新しい漢字を学習しましょう。」

- ⑩ 本時の学習を確認させる。  
「はじめの感想が書けましたか」





# 78

**題材名** 「モチモチの木」 (第2時/全4時間)  
**目標** 場面ごとの登場人物の気持ち考えて読むことができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「モチモチの木」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる 場面ごとにあらすじをまとめていねいに読もう ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ 場面ごとに小見出しをつけ、あらすじをまとめさせる 「場面ごとに小見出しをつけ、あらすじをまとめましょう」 ・「ちいちゃんのかげおくり」の学習を思い起こさせ、小見出しやあらすじをつかませる。 ・あらすじをつかんでいく活動を通して、内容を読み取らせる。 ④ 登場人物の気持ちを考えながら音読させる。 「豆太やじさまの気持ちを考えながら音読しましょう」	・場面ごとに小見出しをつけ、あらすじをまとめる。 ・登場人物の気持ちを考えながら音読する。
終 5 分	⑤ 本時の学習を確認させる 「場面ごとにあらすじをまとめていねいに読むことができましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

### ○構成について

- ・「モチモチの木」の構成上の特徴は、五つの場面が小見出し付きで明確に分けられていることにある。第三場面「霜月二十日のぼん」からは、一連の流れであるが、その前の二場面は、この物語の状況設定、つまり布石とでもいふべきものである。この前半の二場面で、豆太・じさま・モチモチの木の人物像、および、その関係を児童一人一人がどれくらい具体的にイメージできるかが、その後の展開の理解を大きく左右してくる。これまでの三年生の学習で経験してきた読み取りの方法を活用して、叙述を丁寧に読むことを確認しながら読み進められるように、児童を支援していくことが大切である。

### ○主題について

- ・以下はこの作品の主題について触れた文献から引用したものである。

斎藤隆介の創作民話の特色として第一にあげられるのは、その作品の根底に一貫して流れている、人間としてのやさしさ、献身の美しさである。この「モチモチの木」もその一つで、日ごろ臆病な主人公豆太が、大好きなじさまのために、思いもかけぬ勇気を奮い起し、思いもかけぬことをやり遂げる話である。「人間、やさしささえあれば、やらないやならねえことは、きっとやるもんだ。」というじさまの言葉に凝縮して描かれているが、読み手は、幼い豆太の驚くばかりの行動を通して、人間の可能性というものに目をみはり、そして、本当のやさしさとは何か、ということについて考えさせられるのである。この作品から受ける児童の感想を大切にしながら、三年生なりに人間の生き方を考えさせていくようにしたい。

(『国語教材研究大辞典』国語教育研究所編 明治図書)



板書例

- ① 題材名「モチモチの木」を黒板に書く。② 本時の目標を児童に知らせる。  
・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 場面ごとに見出しをつけ、あらすじをまとめさせる  
「場面ごとに、あらすじをまとめましょう」  
④ 登場人物のの気持ちを考えながら音読させる。  
「豆太やじさまの気持ちを考えながら音読しましょう」

板書例

豆太やじさまの気持ちを考えながら音読しよう。	五	弱虫でも、 やましけり	元氣になったじさまは、豆太に、やましさまえあれば、やらなければいけないことはきつとあるものだ、と話した。
	四	豆太は見た	夜中にじさまがはらいたになったので、豆太は勇氣を出して医者様を呼びに行った。その帰りに豆太はモチモチの木の灯を見た。
	三	霜月二十日 のぼん	今夜はモチモチの木に灯がともるが、勇氣のある一人の子どものしか見ることができないので、豆太ははじめからあきらめていた。
	二	やい、木い	豆太は昼間はモチモチの木に「美しい落とせえ。」といばっているけど、夜になると、木の方を見るだけで、しよんべんもでなくなってしまう。
	一	おくびよう 豆太	豆太はおくびようで、夜中に一人でせつちんにも行けずに、じさまについていってもらっている。おとうは死んでじさまと二人でくらしている。
場面	小見出し	あらすじ	場面ごとにあらすじをまとめよう

モチモチの木  
 場面ごとにあらすじをまとめていねいに読もう

- ⑤ 本時の学習を確認させる。  
「場面ごとにあらすじをまとめていねいに読むことができましたか」

# モチモチの木2

三年 組 名前

めあて

--

組

## 場面ごとにあらすじをまとめてみる

場面	小見出し	あらすじ
一		
二		
三		
四		
五		

# モチモチの木2

教材見本

三年 組 名前

めあて

場面ごとにあらすじをまとめていねいに  
読もう

面ごとにあらすじをまとめよう

場面	小見出し	あらすじ
一	おくび よう	豆太はおくびようで、夜中に一人でせつちんにも行けずに、じさまについていってもらっている。おとうは死んでじさまと二人でくらしている。
二	やい、 木い	豆太は昼間はモチモチの木に「寒い落とせえ。」といばっているけど、夜になると、木の方を見るだけで、しょんべんもでなくなってしまう。
三	霜月二 十日の ばん	今夜はモチモチの木に灯がともるが、勇気のある一人の子どもしか見ることができないので、豆太ははじめからあきらめていた。
四	豆太は 見た	夜中にじさまがはらいたになったので、豆太は勇気を出して医者様を呼びに行った。その帰りに豆太はモチモチの木の灯を見た。
五	弱虫で も、やさし けりゃ	元気になったじさまは、豆太に、やさしささえあれば、やらなければいけないことはきつとやるものだ、と話した。

題材名 「モチモチの木」 (第3時/全4時間)

目標 場面ごとの登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや性格をとらえて読むことができる。

領域名 C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「モチモチの木」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">豆太のせいかくやじさまの豆太に対する気持ちを読み取ろう</div> ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展 開 35 分	③ 第1場面、第2場面を音読させる。各自読み → 一斉読み ④ 豆太の性格やじさまの豆太に対する気持ちを読みとらせる。 ・「豆太はどんな性格ですか。また、それが分かるところはどこですか。」 ・「そんな豆太をじさまはどう思っていますか。」 ・「モチモチの木はどんな木ですか。また、そう名付けたのは誰ですか。」 ⑤ 第3場面、第4場面を音読させる。各自読み → 一斉読み 「『ま、豆太、心配すんな。じさまは、じさまは、ちょっとはらがいてえだけだ』と言ったとき、じさまはどんな気持ちでしたか。」 ・「豆太が見た不思議なもの二つとは何ですか。」	・第1場面、第2場面を音読する。 ・豆太の性格について読み取る。 ・じさまの豆太に対する気持ちを読み取る。 ・モチモチの木について読み取る。 ・第3場面、第4場面を音読する。 ・じさまの気持ちを読み取る。 ・豆太が見たものを読み取る。
終 5 分	⑥ 本時の学習を確認させる 「モチモチの木に灯がついたのを見た豆太の気持ちを読み取れましたか」	・本時の学習を確認する。

### 指導のポイント

○第一場面「おくびょう豆太」の読み取り

・一年間に取り組んできた物語の読み取りの方法をできるかぎり活用して読ませる。

・豆太とじさまの様子が分かるところに線を引かせ、線を引いたところを発表させる。その祭、会話文・ダッシュ(一)・語り手の語り方に気をつけて読むようにさせる。

○第二場面「やい、木い」の読み取り

・モチモチの木と豆太・じさまの関係が分かるところを見つけて線を引かせ、発表させる。

○第三場面「霜月二十日のばん」の読み取り

・山の神様の祭りについて、じさまが思っていることと豆太が思っていることが分かる部分に線を引かせる。

○第四場面「豆太は見た」の読み取り

・医者さまを呼びに走る豆太の様子や気もちが分かるところに線を引かせ、豆太がどんな気持ちだったか発表させる。

・どうげ道を上る医者さまと豆太の様子が分かるところ、また、豆太の気持ちがわかるところに線を引かせ、発表させる。

# 板書例

領域等 C 読むこと

- ① 題材名「モチモチの木」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 第1場面、第2場面を音読させる。  
各自読み → 一斉読み

- ④ 豆太の性格やじいさまの豆太に対する気持ちを読みとらせる。  
「豆太はどんな性格ですか。また、それが分かるところはどこですか。」  
「そんな豆太をじいさまはどう思っていますか。」  
「モチモチの木はどんな木ですか。また、そう名付けたのは誰ですか。」

「じいさまから、木に灯がともる話を聞いた豆太は、どう思いましたか。」  
「『ま、豆太、心配すんな。じいさまは、じいさまは、ちょっとはらがいてえだけだ』と言ったとき、じいさまはどんな気持ちでしたか。」  
「『ねまきのまんま。はだしで』という様子から、豆太のどんな気持ちがわかりますか。」  
「豆太が見た不思議なもの二つとは何ですか。」

板書例

モチモチの木

豆太のせいにかくやじいさまの豆太に対する気持ちを読み取ろう

(第一、二場面)

豆太はどんなせいにかくだろう

じいさまは豆太をどう思っているだろう

モチモチの木はどんな木だろう

(第三、四場面)

木に灯がともる話を聞いた豆太

「ま、豆太、心配すんな。じいさまは、じいさまは、ちょっとはらがいてえだけだ。」

ねまきのまんま。はだしで

豆太が見た不思議なもの二つ

- ⑤ 本時の学習を確認させる。  
「豆太のせいにかくやじいさまの豆太に対する気持ちが読み取れましたか」

# モチモチの木3

三年 組 名前

めあて

(第五場面)

豆太はどんなせいかくだろう

---

---

じいちは豆太をどうおもっているだろう

---

---

モチモチの木はどんな木だろう

---

---

じいちはどんな気持ちだろう

---

---

豆太が見たふしぎなふたつのものはなんだろう

---

---

---

---

# モチモチの木5

教材見本

三年 組 名前

めあて

「豆太らしき」や「じさまらしき」がよく  
分かる場面を音読しよう

(第五場面)

じさまの言葉の意味を考えよう。

じさまの言葉の意味を考え、豆太に手紙を書こう。

# 80

**題材名** 「モチモチの木」 (第4時/全4時間)  
**目標** 登場人物の性格や人柄がよく分かるように音読することができる。  
**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「モチモチの木」を黒板に書く。 ② 本時の目標を児童に知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             「豆太らしさ」や「じさまらしさ」がよく分かる場面を音読しよう           </div> ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。	・本時のめあてを知る。
展開 35分	③ 第5場面を音読させる。 各自読み → 一斉読み ④ じさまの言葉の意味を考え、豆太に手紙を書かせる。 「じさまの話を聞いても、また、しょんべんにじさまを起こす豆太に手紙を書きましょう。」 ・じさまの励ましの言葉を聞いた豆太の気持ちを想像させたい ⑤ 登場人物の性格や人柄がよく分かる場面を選び、音読(発表会)をさせる。 「『豆太らしさ』や『じさまらしさ』がよく分かる場面を選び、音読発表会をしましょう。」 ・三年生の音読学習のまとめとして読ませる。	・第5場面を音読する。 ・じさまの言葉の意味を考える。 ・豆太に手紙を書く。 ・音読発表会をする。
終末 5分	⑥ 本時の学習を確認させる 「『豆太らしさ』や『じさまらしさ』がよく分かる場面を音読できましたか」	・本時の学習を確認する。

## 指導のポイント

- 第五場面「弱虫でも、やさしけりゃ」の読み取り
  - ・じさまの言う「やさしさ」と「やらかなきゃならねえこと」が、豆太の具体的な行動の何と結びついているのか考えさせ、じさまがこの言葉に託した思いを読み取らせる。
  - ・「弱虫でも、やさしけりゃ」の後に、どんな言葉が続くかを考えさせてもよいだろう。

斎藤隆介

1917 (大正6)年～1985 (昭和60)年。東京都出身。児童文学作家。雑誌、新聞記者を経て、戦後、NHK 秋田放送局の台本を執筆。このころ、版画家滝平二郎と知り合う。58年帰京後、処女童話集「ペロ出しチョンマ」(67年、理論社)で小学館文学賞を受賞。滝平二郎と組んだ絵本「八郎」(67年、福音館書店)、「花さき山」(69年、岩崎書店)、その他長編「ゆき」(69年、講談社)などがある。



## 板書例

- ① 題材名「モチモチの木」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 第5場面を音読させる。  
各自読み → 一斉読み

- ④ じさまの言葉の意味を考え、豆太に手紙を書かせる。  
「じさまの話聞いても、また、しょんべんにじさまを起こす豆太に手紙を書きましょう。」
- ⑤ 登場人物の性格や人柄がよく分かる場面を選び、音読(発表会)をさせる。  
『豆太らしさ』や『じさまらしさ』がよく分かる場面を選び、音読発表会をしましょう。」

## 板書例

モチモチの木

「豆太らしさ」や「じさまらしさ」がよく分かる場面を音読しよう

(第五場面)  
じさまの言葉の意味を考えよう。

じさまの言葉の意味を考え、豆太に手紙を書こう。

「豆太らしさ」や「じさまらしさ」がよく分かる場面を選び、音読発表会をしよう。

- ⑥ 本時の学習を確認させる。  
『豆太らしさ』や『じさまらしさ』がよく分かる場面を音読できましたか」

# モチモチの木 4

二年 組 名前

めあて

(第五場面)

じいさんの言葉の意味を考えよう。

---

---

---

---

じいさんの言葉の意味を考え、豆太に手紙を書こう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

# モチモチの木 4

教材見本

三年 組 名前

めあて

「豆太らしき」や「じぢまらしき」がよく分かる場面を音読しよう

(第五場面)

じぢまの言葉の意味を考えよう。

じぢまの言葉の意味を考え、豆太に手紙を書こう。